

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7671349号
(P7671349)

(45)発行日 令和7年5月1日(2025.5.1)

(24)登録日 令和7年4月22日(2025.4.22)

(51)国際特許分類	F I			
B 6 5 D 43/22 (2006.01)	B 6 5 D 43/22	1 0 0		
B 6 5 D 25/28 (2006.01)	B 6 5 D 25/28	1 0 3 B		
A 4 5 C 5/03 (2006.01)	A 4 5 C 5/03			
A 4 5 C 13/00 (2006.01)	A 4 5 C 13/00	A		
請求項の数 10 (全69頁)				

(21)出願番号	特願2023-534014(P2023-534014)	(73)特許権者	515284526
(86)(22)出願日	令和3年12月16日(2021.12.16)		イエティ クーラーズ エルエルシー
(65)公表番号	特表2024-504554(P2024-504554 A)		Yeti Coolers, LLC
(43)公表日	令和6年2月1日(2024.2.1)		アメリカ合衆国 7 8 7 3 5 テキサス州
(86)国際出願番号	PCT/US2021/063684		オースティン サウスウェストパークウ
(87)国際公開番号	WO2022/133017		エイ 7 6 0 1
(87)国際公開日	令和4年6月23日(2022.6.23)		7 6 0 1 Southwest Park
審査請求日	令和5年6月29日(2023.6.29)		way, Austin TX 7 8 7 3 5
(31)優先権主張番号	17/123,746	(74)代理人	100073184
(32)優先日	令和2年12月16日(2020.12.16)		弁理士 柳田 征史
(33)優先権主張国・地域又は機関	米国(US)	(74)代理人	100175042
			弁理士 高橋 秀明
		(74)代理人	100224775
			弁理士 南 毅
最終頁に続く			

(54)【発明の名称】 容器及びラッチシステム

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ベースであって、

第 1 の側面と、前記第 1 の側面の反対側の第 2 の側面とを有し、第 1 の端部及び第 2 の端部を有する側壁構造と、

前記側壁構造の第 1 の端部に接続される底部と、

前記第 1 の端部の反対側の前記側壁構造の前記第 2 の端部に形成され、前記側壁構造と前記底部とによって形成された容器の内部空隙へのアクセスを可能にするように構成される開口と、

前記側壁構造から延在するラッチキーパであって、上面、内面、及び下面を有するラッチキーパと、

を含む、ベースと、

開放形態及び閉鎖形態を有し、前記容器が前記閉鎖形態にあるときに前記側壁構造の前記第 2 の端部に形成された前記開口を覆うように構成される蓋と、

ロック位置及びロック解除位置を有するラッチアセンブリであって、

前記蓋と回動可能に係合されるラッチ本体と、

前記ラッチ本体と摺動可能に係合されるロック部材であって、前記ロック部材は、少なくとも第 1 の位置と第 2 の位置との間で摺動可能であり、前記ロック部材が前記第 1 の位置にあるときに前記蓋を前記閉鎖形態でロックするように構成されるとともに、前記ロック部材が前記第 2 の位置にあるときに前記蓋をロック解除するように構成されるロック

部材と、

前記ラッチ本体及び前記ロック部材と係合され、前記第 1 の位置において前記ロック部材を付勢する少なくとも 1 つの付勢部材と、

前記ラッチ本体と係合されるとともに、前記ロック部材を前記第 1 の位置から前記第 2 の位置に移動させるように構成され、互いに離間される複数の隆起部を有する作動バレルを備える、作動部材と

を備える、ラッチアセンブリと
を備え、

前記ラッチアセンブリが前記ロック位置にあるときに、前記ロック部材のフック部が前記ラッチキーバと係合する、容器。

10

【請求項 2】

前記少なくとも 1 つの付勢部材は、前記複数の隆起部間に横方向で位置決めされる、請求項 1 に記載の容器。

【請求項 3】

前記少なくとも 1 つの付勢部材は、前記複数の隆起部間に横方向で位置決めされる 2 つの付勢部材を備える、請求項 1 に記載の容器。

【請求項 4】

前記ロック部材は、前記作動バレルの前記複数の隆起部のうちの 1 つの隆起部と接触する少なくとも 1 つの係合部材を有する、請求項 1 に記載の容器。

【請求項 5】

20

前記少なくとも 1 つの係合部材は、互いに離間して前記 2 つの係合部材間に開口を形成する 2 つの係合部材を備える、請求項 4 に記載の容器。

【請求項 6】

前記複数の隆起部の各隆起部が実質的に三角形の形状を有する、請求項 1 に記載の容器。

【請求項 7】

前記容器が第 2 のラッチアセンブリを含み、前記第 2 のラッチアセンブリが前記ラッチアセンブリとして前記容器の反対側に位置される、請求項 1 に記載の容器。

【請求項 8】

前記容器が第 2 のラッチアセンブリを含み、前記第 2 のラッチアセンブリは、前記ラッチアセンブリとして前記容器の隣接する側に位置される、請求項 1 に記載の容器。

30

【請求項 9】

前記側壁構造の第 3 の側面に取り付けられたストラップハンドルを更に備え、前記第 3 の側面は前記第 1 の側面と前記第 2 の側面との間に延在し、前記ストラップハンドルはストラップ部分及びキャリーハンドルを含む、請求項 1 に記載の容器。

【請求項 10】

前記ストラップ部分は、ピンを受け入れるための開口を形成する重なり領域を有し、
前記ピンは、前記ストラップ部分の前記開口を通して延在するとともに、ハンドルの端部に配置され当該ハンドルの一部を構成するクレビス部分に受け入れられ、前記ハンドルは、前記側壁構造の前記第 3 の側面に位置される、請求項 9 に記載の容器。

【発明の詳細な説明】

40

【技術分野】

【0001】

この出願は、2020 年 12 月 16 日に出願された米国特許出願第 17 / 123 , 746 号の優先権を主張する。米国特許出願第 17 / 123 , 746 号は、2017 年 6 月 12 日に出願された米国仮特許出願第 62 / 518 , 358 号に対する優先権を主張する、2018 年 6 月 12 日に出願された米国特許出願第 16 / 006 , 344 号の一部継続出願である、2020 年 3 月 24 日に出願された米国特許出願第 16 / 828 , 282 号の一部継続出願である。また、この出願は、2019 年 1 月 6 日に出願された米国仮特許出願第 62 / 788 , 886 号及び 2019 年 1 月 6 日に出願された米国仮特許出願第 62 / 788 , 888 号に対する優先権を主張する、2020 年 1 月 6 日に出願された米国特

50

許出願第 16 / 735 , 013 号の一部継続出願である、2020 年 4 月 3 日に出願された米国特許出願第 16 / 839 , 311 号の一部継続出願でもある。また、米国特許出願第 16 / 839 , 311 号は、2019 年 4 月 5 日に出願された米国仮特許出願第 62 / 830 , 203 号に対する優先権も主張する。上記で言及した出願の全ては、それらの全体が参照により本願に組み入れられる。

【背景技術】

【0002】

背景

様々なタイプの容器及びラッチシステムが存在する。容器は、食品、飲料、及び他の材料又は物品に使用することができる。ラッチシステムは、容器を閉鎖形態でロックするために存在する。しかしながら、従来の容器及びラッチシステムは、あまり耐久性がなく、使用が容易ではない場合がある。例えば、容器は、特定の物品を保持するのに十分な強さでない場合があり、容器の上に物品を保持するのに十分な強さでない場合がある。更に、幾つかのラッチシステムは、ユーザがシステムを係合させたくないときに係合する場合があり、他の場合には、容器との間で十分なロックをもたらない場合がある。そのような構成において、これら及び他の欠陥は、容器及び／又はラッチシステムを実質的に役に立たなくする場合がある。

【発明の概要】

【0003】

簡単な概要

この概要は、詳細な説明で以下に更に説明される概念の選択を簡略化した形で紹介するために提供される。概要は、特許請求の範囲に記載される主題の主要な特徴又は本質的な特徴を特定することを意図していないだけでなく、特許請求の範囲に記載される主題の範囲を限定するために使用されることも意図していない。

【0004】

この開示の一態様は容器に関し得、該容器は、(a) ベースであって、(1) 第 1 の側面と、第 1 の側面の反対側の第 2 の側面とを有するとともに、第 1 の端部及び第 2 の端部を有する側壁構造と、(2) 側壁構造の第 1 の端部に接続される底部と、(3) 第 1 の端部とは反対側の側壁構造の第 2 の端部に形成され、側壁構造と底部とによって形成される容器の内部空隙へのアクセスを可能にするように構成される開口と、(4) 側壁構造から延在するとともに、上面、内面、及び下面を有するラッチキーパを含む、ベースと、(b) 開放形態及び閉鎖形態を有し、容器が閉鎖形態にあるときに側壁構造の第 2 の端部に形成される開口を覆うように構成される蓋と、(c) ロック位置及びロック解除位置を有するラッチアセンブリとを備える。ラッチアセンブリは、(1) 蓋と回動可能に係合されるラッチ本体と、(2) ラッチ本体と摺動可能に係合されるロック部材であって、ロック部材は、少なくとも第 1 の位置と第 2 の位置との間で摺動可能であり、ロック部材が第 1 の位置にあるときに蓋を閉鎖形態にロックするように構成されるとともに、ロック部材が第 2 の位置にあるときに蓋をロック解除するように構成されるロック部材と、(3) ラッチ本体及びロック部材と係合され、ロック部材を第 1 の位置に付勢する少なくとも 1 つの付勢部材と、(4) ラッチ本体と係合され、ロック部材を第 1 の位置から第 2 の位置に移動させるように構成されるとともに、互いに離間される複数の隆起部を有する作動バレルを備える作動部材とを備えることができる。ロック部材のフック部は、ラッチアセンブリがロック位置にあるときにラッチキーパと係合することができる。少なくとも 1 つの付勢部材は、複数の隆起部間に横方向で位置決めされ得る。幾つかの例において、少なくとも 1 つの付勢部材は、複数の隆起部間に横方向で位置決めされる 2 つの付勢部材を含むことができる。ロック部材は、作動バレルの複数の隆起部のうちの 1 つの隆起部と接触する少なくとも 1 つの係合部材を有することができる。更に、少なくとも 1 つの係合部材は、互いに離間されて 2 つの係合部材間に開口を形成する 2 つの係合部材を含むことができる。複数の隆起部のそれぞれの隆起部は、略三角形を有していてもよい。幾つかの実施形態では、容器が第 2 のラッチアセンブリを含んでもよく、第 2 のラッチアセンブリは、ラッ

チアセンブリとして容器の反対側に位置決めされてもよい。他の選択肢として、容器が第2のラッチアセンブリを含んでもよく、第2のラッチアセンブリは、ラッチアセンブリとして容器の隣接する側に位置決めされてもよい。

【0005】

本開示の更なる態様は容器に関し得、該容器は、(a)ベースであって、(1)第1の側面と、第1の側面の反対側の第2の側面と、第1の側面と第2の側面との間の第3の側面と、第3の側面の反対側の第4の側面とを有するとともに、第1の端部及び第2の端部を有する側壁構造と、(2)側壁構造の第1の端部に接続される底部と、(3)第1の端部とは反対側の側壁構造の第2の端部に形成され、側壁構造と底部とによって形成された容器の内部空隙へのアクセスを可能にするように構成される開口と、(4)側壁構造の第2の側面から延在する第1のラッチキーパと、(5)第1のラッチキーパの前面を越えて外向きに延在する側壁構造の第2の側面上のキックアウトリブと、(6)側壁構造の第3の側面から延在し、上面、内面、及び下面を有する第2のラッチキーパを含む、ベースと、(b)ヒンジによってベースに回動可能に接続され、開放形態及び閉鎖形態を有する蓋とを備える。蓋は、容器が閉鎖形態にあるときに側壁構造の第2の端部に形成される開口を覆うように構成されてもよい。蓋は、第1のラッチアセンブリ及び第2のラッチアセンブリを含む複数のラッチアセンブリを有することができ、第1のラッチアセンブリ及び第2のラッチアセンブリはそれぞれロック位置及びロック解除位置を有する。第1のラッチアセンブリは、第1のラッチアセンブリがロック位置にあるときに第1のラッチキーパと係合し得る。蓋が開位置から閉位置に移動されているとき、キックアウトリブは、蓋が開放形態から閉鎖形態に移動するときに第1のラッチアセンブリが結合しないように第1のラッチアセンブリをベースから押し離すことができる。キックアウトリブは、側壁構造から外向き下方に延在する上側傾斜面と、上側傾斜面に向かって収束する下側傾斜面とを有してもよい。丸みを帯びた縁部が、上側傾斜面と下側傾斜面との間に延びてもよい。蓋が閉鎖形態にあるとき、キックアウトリブは、側壁構造の第1の隆起部と第1のラッチアセンブリとの間に嵌合することができる。また、ベースは、第1のラッチキーパの第1の端部に隣接して配置される第1の傾斜面と、第1のラッチキーパの第2の端部に配置される第2の傾斜面とを含んでもよい。キックアウトリブは、第1の傾斜面から延在する第1のキックアウトリブと、第2の傾斜面から延在する第2のキックアウトリブとを備える。

【0006】

本開示の他の態様は容器に関し得、該容器は、(a)ベースであって、(1)第1の側面と、第1の側面の反対側の第2の側面とを有するとともに、第1の端部及び第2の端部を有する側壁構造と、(2)側壁構造の第1の端部に接続される底部と、(3)第1の端部とは反対側の側壁構造の第2の端部に形成され、側壁構造と底部とによって形成された容器の内部空隙へのアクセスを可能にするように構成される開口と、(4)側壁構造の第2の側面に接続される一対のホイールと、(5)側壁構造の第1の側面に接続されるプルハンドルアセンブリとを含む、ベースと、(b)ベースに接続され、開放形態及び閉鎖形態を有する蓋とを備える。蓋は、容器が閉鎖形態にあるときに側壁構造の第2の端部に形成される開口を覆うように構成されてもよい。プルハンドルアセンブリは、(1)側壁構造の第1の側面に回動可能に取り付けられたプルハンドルと、(2)プルハンドルに回動可能に取り付けられた一次ヒンジプレートと、(3)一次ヒンジプレート及び第1の側面に回動可能に取り付けられた二次ヒンジプレートとを含むことができる。プルハンドルアセンブリは、ユーザが容器を引くことができるようにする拡張形態と、入れ子形態とを有することができる。プルハンドルは、入れ子形態で側壁構造の第1の側面の凹部内に位置されてもよい。プルハンドルアセンブリが入れ子形態にあるとき、プルハンドルの上面は、第1の側面の外向きの面と実質的に平行に配置されてもよい。プルハンドルは、側壁構造の第1の側面に回動可能に接続される第1のハンドル端部と、第1のハンドル端部の反対側の第2のハンドル端部と、第1のハンドル端部と第2のハンドル端部との間で延在するプルハンドル本体とを含むことができる。一次ヒンジプレートは、第2のハンドル端部よりもプルハンドル本体の第1のハンドル端部に近い位置でプルハンドル本体に回動可能

に接続されてもよい。更に、プルハンドルアセンブリが入れ子形態にあるとき、二次ヒンジプレートは、プルハンドルと側壁構造の第１の側面との間に位置されてもよく、二次ヒンジプレートは、一次ヒンジプレートと側壁構造の第１の側面との間に位置されてもよい。更に、プルハンドルアセンブリが入れ子形態にあるとき、二次ヒンジプレート及び一次ヒンジプレートは、プルハンドルの上面と実質的に平行であってもよい。側壁構造は、第１の側面と第２の側面との間で延びる第３の側面と、第３の側面の反対側の第４の側面とを含むことができ、第３の側面は一对のトラックを含み、一对のトラックの各トラックが中空キャビティを含む。また、側壁構造は、第１の側面と第２の側面との間で延在する第３の側面と、第３の側面の反対側の第４の側面であってもよく、第１の角部が第１の側面と第３の側面との交差部に形成され、第１の角部支持体が第１の角部から内側に延在してもよい。第１の角部支持体が中空キャビティを含むことができる。

10

【０００７】

本開示の更なる態様は容器に関し得、該容器は、（ａ）ベースであって、（１）第１の側面と、第１の側面の反対側の第２の側面とを有するとともに、第１の端部及び第２の端部を有する側壁構造と、（２）側壁構造の第１の端部に接続される底部と、（３）第１の端部とは反対側の側壁構造の第２の端部に形成され、側壁構造と底部とによって形成された容器の内部空隙へのアクセスを可能にするように構成される開口とを含む、ベースと、（ｂ）ベースに接続され、開放形態及び閉鎖形態を有する蓋とを備える。蓋は、容器が閉鎖形態にあるときに側壁構造の第２の端部に形成される開口を覆うように構成されてもよい。蓋支持部材が蓋に取り付けられてもよく、蓋支持部材は、（１）前面と前面の反対側の後面を有する一次壁と、（２）一次壁に接続する外周壁と、（３）一次壁を貫通して延在して物品を蓋支持部材に固定するためのストラップを受けるように構成される複数の開口とを含んでもよい。一次壁は、複数の位置で蓋の内面と接触してもよく、外周壁は、複数の位置で蓋の内面と接触してもよい。他の選択肢として、容器は、ベースと蓋支持部材との間で延在する蓋ステイロッドアセンブリを含んでもよく、蓋ステイロッドアセンブリは、ベースに回転可能に取り付けられるとともに、蓋支持部材に回転可能に取り付けられてもよい。蓋が完全開放形態にあるとき、蓋ステイロッドアセンブリは、蓋が閉じるのを防止することができる。幾つかの例において、蓋支持部材は、（１）略垂直な向きで互いに交差する複数の前リブから形成される格子状の前面と、（２）前面の反対側の後面とを含んでもよく、後面の一部が蓋の内面と接触する。複数の前リブの大部分が開口を有する。後面は、格子状の形状を有してもよく、ほぼ垂直な向きで互いに交差する複数の後リブから形成されてもよい。蓋支持部材は、複数の細長い開口のそれぞれの細長い開口の背後に延びる開口支持リブを更に含むことができる。蓋支持部材は、前面と後面との間に位置決めされる複数の接続部材を更に備えてもよく、各接続部材は、複数の前リブのうちの隣接する前リブに接続してそれらの隣接する前リブ間で延在する。

20

30

【０００８】

この開示の態様は、容器を持ち上げるためのストラップに関し得、ストラップは、第１の端部と、第１の端部の反対側の第２の端部と、第１の端部と第２の端部との間で延在する長尺部材とを有するベース部材を含む。ベース部材は、繊維材料から形成されてもよい。ストラップは、第１の係合部材を有する第１の端部に位置される第１の端部分であって、第１の係合部材が第１の層状部を含む、第１の端部分と、第２の端部に位置される第２の端部分とを有することができ、第２の端部分は、第２の層状部を含む第２の係合部材を有する第２の係合部材を含む。また、ストラップは、第１の開口及び第２の開口を含むキャリーハンドルを有することもでき、長尺部材が第１の開口及び第２の開口を通じて延びる。ベース部材は、キャリーハンドルの両側に配置された一对の重なり領域を含むことができ、各重なり領域は、ベース部材の複数の層と、複数の層を互いに接合するためのステッチとを含む。キャリーハンドルは、ストラップの全長に沿って実質的に中心付けられてもよい。また、第１の端部分及び第２の端部分はいずれも、第１の層状部と第２の層状部とを接合するステッチを含む。第１の層状部のステッチは、第１の層状部の内側部分及び外側部分を画定する第１の端部から所定距離に配置されてもよく、内側部分は、ステッ

40

50

チの中心線からベース部材の第1の端部までの距離として規定される第1の長さを有し、外側部分は、ステッチの中心線から外側部分の端部までの距離として規定される第2の長さを有する。内側部分の第1の長さは、外側部分の第2の長さより短くてもよい。ベース部材は、単一の一体部材であってもよく、幾つかの例において、ストラップは、ストラップの全長に沿って可変幅を有してもよい。

【0009】

本開示の他の態様は、容器の第1の側面に第1の細長い開口を含む第1のサイドハンドルと、第1の側面とは反対側の容器の第2の側面に第2の細長い開口を有する第2のサイドハンドルとを有する容器を含む容器を持ち上げるためのストラップのシステムについて記載し得、第1の細長い開口は第1の開口幅を有し、第2の細長い開口は第2の開口幅を有する。ストラップは、第1の端部と、第1の端部の反対側の第2の端部と、第1の端部と第2の端部との間で延在する長尺部材とを有するベース部材を含むことができ、ベース部材はストラップ幅を有する。また、ストラップは、第1の層状部を含む第1の係合部材を有する第1の端部に位置される第1の端部分と、第2の端部に位置する第2の端部分であって、第2の層状部を有する第2の係合部材を含む、第2の端部と、を含むこともできる。また、ストラップは、第1の開口と、第1の開口の反対側の第2の開口とを有するキャリーハンドルを含むこともでき、長尺部材は、第1の開口及び第2の開口を通じて延びる。第1の端部分は、第1の細長い開口を通じて延びてもよく、第2の端部は、第2の細長い開口を通じて延び、摩擦嵌合を使用してストラップを容器に固定してもよい。第1の端部分におけるベース部材のストラップ幅は、容器の第1の細長い開口の幅より大きくてもよい。ストラップ幅は、第1の開口幅よりも1%~10%大きい範囲内であってもよい。第1の係合部材は、第1の端部から第1の端部分の内側部分及び外側部分を画定するステッチの中心線まで所定の距離に位置されるステッチを含むことができ、内側部分は、ステッチの中心線からストラップの第1の端部までの距離として規定される第1の長さを有し、外側部分は、ステッチの中心線から外側部分の端部までの距離として規定される第2の長さを有し、第1の長さは第2の長さよりも短い。容器は、第1のサイドハンドルの第1の上端面の下方にオフセットされる第1の凹部を含むことができ、第1の凹部は、第1の細長い開口から容器の内部空隙に向かって延びる内側凹部部分と、容器の内部空隙から離れるように延びる方向で第1の細長い開口から離れるように延びる外側凹部部分とを有し、第1の端部分の内側部分は内側凹部部分に受けられる。第1の凹部の深さは、第1端部分の厚さより大きくてもよい。ストラップの大部分は、第1のサイドハンドルの下方で延びてもよい。

【0010】

この開示の更に他の態様は、容器にストラップを取り付けるための方法に関し、該方法は、(a)容器のベースから蓋を開放するステップであって、蓋がベースに回転可能に結合される、ステップと、(b)ストラップの第1の端部分をベースの第1のハンドル上の第1の細長い開口に挿通するステップであって、第1の端部分が第1のハンドルの第1の上端面に対して第1の鋭角で挿入される、ステップと、(c)第1の端部分の第1の内側部分を第1のハンドルの第1の上端面上へと回転させるステップと、(d)第1の端部分の第1の外側部分を第1のハンドルの第1の上端面上へと回転させるステップと、(e)ストラップの第2の端部分をベースの第2のハンドル上の第2の開口に挿入するステップであって、ストラップが第2のハンドルの第2の上端面に対して第2の鋭角で挿入される、ステップと、(f)第2の端部分の第2の内側部分を第2のハンドルの第2の上端面上へと回転させるステップと、(g)第2の端部の第2の外側部分を第2のハンドルの第2の上端面上へと広げるステップとを含む。幾つかの例において、方法は、(a)第1の内側部分を第1の内側凹部内に配置するステップであって、第1の内側凹部が、第1のハンドルの第1の上端面の下方でオフセットされるとともに、第1の細長い開口から容器の内部空隙に向かって延在する、ステップと、(b)第1の外側部分を第1の外側凹部内に配置するステップであって、第1の外側凹部が、第1のハンドルの第1の上端面の下方でオフセットされるとともに、第1の細長い開口から前記容器の内部空隙から離れるように延

10

20

30

40

50

在する、ステップと、(c)ベース上へと蓋を閉じるステップと、(d)中央に位置されたストラップハンドルによってストラップを持ち上げるステップであって、ストラップのベース部材が、第1のハンドルの周りで延在するとともに、第1のハンドルの外側表面と接触する、ステップと、を含むこともできる。第1の鋭角は、1度から55度の間であってもよい。第1の端部分の幅は、第1の細長い開口の幅より大きくてもよい。

【0011】

他の態様によれば、容器が開示される。容器は、第1の側面と、第1の側面の反対側の第2の側面と、第1の側面の縁部と第2の側面の縁部との間で延在する第3の側面と、第3の側面の反対側の第4の側面とを有するとともに、第1の端部及び第2の端部を有する側壁構造と、側壁構造の第1の端部に接続され、表面上で容器を支持するように構成される底部と、第1の端部の反対側の側壁構造の第2の端部に形成される開口であって、側壁構造と底部とによって形成される容器の内部空隙へのアクセスを可能にするように構成される開口とを含む成形ベースを備えることができる。ベースは、側壁構造から延びるラッチキーパを更に含むことができ、ラッチキーパは、上面、内面、及び下面を有する。また、容器は、開放形態と閉鎖形態との間で回動可能な蓋を含むこともでき、蓋は、ベースの形状に対応する形状を有するとともに、容器が閉鎖形態にあるときに側壁構造の第2の端部に形成された開口を覆うように構成される。ベースに蓋を接続するようにヒンジが構成されてもよく、この場合、蓋は閉鎖形態から開放形態に回転可能である。容器はラッチアセンブリを更に含むことができ、ラッチアセンブリは、ロック位置及びロック解除位置を有する。

【0012】

ラッチアセンブリは、蓋と回動可能に係合されるラッチ本体を含むことができ、ラッチ本体は、少なくとも1つの係合ラグを有する。ラッチアセンブリは、ラッチ本体と摺動可能に係合されるロック部材を更に含むことができ、ロック部材は、少なくとも下方位置と上方位置との間で摺動可能である。ロック部材は、ロック部材が下方位置にあるときに蓋を閉鎖形態でロックするように構成され、ロック部材が上方位置にあるときに蓋をロック解除するように構成されてもよい。更に、ラッチアセンブリは、ラッチ本体及びロック部材と係合されて、ロック部材を下方位置に付勢する付勢部材と、ラッチ本体と回動可能に係合されるとともに、ロック部材と係合され、ロック部材を下方位置から上方位置に移動させるように構成される作動部材とを更に含む。ラッチアセンブリは、ロック部材が上方位置にあるときにのみロック解除位置からロック位置に移動することができる。ラッチアセンブリの他の態様は、ラッチアセンブリがロック位置にあるときに、ラッチ本体の少なくとも1つの係合ラグをラッチキーパの下面に係合されることができ、また、ラッチアセンブリがロック位置にあるときに、ロック部材のフック部がラッチキーパの上面と係合できることである。

【0013】

本開示の他の態様は、閉鎖形態から開放形態に回転される容器の蓋が、蓋を閉鎖形態から90度回転させることを含んでもよいことに関連し得る。更に、ラッチキーパは、ベースの外側からラッチキーパの内面まで延在する支持リブを更に含んでもよく、支持リブは、ラッチキーパの上面に対して中央に位置されてもよい。ロック部材は、ラッチアセンブリがロック位置にあるときに支持リブがロック部材の少なくとも2つのフック部間に位置決めされるように、少なくとも2つのフック部を更に備えてもよい。ベースは、ラッチキーパに隣接する少なくとも1つの傾斜面を更に備えてもよく、それにより、傾斜面は、ベースの境界面から離れるようにある角度で下方に延在する。少なくとも1つの傾斜面は、ベースの境界面に対して30度~60度の角度を成す。ガasketが、ベース及び蓋の少なくとも一方に形成された凹部内に配置されてもよい。他の特徴として、ベースは、容器の各側面にハンドルを更に備えてもよく、各ハンドルはベースと一体成形される。ハンドルは、ハンドルの外面の下方に湾曲した輪郭を有することができ、湾曲した輪郭は、側壁構造の側面の1つからハンドルの内面まで延在する複数のリブによって形成される。

【0014】

この開示の他の態様は容器に関し、容器は、少なくとも第 1 の側面及び第 1 の側面の反対側の第 2 の側面を有するとともに第 1 の端部及び第 2 の端部を有する側壁構造と、側壁構造の第 1 の端部に接続され、表面上で容器を支持するように構成される底部と、第 1 の端部とは反対側の側壁構造の第 2 の端部に形成される開口であって、側壁構造と底部とによって形成された容器の内部空隙へのアクセスを可能にするように構成される開口とを含むベースを備える。また、ベースは、側壁構造から延びるラッチキーパを含むこともでき、ラッチキーパは、上面、内面、及び下面を有する。また、容器は、開放形態と閉鎖形態との間で回動可能な蓋を備えてもよく、蓋は、ベースの形状に対応する形状を有するとともに、容器が閉鎖形態にあるときに側壁構造の第 2 の端部に形成された開口を覆うように構成される。蓋をベースに接続するようにヒンジが構成されてもよく、ヒンジの周りで蓋が閉鎖形態から開放形態に回転可能であり、また、ラッチアセンブリは、ロック位置及びロック解除位置を有する。ラッチアセンブリは、蓋と回動可能に係合されるラッチ本体であって、少なくとも 1 つの係合ラグを有するラッチ本体と、ラッチ本体に係合されるロック部材であって、下方位置と上方位置との間で移動可能であるロック部材とを備えることができる。ロック部材は、ロック部材が下方位置にあるときに蓋を閉鎖形態でロックするように構成され、ロック部材が上方位置にあるときに蓋をロック解除するように構成されてもよい。また、ラッチアセンブリは、ラッチ本体及びロック部材に係合されて、ロック部材を下方位置に付勢する付勢部材と、ラッチ本体と回動可能に係合されるとともに、ロック部材に係合され、ロック部材を下方位置から上方位置に移動させるように構成される作動部材とを有することもできる。

10

20

【 0 0 1 5 】

この開示の更なる態様は、内部空隙の内面に沿って位置決めされた複数のタブを含む容器のベース部に関することができ、複数のタブの各タブは、内面のうちの 1 つから延在し、上側支持面及び開口を備えることができ、各タブの開口は細長い形状を有する。上側支持面は、ベースの内部空隙の上側領域に、又は内部空隙の高さの 5 0 % を超える高さに位置されてもよい。更に、ベースは、少なくとも 1 つの側壁の少なくとも内面に位置決めされる一对のトラックを含むことができ、一对のトラックは、少なくとも 2 つの側壁の少なくとも内面に位置決めされる。同様に、蓋は、蓋の内面に沿って位置決めされた複数のクリップを備えることができ、各クリップは係合部材と細長い開口とを含み、複数のタブの各タブの細長い開口は、各クリップの細長い開口と実質的に同じ幅を有することができる。また、容器は、ベース及び蓋の少なくとも一方に形成された凹部内に配置されたガasketと、ベースの外面と一体成形されたチャンネルとを有することができ、チャンネルはベースの外面全体の周りで延在する。

30

【 0 0 1 6 】

この開示の更に他の態様は容器に関し、容器は、少なくとも第 1 の側面及び第 1 の側面の反対側の第 2 の側面を有するとともに第 1 の端部及び第 2 の端部を有する側壁構造と、側壁構造の第 1 の端部に接続され、表面上で容器を支持するように構成される底部と、第 1 の端部とは反対側の側壁構造の第 2 の端部に形成される開口であって、側壁構造と底部とによって形成された容器の内部空隙へのアクセスを可能にするように構成される開口とを有するベースを含む。また、容器は、開放形態と閉鎖形態との間で回動可能な蓋を含むこともでき、蓋は、ベースの形状に対応する形状を有するとともに、容器が閉鎖形態にあるときに側壁構造の第 2 の端部に形成された開口を覆うように構成される。また、容器は、ロック位置及びロック解除位置を有するラッチアセンブリを含むこともでき、ラッチアセンブリは、蓋と回動可能に係合されるラッチ本体と、ラッチ本体に係合されるロック部材とを含み、ロック部材は、下方位置と上方位置との間で移動可能である。ロック部材は、ロック部材が下方位置にあるときに蓋を閉鎖形態でロックするように構成され、ロック部材が上方位置にあるときに蓋をロック解除するように構成される。作動部材は、ラッチ本体と回動可能に係合されるとともに、ロック部材とも係合されてもよく、作動部材は、ロック部材を下方位置から上方位置に移動させる。

40

【 0 0 1 7 】

50

この開示内に記載された容器の他の態様は、ラッチ本体及びロック部材と係合される付勢部材を有するラッチアセンブリを含むことができ、付勢部材は、ロック部材を下方位置に付勢する。ロック部材は、下方位置と上方位置との間で摺動可能であってもよく、ラッチアセンブリは、ロック部材が上方位置にあるときにのみロック解除位置からロック位置に移動されてもよい。ラッチ本体は、内面と、少なくとも1つの係合ラグとを含むことができ、ベースは、上面、内面、及び下面を備えるラッチキーパを含む。ラッチ本体の少なくとも1つの係合ラグは、ラッチアセンブリがロック位置にあるときにラッチキーパの下面と係合してもよく、ラッチアセンブリがロック位置にあるときに、ロック部材のフック部の下面がラッチキーパの上面に係合する。

【図面の簡単な説明】

10

【0018】

本発明は、例として示されており、同様の参照番号が同様の要素を示す添付の図に限定されない。

【0019】

【図1A】本明細書に記載の1つ以上の態様に係る容器の上面斜視図である。

【0020】

【図1B】本明細書に記載の1つ以上の態様に係る、蓋が開位置にある図1Aの容器の上面斜視図である。

【0021】

【図2A】本明細書に記載の1つ以上の態様に係る図1Aの容器の底面斜視図である。

20

【0022】

【図2B】本明細書に記載の1つ以上の態様に係る図1Aの容器の側面断面図である。

【0023】

【図3】本明細書に記載の1つ以上の態様に係る図1Aの容器のベース部の上面斜視図である。

【0024】

【図4A】本明細書に記載の1つ以上の態様に係る図1Aの容器のベース部の一部の底面斜視図である。

【0025】

【図4B】本明細書に記載の1つ以上の態様に係る図1Aの容器のハンドルの上面斜視図である。

30

【0026】

【図4C】本明細書に記載の1つ以上の態様に係るハンドルの一部の上面斜視図である。

【0027】

【図4D】本明細書に記載の1つ以上の態様に係るハンドル及び容器の一部の側面断面図である。

【0028】

【図5A】本明細書に記載の1つ以上の態様に係る図1Aの容器の蓋の一部の上面斜視図である。

【0029】

40

【図5B】本明細書に記載の1つ以上の態様に係る図1Aの容器のベース部の一部の上面斜視図である。

【0030】

【図6A】本明細書に記載の1つ以上の態様に係るラッチアセンブリの底部後方斜視図である。

【0031】

【図6B】本明細書に記載の1つ以上の態様に係るラッチアセンブリの上方後方斜視図である。

【0032】

【図7A】本明細書に記載の1つ以上の態様に係るラッチアセンブリの上面正面斜視図で

50

ある。

【 0 0 3 3 】

【図 7 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリの底面正面斜視図である。

【 0 0 3 4 】

【図 8】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリの背面斜視図である。

【 0 0 3 5 】

【図 9】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリの側面断面図である。

【 0 0 3 6 】

【図 1 0 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリのロック位置から
ロック解除位置への移動の側面断面図を示す。

10

【図 1 0 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリのロック位置から
ロック解除位置への移動の側面断面図を示す。

【図 1 0 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリのロック位置から
ロック解除位置への移動の側面断面図を示す。

【図 1 0 D】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリのロック位置から
ロック解除位置への移動の側面断面図を示す。

【 0 0 3 7 】

【図 1 1 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るロック解除位置からロック位置への
図 1 0 A ~ 図 1 0 D のラッチアセンブリの移動の側面断面図を示す。

20

【図 1 1 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るロック解除位置からロック位置への
図 1 0 A ~ 図 1 0 D のラッチアセンブリの移動の側面断面図を示す。

【図 1 1 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るロック解除位置からロック位置への
図 1 0 A ~ 図 1 0 D のラッチアセンブリの移動の側面断面図を示す。

【 0 0 3 8 】

【図 1 2 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリのロック位置から
ロック解除位置への移動の側面断面図を示す。

【図 1 2 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリのロック位置から
ロック解除位置への移動の側面断面図を示す。

【図 1 2 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリのロック位置から
ロック解除位置への移動の側面断面図を示す。

30

【 0 0 3 9 】

【図 1 3 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るロック解除位置からロック位置への
図 1 3 A のラッチアセンブリの移動の側面断面図を示す。

【図 1 3 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るロック解除位置からロック位置への
図 1 3 B のラッチアセンブリの移動の側面断面図を示す。

【図 1 3 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るロック解除位置からロック位置への
図 1 3 C のラッチアセンブリの移動の側面断面図を示す。

【 0 0 4 0 】

【図 1 4】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る容器の上面斜視図である。

40

【 0 0 4 1 】

【図 1 5】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 4 の容器の側面断面図である。

【 0 0 4 2 】

【図 1 6 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 4 の容器の側面断面図である。

【 0 0 4 3 】

【図 1 6 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 6 A に示される容器の一部の拡大図である。

【 0 0 4 4 】

【図 1 7 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る蓋が閉位置にある図 1 の容器の代替の実施形態の上面斜視図を示す。

50

【 0 0 4 5 】

【図 1 7 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る蓋が開位置にある図 1 7 A の容器の上面斜視図を示す。

【 0 0 4 6 】

【図 1 8 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る蓋が閉位置にある図 1 7 A の容器の正面図を示す。

【 0 0 4 7 】

【図 1 8 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る蓋が閉位置にある図 1 7 A の容器の背面図を示す。

【 0 0 4 8 】

【図 1 8 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る蓋が閉位置にある図 1 7 A の容器の上面図を示す。

【 0 0 4 9 】

【図 1 8 D】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る蓋が閉位置にある図 1 7 A の容器の底面図を示す。

【 0 0 5 0 】

【図 1 8 E】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る閉位置にある図 1 7 A の容器の左側面図を示す。

【 0 0 5 1 】

【図 1 8 F】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る閉位置にある図 1 7 A の容器の右側面図を示す。

【 0 0 5 2 】

【図 1 9 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る蓋が取り外された図 1 7 A の容器のベース部の上面図を示す。

【 0 0 5 3 】

【図 1 9 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 9 A に示される容器のベース部の拡大図を示す。

【 0 0 5 4 】

【図 2 0 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るラッチアセンブリの代替の実施形態の底部後方斜視図を示す。

【 0 0 5 5 】

【図 2 0 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るロック位置にある図 2 0 A のラッチアセンブリの代替の実施形態の部分断面図を示す。

【 0 0 5 6 】

【図 2 0 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るロック位置にある図 2 0 A のラッチアセンブリの代替の実施形態の部分断面図を示す。

【 0 0 5 7 】

【図 2 1】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係るロック解除位置にある図 2 0 A のラッチアセンブリの部分断面図を示す。

【 0 0 5 8 】

【図 2 2 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 7 A の容器の側面断面図を示す。

【 0 0 5 9 】

【図 2 2 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 7 A の容器のハンドルを通る拡大側面断面図を示す。

【 0 0 6 0 】

【図 2 2 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 7 A の容器のハンドルの底面斜視図の部分図を示す。

【 0 0 6 1 】

【図 2 3 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 7 A の容器のベース部の部分上面斜視図を示す。

10

20

30

40

50

【 0 0 6 2 】

【図 2 3 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 7 A の容器のベースを示す図 2 3 A の部分上面斜視図の部分断面図を示す。

【 0 0 6 3 】

【図 2 4 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 7 A の容器の蓋の内部の上面斜視図を示す。

【 0 0 6 4 】

【図 2 4 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 7 A の容器の蓋の一部を示す図 2 4 A の上面斜視図の拡大図を示す。

【 0 0 6 5 】

【図 2 5】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 7 A の容器の側面図を示す。

【 0 0 6 6 】

【図 2 6 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に従って設置された様々な付属品を有する、開位置にある図 1 7 A の容器の上面斜視図を示す。

【図 2 6 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に従って設置された様々な付属品を有する、開位置にある図 1 7 A の容器の上面斜視図を示す。

【図 2 6 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に従って設置された様々な付属品を有する、開位置にある図 1 7 A の容器の上面斜視図を示す。

【図 2 6 D】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に従って設置された様々な付属品を有する、開位置にある図 1 7 A の容器の上面斜視図を示す。

【 0 0 6 7 】

【図 2 7 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 1 7 A の容器用の付属品の上面斜視図を示す。

【 0 0 6 8 】

【図 2 7 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 7 A の付属品の側面断面図を示す。

【図 2 7 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 7 A の付属品の側面断面図を示す。

【 0 0 6 9 】

【図 2 8】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る容器上に取り付けられたキャリーストラップの部分上面前方斜視図を示す。

【 0 0 7 0 】

【図 2 9】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る容器上に部分的に取り付けられたキャリーストラップの部分上面前方斜視図を示す。

【 0 0 7 1 】

【図 3 0】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの上面正面斜視図を示す。

【 0 0 7 2 】

【図 3 1】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの上面図を示す。

【 0 0 7 3 】

【図 3 2】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの底面図を示す。

【 0 0 7 4 】

【図 3 3】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの正面図を示す。

【 0 0 7 5 】

【図 3 4】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの側面図を示す。

【 0 0 7 6 】

10

20

30

40

50

【図 3 5】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの代替ベース部材の上面図を示す。

【 0 0 7 7 】

【図 3 6 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの代替的なステッチオプションの上面図を示す。

【図 3 6 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの代替的なステッチオプションの上面図を示す。

【図 3 6 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの代替的なステッチオプションの上面図を示す。

【図 3 6 D】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの代替的なステッチオプションの上面図を示す。

10

【図 3 6 E】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの代替的なステッチオプションの上面図を示す。

【図 3 6 F】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの代替的なステッチオプションの上面図を示す。

【図 3 6 G】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの代替的なステッチオプションの上面図を示す。

【図 3 6 H】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 2 8 のキャリーストラップの代替的なステッチオプションの上面図を示す。

【 0 0 7 8 】

20

【図 3 7】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る閉位置にある別の例示的な容器の正面右側斜視図を示す。

【 0 0 7 9 】

【図 3 8 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る開位置にある図 3 7 の容器の正面右側斜視図を示す。

【 0 0 8 0 】

【図 3 8 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 3 8 A の拡大斜視図を示す。

【 0 0 8 1 】

【図 3 9】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に従って設置された様々な付属品を有する、開位置にある図 3 7 の容器の正面左側斜視図を示す。

30

【 0 0 8 2 】

【図 4 0】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 3 7 の容器の拡大図を示す。

【 0 0 8 3 】

【図 4 1】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 3 7 の容器のラッチアセンブリの正面斜視図を示す。

【 0 0 8 4 】

【図 4 2】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 4 1 のラッチアセンブリの背面斜視図を示す。

【 0 0 8 5 】

【図 4 3】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る幾つかの構成要素が取り外された図 4 1 のラッチアセンブリの正面斜視図を示す。

40

【 0 0 8 6 】

【図 4 4】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る幾つかの構成要素が取り外された図 4 1 のラッチアセンブリの背面斜視図を示す。

【 0 0 8 7 】

【図 4 5】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る閉位置にある別の例示的な容器の正面右側斜視図を示す。

【 0 0 8 8 】

【図 4 6】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る閉位置にある図 4 5 の容器の左前方底面斜視図を示す。

50

【 0 0 8 9 】

【図 4 7】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る開位置にある図 4 5 の容器の正面右側斜視図を示す。

【 0 0 9 0 】

【図 4 8】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 4 5 の容器のベースの上面図を示す。

【 0 0 9 1 】

【図 4 9】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 4 8 の線 4 9 - 4 9 に沿ったベースの斜視断面図を示す。

【 0 0 9 2 】

【図 5 0】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 4 8 の線 5 0 - 5 0 に沿ったベースの斜視断面図を示す。

10

【 0 0 9 3 】

【図 5 1】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る線 5 1 - 5 1 に沿った図 4 7 の容器の部分斜視断面図を示す。

【 0 0 9 4 】

【図 5 2】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る線 5 2 - 5 2 に沿った図 4 7 の容器の斜視断面図を示す。

【 0 0 9 5 】

【図 5 3】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 4 7 の線 5 2 - 5 2 に沿った図 4 7 の容器の斜視断面図を示す。

20

【 0 0 9 6 】

【図 5 4 A】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 4 7 の容器の蓋支持プレートの正面斜視図を示す。

【 0 0 9 7 】

【図 5 4 B】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 5 4 A の蓋支持プレートの背面斜視図を示す。

【 0 0 9 8 】

【図 5 4 C】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 5 4 A の蓋支持プレートの拡大図を示す。

【 0 0 9 9 】

30

【図 5 5】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る様々な付属品が取り付けられた蓋支持プレートの正面図を示す。

【 0 1 0 0 】

【図 5 6】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る様々な付属品が取り付けられた蓋支持プレートの正面図を示す。

【 0 1 0 1 】

【図 5 7】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る開位置にある別の例示的な容器の正面右側斜視図を示す。

【 0 1 0 2 】

【図 5 8】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る図 5 7 の例示的な容器の部分正面右側斜視図を示す。

40

【 0 1 0 3 】

【図 5 9】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る幾つかの構成要素が取り外された図 5 7 の例示的な容器の部分正面右側斜視図を示す。

【 0 1 0 4 】

【図 6 0】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る閉位置にある別の例示的な容器の正面左側斜視図を示す。

【 0 1 0 5 】

【図 6 1】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る幾つかの構成要素が取り外されてハンドルが部分的に伸長した位置にある図 6 0 の容器の部分正面左斜視図を示す。

50

【 0 1 0 6 】

【図 6 2】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る幾つかの構成要素が取り外されてハンドルが伸長位置にある図 6 0 の容器の部分正面左斜視図を示す。

【 0 1 0 7 】

【図 6 3】本明細書に記載の 1 つ以上の態様に係る幾つかの構成要素が取り外されてハンドルが伸長位置にある図 6 0 の容器の部分的な前左底斜視図を示す。

【 0 1 0 8 】

更に、図面は、1 つの単一の実施形態の異なる構成要素の縮尺を表す場合があるが、開示された実施形態は、その特定の縮尺に限定されないことを理解されたい。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 1 0 9 】

本発明による様々な例示的な構造の以下の説明では、その一部を形成し、本発明の態様が実施可能な様々な例示的なデバイス、システム、及び環境を例示として示す添付の図面を参照する。本発明の範囲から逸脱することなく、部品、例示的なデバイス、システム、及び環境の他の特定の配置を利用することができ、構造的及び機能的変更を行うことができることを理解されるべきである。また、本明細書では、「上」、「下」、「前」、「後」、「横」、「後」などの用語を使用して、本発明の様々な例示的な特徴及び要素を説明することがあるが、これらの用語は、本明細書では、便宜上、例えば、図に示されている例示的な配向又は典型的な使用中の配向に基づいて使用されている。更に、「複数」という用語は、本明細書で使用される場合、必要に応じて、分離的又は結合的のいずれかで、無限の数までの 2 以上の任意の数を示す。本明細書のいかなるものも、本発明の範囲内に含めるために構造の特定の三次元配向を必要とすると解釈されるべきではない。また、読者は、添付図面が必ずしも縮尺通りに描かれていないことを助言される。

【 0 1 1 0 】

一般に、本発明の態様は、容器及び容器用ラッチアセンブリに関する。様々な態様及び実施形態によれば、本明細書に記載のスーツケース及びラッチアセンブリは、金属（金属合金を含む）、ポリマー、及び複合材料などの様々な材料の 1 つ以上から形成されてもよく、本発明の範囲から逸脱することなく、様々な構成の 1 つで形成されてもよい。容器及びラッチアセンブリは、幾つかの異なる材料で作られた構成要素を含んでもよいことが理解される。また、各種の形成方法により形成してもよい。例えば、金属部品は、フォー

【 0 1 1 1 】

本出願の様々な図は、本発明による容器及びラッチアセンブリの例を示す。同じ参照番号が複数の図面に現れる場合、その参照番号は本明細書で一貫して使用され、図面は全体を通して同じ又は類似の部分を示す。

【 0 1 1 2 】

図 1 A、図 1 B 及び図 2 A は、容器 2 の斜視図を示す。一例では、容器 2 は、幾つかの例では結合されてもよく、又は幾つかの例では非破壊的に取り外し可能に結合されてもよいベース 4 及び蓋 5 を含んでもよい。ベース部 4 は、本明細書でより十分に説明するように、物品を収容するための空隙を形成する構造であってもよい。幾つかの例では、ベース部 4 は、直方体又は実質的に直方体の形状であってもよい。他の例では、ベース 4 は、形状が角柱状又は実質的に角柱状（例えば、五角柱、六角柱、七角柱等）であってもよい。更に他の例では、ベース 4 は、実質的に円筒形の形状であってもよく、又は実質的に台形の断面を有してもよい。本発明から逸脱することなく、様々な他の形状を使用することができる。

【 0 1 1 3 】

ベース部 4 は、第 1 の側面 8 と、第 1 の側面の反対側の第 2 の側面 1 0 と、第 1 の側面の縁部と第 2 の側面の縁部との間に延在する第 3 の側面 1 2 と、第 3 の側面の反対側の第

4の側面14とを有する側壁構造6を含むことができる。側壁構造6はまた、第1の端部16及び第2の端部18を有してもよい。側壁構造6はまた、側壁構造6の第1の端部16に接続され、テーブル、地面、車両ベッドなどの表面上で容器を支持するように構成された底部20を含むことができる。幾つかの実施形態では、底部20はまた、及び/又は代替的に、テーブル、地面、車両ベッドなどの表面上で容器2を支持することができる1つ以上の脚部22を含むことができる。脚部22は、ベース4と一体に形成されてもよく、ベースが形成された後にベース4に取り付けられてもよい。

【0114】

ベース部4は、開口19(図3に示す)を画定する第2の端部18を更に含む。開口19は、側壁構造6及び底部20によって形成された容器2の内部空隙21へのアクセスを可能にするように構成される。

10

【0115】

容器2は、蓋5を含んでもよい。蓋5は、開放形態と閉鎖形態との間で回動可能である。幾つかの実施形態では、蓋を閉鎖形態から開放形態に回転させることは、蓋を閉鎖形態から約90°、又は閉鎖形態から約180°、又は閉鎖形態から約270°回転させることを含む。図1に示すように、開口19は、容器が使用されているとき(例えば、容器が閉鎖形態にあるとき)、蓋5によって覆われてもよい。幾つかの構成では、蓋5は、圧入を使用して閉じた構成でベース4に接続することができる。これに加えて又は代えて、本明細書でより完全に説明するように、他の固定システム又は装置を使用して蓋5をベース4に固定することができる。

20

【0116】

幾つかの例では、蓋5は、ヒンジ37でベース4に(取り外し可能に又は恒久的に)接続され、ヒンジ37を中心に回転され得るようにヒンジ結合されてもよい。ヒンジ37は、連続ピアノヒンジ、ダブルヒンジ、ボールジョイントヒンジ、リビングヒンジなどを含む様々なタイプのヒンジのうちの1つであってもよい。これら及び様々な他のヒンジ構成は、本明細書でより完全に説明することができる。ヒンジ37は、ベース4によって(例えば、開口19を介して)画定された空隙へのアクセスを可能にするために、蓋5が開いてベース4から離れるように回転することを可能にすることができる。すなわち、ヒンジ37は、容器の閉鎖形態(例えば、図1Aに示すように、蓋がベース4によって形成された空隙21を覆う所定の位置にあるとき)から開放形態(例えば、図1Bに示すように、蓋がベース4によって形成された空隙21を覆っていない場合)への、及びその逆の蓋5の回転を容易にすることができる。

30

【0117】

更に、幾つかの構成では、容器2は、ガasket 30又は他の封止装置を含むことができる。ガasket 30は、蓋5又はベース4のいずれかに配置することができ、蓋5が閉鎖形態にあるときに蓋5及びベース4を密封するのを助けることができる。例えば、一実施形態では、容器2は、1メートルの水の下で8時間試験した場合に防塵性であり、及び/又は30分間試験した場合に防水性であるように製造することができる。幾つかの実施形態では、容器2は、8時間試験した場合に塵埃の侵入又は塵埃からの完全な保護がなく、規定の圧力及び時間(最大1mの浸漬)の条件下で筐体を水に浸漬した場合に有害な量の水の侵入が不可能であることを指定するIP67(国際電気標準会議によって規定されている)評価を達成することができる。IP67粉塵試験は8時間の長さであり、筐体は真空中で試験される。IP67水試験は30分の長さであり、筐体は、筐体の最低点が水面下1000mm、又は筐体の最高点が水面下150mmのいずれか深い方で試験される。

40

【0118】

幾つかの例では、(図10A~図11Cに最もよく示されているように)ガasket 30は、ベース4及び蓋5の少なくとも一方に形成され、ベース4又は蓋5の少なくとも一方の周囲の周りに延びる凹部32内に着座することができる。更に、幾つかの例では、容器2は、ベース4又は蓋5の反対側に、ベース4又は蓋5の周囲の周りに延びる隆起部34を含むことができる。ガasket 30は、凹部32と隆起部34との間に配置されても

50

よい。ガスケット 30 は、容器 2 の内部と外部環境との間のシールを維持するのを助けることができ、幾つかの例では、容器 2 内に収容された物品の温度を維持するのを助けることができる。1つの例示的なガスケット配置が図 10A ~ 図 11C に示されているが、このガスケット配置及び様々な他のガスケット配置は、本明細書に記載の容器のいずれかと共に使用することができる。

【0119】

図示のように、ガスケット 30 は、蓋 5 の凹部又はチャネル 32 に配置される。或いは、ガスケット 30 は、ベース 4 に形成された凹部又はチャネル内に配置されてもよい。蓋 5 が閉鎖形態にあるとき、凹部 32 に対応する形状を有する隆起部 34 は、ガスケット 30 に接触し、ガスケット 30 を圧縮し、閉鎖形態において蓋 5 及びベース 4 を密封するのを助けることができる。幾つかの例では、ガスケット 30 は、実質的に円形の断面を有する従来のガスケットであってもよい。他の構成では、ガスケット 30 は、通気口（例えば、蓋のロックを防止するための通気口）の必要性を低減又は排除することができる戦略的に配置された切り欠きを含むことができる。

【0120】

幾つかの構成では、容器 2 は、1つ以上のハンドル 40 などの追加の特徴を含むことができる。ハンドルは、図示のように、側面 12 及び 14 などの対向する側面を含む、側壁構造 6 の 1つ以上の部分に配置することができる。図 4A ~ 図 4D に最もよく示されているように、ハンドル 40 は、グリップ部材 46 によって接続された第 1 の及び第 2 のアーム 42、44 から構成されてもよい。ハンドル 40 は、側壁構造 6 の一部を通り、第 1 の及び第 2 のアーム 42、44 のそれぞれを通るヒンジ 43 を中心に回転可能であってもよい。ハンドル 40 はまた、ハンドルが使用されていないときのハンドルの動き、及びハンドルに関連する可能性のあるがたつきノイズを低減するための特徴を含むことができる。図 4A ~ 図 4D に示すように、アーム 42、44 の一方又は両方は、アームの遠位端に隆起部 48 を含むことができる。幾つかの実施形態では、隆起部 48 は、弾性部材 50 に取り付けられてもよい。図 4A 及び図 4D に最もよく示されているように、容器 2 は、凹部 52 を含むことができる。隆起部 48 は、ハンドル 40 が使用されていないときに側壁構造 6 の凹部 52 内に位置するように構成されてもよい。これにより、ハンドルが使用されていないときのハンドル 40 の動きを低減することができる。しかしながら、使用者が使用のためにハンドル 40 を動かすと、弾性部材 50 は後退し、使用者がハンドルを外側に回転させることができる。

【0121】

他の例では、図 14 ~ 図 16B に示すように、また以下でより詳細に説明するように、ハンドル 240 は、ベース部 204 と一体成形されてもよく、幾つかの例では、一般に、ベース 204 の側壁構造に形成されたアンダーカットであってもよい。幾つかの例では、ハンドルを形成するアンダーカットは、側壁構造 6 の実質的に全て又は大部分に沿って延びる凹部を含むことができる。これは、一体成形されたハンドル 240 を有するベース 204 の製造を容易にすることができる。幾つかの例では、一体的に成形されたハンドル 240 は、破損のリスクを低減するために、ベース 204 の外面と同一平面上にあってもよい。

【0122】

幾つかの構成では、容器 2 はまた、1つ以上のラッチアセンブリ 100 を含むことができる。ラッチアセンブリ 100 は、ロック位置及びロック解除位置を有してもよく、蓋 5 が閉鎖形態にあるときに蓋 5 をロックするように構成されてもよい。ラッチアセンブリ 100 は、容器 2 と一体的に形成されるか、そうでなければ容器 2 に取り付けられる 1つ以上の部分を含むことができる。図 5B 及び図 9 に示すように、容器 2 は、ラッチキーパ 70 を備えていてもよい。ラッチキーパ 70 は、側壁構造 6 から延在してもよく、容器 2 内にポケットを形成してもよい。ラッチキーパ 70 のポケットは、以下でより詳細に説明するように、ロック部材 130 の一部を受け入れるように構成された形状を有する。ラッチキーパは、上面 72 と、内面 74 と、下面 76 とを有してもよい。以下により詳細に説明

するように、ラッチアセンブリ 100 は、容器 2 が閉鎖形態にあるときに、ラッチキーパ 70 と係合して蓋 5 をベース 4 にロックすることができる。

【0123】

容器 2 はまた、容器 2 の強度及び / 又は機能を改善するための様々な特徴を含むことができる。例えば、容器は、ベース 4 及び / 又は蓋 5 の特定の部分がベース 4 及び / 又は蓋の他の部分よりも更に外側に延在する様々な隆起部を含むことができる。図 1 A、図 1 B、図 2 A、及び図 2 B に最もよく示されているように、ベース 4 は、チャンネル 60 を形成する J 字形の隆起部又は壁 59 を含むことができ、隆起壁 59 は側壁構造 6 と係合する。チャンネル 60 は、容器 2 の全周を取り囲んでもよい。チャンネル 60 はまた、チャンネル内の様々な位置に強化部材 62 を含むことができる。J 字形壁 59 によって形成されたチャンネル 60 は、容器 2 又はベース 4 の強度を高めることができる。幾つかの実施形態では、例えば図 2 B に示すように、J 字形壁 59 は、側壁構造 6 の内面 6 A が容器 2 の内部全体にわたって実質的に滑らかであるようにベース 4 を構築することを可能にすることができる。したがって、例えば、第 1 の側面 8、第 1 の側面の反対側の第 2 の側面 10、第 3 の側面 12 のうちの 1 つ又は全てを含む、側壁構造 6 の内面 6 A の実質的に全て又は全ては、実質的に平坦及び / 又は滑らかであり得る。

10

【0124】

容器 2 はまた、ラッチアセンブリ 100 及びハンドル 40 をそれぞれ取り囲む隆起部 64、66 を含むことができる。図 4 に示すように、隆起部 64、66 は、ベース 4 又は蓋 5 の一方又は両方に存在してもよい。隆起部 64、66 は、ラッチアセンブリ 100 及び / 又はハンドル 40 が容器 2 の隆起部 64、66 を超えて外側に延在しないように、ラッチアセンブリ 100 及びハンドル 40 の高さ以上にそれぞれ隆起していてもよい。これは、ラッチアセンブリ 100 及び / 又はハンドル 40 を保護し、使用中のこれらの構成要素の破損を低減することができる。

20

【0125】

容器 2 は、食品、飲料、又は任意の他の物品を含む物品を収容、保管、運搬などするように構成されてもよい。これに加えて又は代えて、容器 2 は、本明細書に記載の開示の範囲から逸脱することなく、固体又は気体状態の材料、又はそれらの組み合わせを貯蔵するように構成されてもよい。

【0126】

ベース 4 及び蓋 5 を含む容器 2 は、1 つ以上の金属、合金、ポリマー、セラミック、又は繊維強化材料などの様々な材料から形成されてもよい。幾つかの例では、ベース 4 及び蓋 5 は、ベース 4 及び蓋 5 の両方の部分を形成するように成形されたポリエチレンなどのプラスチック材料で形成されてもよい。幾つかの構成では、ベース 4 及び蓋 5 の部分の外側シェルは、当業者によって理解されるように、射出成形又は回転成形 / 回転成形プロセスを使用して形成される（図示せず）。しかしながら、本発明から逸脱することなく、様々な他のタイプの成形又は他の製造プロセス（例えば、スタンピング、鋳造、鍛造など）を使用して容器 2 を形成することができる。

30

【0127】

本明細書の幾つかの構成では、ベース 4 及び蓋 5 は、絶縁部分（図示せず）を囲み、それによって絶縁容器を形成する外面又は外殻を含むことができる。外殻は、一般に、1 つ以上の金属、合金、ポリマー、セラミック、又は繊維強化材料などの様々な材料から形成されてもよい。幾つかの例では、外側シェルは、ベース 4 部分と蓋 5 部分の両方を形成するように成形されたポリエチレンなどのプラスチック材料で形成されてもよい。幾つかの例では、絶縁部分（図示せず）は、低い熱伝導率を示す絶縁材料で形成されてもよい。例えば、断熱部分は、ポリウレタンフォームなどのポリマー発泡体で形成（又は充填）されてもよい。本発明から逸脱することなく、例えば真空断熱パネルを含む追加又は他の断熱材料を使用することができる。幾つかの構成では、ベース 4 及び蓋 5 部分の外側シェルは、当業者によって理解されるように、射出成形又は回転成形 / 回転成形プロセスを使用して形成することができる（図示せず）。しかしながら、本発明から逸脱することなく、様

40

50

々な他のタイプの成形又は他の製造プロセス（例えば、スタンピング、鋳造、鍛造など）を使用して容器を形成することができる。

【0128】

ここでラッチアセンブリ100をより具体的に参照すると、図8及び図9に最もよく示されているように、ラッチアセンブリ100は、ラッチ本体102、ロック部材130、付勢部材150、及び作動部材170を含む複数の構成要素を含むことができる。前述したように、ラッチアセンブリ100は、ロック位置及びロック解除位置を含むことができる。

【0129】

ラッチ本体102は、蓋5と回動可能に係合することができる。図9に示すように、ラッチ本体は、ヒンジ106を使用して蓋5と回動可能に係合することができるが、任意の適切な回動可能係合を使用することができる。幾つかの実施形態では、ヒンジ106は、容器2と取り外し可能に係合してもよい。このヒンジ106は、ラッチアセンブリ100が損傷した場合に、ユーザがラッチアセンブリを容易に取り外して交換することを可能にすることができる。ラッチ本体102は、内面108及び外面110を含むことができる。外面は湾曲していてもよく、容器2の側壁構造6の湾曲に概ね従うことができる。前述したように、ラッチ本体102の外面110は、幾つかの例では、容器2の側壁構造6の外縁の外側に延在していなくてもよい。内面108はまた、湾曲していてもよく、幾つかの異なる特徴を含んでもよい。ラッチ本体102に含まれ得る例示的な特徴の1つは、1つ以上の係合ラグ112であってもよい。以下でより詳細に説明するように、係合ラグ112は、容器ベース4又はラッチキーパ70と係合することができ、容器2のベース4に対して蓋5を圧縮するのを助けることができる。

【0130】

ラッチ本体102はまた、ロック部材130と係合してもよい。図8に示すように、ロック部材130は、ロック部材130が略直線経路上で上方位置と下方位置との間を移動することができるように、ラッチ本体102と摺動可能に係合することができる。ロック部材130は、ロック部材130が下方位置にあるときに蓋5を閉鎖形態でロックし、ロック部材130が上方位置にあるときに蓋5をロック解除するように構成されてもよい。

【0131】

主に図8に示すように、ロック部材130は、ロック部材130がガイド部材132を上下に摺動することができるように、1つ以上のガイド部材132と移動可能に係合することができる。一実施形態では、ロック部材130は、ロック部材130を通過し、ガイド部材132も通過することができる開口部134を含むことができる。ガイド部材132は、上端136及び下端138でラッチ本体102と係合することができる。図8に示すように、ガイド部材132は円筒形ロッドであるが、ロック部材130の上方及び下方への移動を可能にする任意の適切な形状を使用することができる。例えば、ガイド部材132は、形状が角柱状又は実質的に角柱状（例えば、五角柱、六角柱、七角柱等）であってもよい。更に他の例では、ラッチアセンブリ100は、例えばレールを含む、ロック部材130とラッチ本体102との間のほぼ直線的な移動を可能にするのに適した他の装置を含むことができる。

【0132】

図8にも示すように、ラッチアセンブリ100はまた、ラッチ本体102及びロック部材130と係合する少なくとも1つの付勢部材150を含むことができる。以下により詳細に説明するように、付勢部材150は、ロック部材130を下方位置に付勢するように構成される。付勢部材150は、図8に示すような圧縮ばねであってもよいが、代替の実施形態では、ロック部材130を下方位置に付勢するための任意の適切な装置であってもよい。

【0133】

ロック部材130は、ベース部140と、ベース部140から内側に延びるフック部142とを含むことができる。フック部142は、下面144及び内向き面146を含むこ

10

20

30

40

50

とができる。図 9 に示すように、ラッチアセンブリ 100 がロック位置にあるとき、ロック部材 130 のフック部 142 の下面 144 は、ラッチキーパ 70 の上面 72 と係合してもよく、フック部 142 の内向き面 146 は、ラッチキーパ 70 の内面 74 と係合してもよい。更に、ラッチアセンブリ 100 がロック位置にあるとき、係合ラグ 112 の上面は、ラッチキーパ 70 の下面 76 と係合することができる。

【0134】

ラッチ本体 102 はまた、作動部材 170 と回動可能に係合してもよい。作動部材 170 はまた、ロック部材 130 と係合してもよく、ロック部材 130 を下方位置から上方位置に移動させるように構成されてもよい。図 8 及び図 9 に示すように、作動部材 170 は、ラッチ本体 102 及び作動部材 170 を貫通して延びるヒンジ 172 によってラッチ本体 102 に回動可能に係合することができる。作動部材 170 は、グリップ部 174 と、作動バレル 176 と、グリップ部 174 と作動バレル 176 とを接続する 1 つ以上のアーム 178 とを含むことができる。図 9 に示すように、グリップ部 174 は、容器 2 の側壁構造 6 から距離を置いて配置されている。この距離により、ユーザは、側壁構造 6 とグリップ部 174 との間に指を置いた状態でグリップ部 174 の背面 180 を把持することができる。図 9 に示すように、作動部材 170 の作動バレル 176 は、ロック部材 130 と係合してもよい。作動バレル 176 は、隆起部 182 を含むことができる。以下により詳細に説明するように、ユーザは、作動部材 170 のグリップ部 174 を前方に引っ張り、作動バレル 176 の隆起部 182 を回転させ、ロック部材 130 を持ち上げることができる。この移動は、ラッチアセンブリ 100 をロック解除させ、蓋 5 を閉鎖形態から開放形態に移動させることを可能にする。

【0135】

ここで図 10A ~ 図 10D を参照すると、ラッチアセンブリ 100 の一実施形態をロック位置からロック解除位置に移動させるための手順が、ラッチアセンブリ 100 並びにベース 4 及び蓋 5 の一部の側面断面図と共に示されている。図 10A は、ロック位置にあるラッチアセンブリ 100 を示し、図 10B は、ロック解除されたラッチアセンブリ 100 を示し、図 10C は、ロック解除位置にあるラッチアセンブリ 100 を示し、図 10D は、ロック解除位置にあるラッチアセンブリ 100 を示し、回転防止機構を示す。図 10A に示すように、ロック位置では、フック部 142 の下面 144 がラッチキーパ 70 の上面 72 に係合しており、フック部 142 の内向き面 146 がラッチキーパ 70 の内面 74 に係合し、係合ラグ 112 がラッチキーパ 70 の下面 76 に係合する。

【0136】

図 10B に示すように、ラッチアセンブリ 100 は、矢印 190 で示すように作動部材 170 を回転させることによってロック解除位置に移動させることができる。この回転は、ユーザが背面 180 を前方に引っ張ることによって達成され得る。図 10B に示すように、作動バレル 176 が回転すると、隆起部 182 はロック部材 130 と係合し、ロック部材 130 を上昇させる。図 10C に示すように、ラッチアセンブリ 100 はロック解除位置にある。ロック部材 130 がラッチキーパ 70 の上方に上昇すると、ラッチアセンブリ 100 のロックが解除され、ロック部材 130 及び作動部材 170 を含むラッチ本体 102 は、矢印 194 で示すように前方に回転することができる。

【0137】

図 10D は、ラッチアセンブリ 100 及び容器 2 の回転防止機構を示す。図 10D に示すように、ラッチアセンブリ 100 はロック解除位置にあり、図 10C に示す位置から更に外側に回転している。ラッチアセンブリ 100 の回転を制限するために、ラッチ本体 102 は、ユーザがラッチアセンブリ 100 をロック位置から一定の回転だけ回転させると、蓋の回転防止面 7 と係合するように構成された裏面 187 を含むことができる。例えば、裏面 187 は、ユーザがラッチアセンブリ 100 をロック位置から少なくとも 20 度、又はロック位置から少なくとも 30 度、又はロック位置から少なくとも 45 度、又はロック位置から少なくとも 90 度回転させたときに回転防止面 7 と係合するように構成されてもよい。好適には、この回転防止機構はまた、ユーザが容器 2 を開くためのハンドルとし

てラッチアセンブリ 100 を利用することを可能にし得る。

【0138】

ここで図 11A ~ 図 11C を参照すると、ラッチアセンブリ 100 をロック解除位置からロック位置に移動させるための手順が、ラッチアセンブリ 100 並びにベース 4 及び蓋 5 の一部の側面断面図と共に示されている。図 11A は、ロック解除位置にあるラッチアセンブリ 100 を示し、図 11B は、ラッチアセンブリ 100 のロックを示し、図 11C は、ロック位置にあるラッチアセンブリ 100 を示す。

【0139】

図 11A に示されるように、また、矢印 196 で示すように、一実施形態では、ユーザは、ラッチ本体 102 を押すことによって、ラッチアセンブリ 100 をロック位置に戻すことができる。図 11B に示すように、ラッチ本体 102 が内側に押し込まれると、ロック部材 130 がラッチキーパ 70 に接触し、矢印 198 で示すようにロック部材 130 を上方に持ち上げることができる。他の例では、ラッチ本体 102 を内側に押すことに加えて、ユーザはまた、ラッチアセンブリ 100 をロック位置に移動させるために作動部材 170 を外側に引っ張らなければならない。そのような実施形態では、ラッチアセンブリ 100 は、好適には、ロック部材 130 が作動部材 170 によって上方位置に移動されるときにのみ、ロック解除位置からロック位置に移動され得る。これにより、容器 2 が誤ってロックされる可能性を低減することができる。

【0140】

図 11C に示すように、フック部 142 がラッチキーパ 70 の隆起部の後ろに移動すると、付勢部材 150 はロック部材 130 を下方方向に押すことができる。図 11C に示すように、ラッチアセンブリ 100 はロック位置にあり、フック部 142 の下面 144 はラッチキーパ 70 の上面 72 と係合され、フック部 142 の内向き面 146 は、ラッチキーパ 70 の内面 74 と係合され、係合ラグ 112 は、ラッチキーパ 70 の下面 76 と係合される。閉位置にあるとき、ラッチアセンブリ 100 は、蓋 5 が容器 2 のベース 4 に当接するように配置され、したがって容器 2 を閉じ、固定し、及び / 又は密封する。更に、ラッチアセンブリがロック解除位置 (図 11A) からロック位置 (図 11C) に移動すると、ガスケット 30 は、蓋 5 と容器 2 のベース 4 との間で圧縮される。したがって、ラッチアセンブリ 100 がロック位置にあるとき、ガスケット 30 は、ラッチアセンブリ 100 がロック解除位置にあるときよりも圧縮される。

【0141】

図 12A ~ 図 12C は、ラッチアセンブリ 100 の一実施形態をロック位置からロック解除位置に移動させるための図 10A ~ 図 10C に示すものと同様の手順を示し、図 13A ~ 図 13C は、ラッチアセンブリ 100 の一実施形態をロック位置からロック解除位置に移動させるための図 11A ~ 図 11C に示すものと同様の手順を示す。幾つかの実施形態では、例えば図 10A ~ 図 11C に示すように、作動部材 170 は、ユーザによって外側に回転された後、図 10A に示すように下方位置に自動的に戻ることができる。しかしながら、他の実施形態では、作動部材 170 は、ユーザによって手動で内側に押し込まれた場合にのみ下方位置に移動することができる。更に、幾つかの実施形態では、作動部材は、作動部材が下方位置にあるときにラッチ本体 102 よりも更に外側に延在してもよい。

【0142】

ラッチ本体 102、ロック部材 130、及び作動部材 170 を含むラッチアセンブリ 100 は、それぞれ別個に形成されてもよく、プラスチック材料又は所望の形状に形成又は成形することができる別の適切な材料などの材料で形成されてもよい。ラッチアセンブリ 100 は、ラッチが経時的にラッチキーパ 70 と係合 / 係合解除される際の繰り返しの応力サイクルに耐えるのに十分なサイズ、厚さ、及び構成材料で作られてもよい。本明細書に記載の容器は、耐久性及び耐摩耗性を提供しながら、容器の容易かつ効率的な製造を確実にする様々な特徴を含む。

【0143】

図 14 ~ 図 16B は、ラッチアセンブリ 100 を有する別の例示的な容器 202 を示し

10

20

30

40

50

、同様の参照番号は、容器 2 内の同じ又は同様の要素を指すが、200 番台の参照番号を含む。容器 202 は、容器 2 と実質的に同様であり、したがって、容器 202 の同様の態様は、本明細書では再び論じられない。しかしながら、容器 202 は、容器 2 との幾つかの違いを含むことができる。容器 202 は、例えば、ベース 4 の側壁構造においてベース部 204 と一体成形され得るハンドル 240 を含む。図 14 ~ 図 16 B に示すように、一体成形ハンドル 240 は、J 字形壁 259 から形成されてもよく、及び / 又は J 字形壁 259 の一部を含んでもよい。したがって、一体成形ハンドル 240 は、容器 202 の周囲の周りに延在するチャンネル 260 の一部を含むことができる。

【0144】

図 17 A ~ 図 26 D は、後述するラッチアセンブリ 400 を有する別の例示的な容器 302 を示し、同様の参照番号は、容器 2 及び 202 内の同じ又は同様の要素を指すが、300 番台の参照番号を含む。容器 302 は、容器 2 及び 202 と実質的に同様であり、したがって、容器 302 の同様の態様は、本明細書では再び論じられない。しかしながら、容器 302 は、容器 2 及び 202 との幾つかの違いを含むことができる。容器 302 は、例えば、ベース部 304 の側壁構造 306 の各側面 308, 310, 312, 314 にベース 304 と一体成形され得るハンドル 340 を含む。更に、容器 302 は、容器 302 に接続することができる様々な付属品を配置及び支持するための複数の取り付け点を備えることができる。これらの取り付け点については、以下でより詳細に説明する。

【0145】

図 17 B に示すように、ベース 304 は、19 A 及び 19 B と共に、ラッチキーパ 370 を含むことができる。ラッチキーパ 370 は、側壁構造 306 から延在してもよく、ベース 304 内にポケットを形成してもよい。ラッチキーパ 370 は、以下でより詳細に説明するように、ロック部材 430 の一部を受け入れるように構成された形状を有することができる。ラッチキーパ 370 は、上面 372 と、内面 374 と、リブ 375 と、下面 376 とを有してもよい。リブ 375 は、側壁構造 306 からラッチキーパ 370 の下面 376 まで延在してもよい。任意選択的に、リブ 375 はまた、ラッチキーパ 370 の上面 372 及び下面 376 又は内面 374 に接続してもよい。リブ 375 は、ラッチキーパ 370 に沿って実質的に中央に配置されてもよい。リブ 375 は、耐久性を向上させるためにラッチキーパ 370 に構造的サポートを追加することができる。別の選択肢として、ラッチキーパ 370 は、ラッチキーパ 370 によって形成されたポケットの片側に配置されて、ラッチキーパ 370 に追加のサポートを提供することができる複数のリブ 375 を含むことができる。以下により詳細に説明するように、ラッチアセンブリ 400 は、容器 302 が閉鎖形態にあるときに、ラッチキーパ 370 と係合して蓋 305 をベース 304 にロックすることができる。

【0146】

更に、ベース 304 は、ラッチキーパ 370 の両側に配置された複数の傾斜面又はテーパー面 371 を含むことができる。傾斜面 371 は、ベース 304 の境界面 336 から下方に傾斜することができ、境界面 336 は、実質的に平坦であり、ベース 304 の周囲の少なくとも 3 つの側面の周りに延在することができる。ベース 304 の界面 336 は、容器 302 が閉位置にあるときに蓋 305 の界面 335 に接触することができる。傾斜面 371 は、界面面 336 から約 45 度、又は 30 度から 60 度の範囲内、又は 20 度から 80 度の範囲内で下向きに傾斜してもよい。傾斜面 371 は、容器 302 を閉じるときにラッチアセンブリ 400 がベース 304 に詰まるのを防止することができ、また、図 21 に示すように、蓋 305 が閉じられるときにラッチアセンブリ 400 の下部に接触して、蓋 305 が閉じられるときにラッチアセンブリ 400 をベースから押し出すことができる。

【0147】

ベース 304 は、ベース 304 の境界面 336 から延びる複数の係合部材 337 を更にも含むことができる。係合部材 337 は、隆起部 334 の外側に配置されてもよい。係合部材 337 は、蓋 305 の凹部又はキャビティ 339 内に延在してもよい。係合部材 337 と凹部 339 との間の相互作用は、容器 302 が閉位置にあるとき、及び複数の容器が積

10

20

30

40

50

み重ねられているとき、又は追加の物品が容器 302 の上部に配置されているときに、蓋 305 とベース 304 との間の接合を強化するための追加の構造的サポートを提供することができる。ベース 304 は、任意の数の係合部材 337 を有することができる。例えば、例示的な実施形態は、4 つの係合部材 337 を示しているが、ベース 304 は、2 つの係合部材、3 つの係合部材、5 つ以上の係合部材を含んでもよい。蓋 305 の凹部 339 の数は、係合部材 337 の数に等しく、ベース 304 の各係合部材 337 に対応する位置で蓋 305 上に配置されてもよい。本実施形態の係合部材 337 は、断面形状が略正方形であるが、円形、三角形、その他の多角形等、どのような断面形状であってもよい。各係合部材 337 は、係合部材 337 の幅以下の高さを有することができる。更に、例示的な実施形態の係合部材 337 及び凹部 339 は、容器 302 の第 1 の側面 308 に配置されているが、係合部材 337 及び凹部 339 は、任意の側面にあってもよく、複数の側面に配置される実施形態を有してもよい。

10

【0148】

別の特徴として、ベース 304 は、ベース 304 の側壁構造 306 の内面 306A に沿って配置された複数のタブ 321 を有することができる。例えば、図 17B 及び図 19A に示すように、タブ 321A は、側壁構造 306 の各角部に配置されてもよい。更に、タブ 321B 及び 321C は、第 1 の側面 308 及び第 2 の側面 310 の内面に沿って配置されてもよい。タブ 321B 及び 321C は、それらが第 1 の側面 308 の長さに沿って整列するように、図 19A に示すように互いに対向して配置されてもよい。図 19A の例示的な実施形態に示すように、内部部分は、8 つのタブ 321 を備えることができ、タブ 321A は、角部のそれぞれに配置され、タブ 321B 及び 321C は、側壁 308, 310 の内面に沿って配置される。タブ 321B 及び 321C は、少なくとも 1 つのタブ 321B、321C が容器 302 の中心線の近くに配置され得るが、好ましくは中心線の両側に配置されるように、ほぼ中央に配置されてもよい。別の選択肢として、複数のタブ 321 は、反対側の内面上のタブ 321 と位置合わせされなくてもよく、互い違いの配置を有してもよい。タブ 321 は、以下で更に説明するように、様々な付属品のための取り付け位置を提供することができる。

20

【0149】

各タブ 321 は、側壁構造 306 の内面 306A から延在し、上側支持面 323 と、上側支持面 323 を通って延在する開口 324 と、タブ 321 の両端の一对の側面とを含むことができる。各タブの上側支持面 323 は、以下で更に説明するトレイ 500 のように、容器 302 の内部の様々な付属品を支持するための係合面を提供することができる。複数のタブ 321 の上側支持面 323 は、支持面 323 がベース 304 を横切って延在し、複数のタブ 321 によって支持され得る付属品を保持することを可能にするために、互いに実質的に同一平面上にあってもよい。タブ 321 の上側支持面 323 は、ベース部の内部の高さの 50% よりも高い高さで、内部面 306A の上側領域に配置されてもよい。別の選択肢として、タブ 321 の上側支持面 323 は、ベース部の内部の高さの 60% よりも高い、又はベース部の内部の高さの 70% よりも更に高い高さに配置されてもよい。内部空間への影響を最小限に抑えるために、各タブ 321 は、各タブ 321 が内面から 1 インチ未満、又は 0.5 インチ未満、又は更には 0.25 インチ未満の距離だけ延在することができるように、薄型を有することができる。また、開口 324 は、どのような形状であってもよいが、細長い形状であることが好ましい。開口 324 は、異なる付属品を更に支持するためのストラップ又は他の取り付け手段のための取り付け点を提供することができる。

30

40

【0150】

別の選択肢として、一对のトラック 326 は、側壁構造 306 の内面 306A のうちの少なくとも 2 つに沿って配置されてもよい。例示的な実施形態に示すように、一对のトラックは、第 1 の及び第 2 の側面 308, 310 の内面のそれぞれに配置されてもよい。一对のトラック 326 のそれぞれは、対向する内面上の一对のトラック 326 と位置合わせされるように中央に配置されてもよい。トラック 326 のそれぞれは、ベース 304 の内

50

面から延在し、内部部分の高さの大部分に沿って延在する高さを有することができる。内部空間への影響を最小限に抑えるために、各トラック 3 2 6 は、各トラック 3 2 6 が内面 3 0 6 A から 1 インチ未満、又は 0 . 5 インチ未満、又は更には 0 . 2 5 インチ未満の距離だけ延びることができるように、薄型を有することができる。トラック 3 2 6 の対は、容器の内部を二つの部分に分離して、保管される物品をより良く編成するために、切断ボードとしても機能し得る取り外し可能な仕切り壁 5 1 0 を支持してもよい。トラック 3 2 6 のそれぞれは、仕切り壁 5 1 0 を確実に保持して仕切り壁が移動するのを防止し、いかなる振動も制限するために、複数の戻り止め又は突起を有することができる。

【 0 1 5 1 】

前述の例示的な容器 3 0 2 と同様に、図 1 7 ~ 図 2 6 D の実施形態は、側壁 3 0 8 , 3 1 0 , 3 1 2 , 3 1 4 のそれぞれに沿って配置された一体成形ハンドル 3 4 0 を有することができる。一体成形ハンドル 3 4 0 のそれぞれは、J 字形壁 3 5 9 から形成されてもよく、及び / 又は J 字形壁 3 5 9 の一部を含んでもよい。したがって、一体成形ハンドル 3 4 0 は、容器 3 0 2 の周囲の周りに延在するチャンネル 3 6 0 の一部を含むことができる。したがって、例示的な容器 3 0 2 は、4 つのハンドル 3 4 0 を備えることができる。ハンドル 3 4 0 は、ベース部 3 0 4 と一体成形されてもよい。幾つかの例では、各ハンドル 3 4 0 は、アンダーカットで形成され、側壁構造 3 0 6 の実質的に全て又は大部分に沿って延びる凹部を含むことができる。この一体成形ハンドル 3 4 0 は、ベース 3 0 4 の製造プロセスを簡略化することができる。幾つかの例では、一体的に成形されたハンドルは、破壊のリスクを低減するために、ベース 3 0 4 の外面と同一平面上にあってもよい。

【 0 1 5 2 】

図 2 2 A ~ 図 2 2 C に示すように、各ハンドル 3 4 0 は、ユーザに人間工学的で快適な把持面を提供するために湾曲した内部輪郭 3 4 5 を有することができる。ハンドルの内部輪郭 3 4 5 は、側壁からハンドル 3 4 0 の内面まで延在する複数のハンドルリブ 3 4 7 を含むことができ、各ハンドルリブ 3 4 7 は、互いに離間した複数のリブ 3 4 7 がハンドル 3 4 0 の湾曲した内部輪郭 3 4 5 を形成するように湾曲した輪郭を有することができる。各リブ 3 4 7 は、各リブ 3 4 7 の幅よりも小さいリブ 3 4 7 間の間隔を有することができる。或いは、各リブ 3 4 7 は、各リブ 3 4 7 の幅以上のリブ 3 4 7 間の間隔を有してもよい。

【 0 1 5 3 】

各ハンドル 3 4 0 は、ハンドル 3 4 0 のハンドル上端面 3 4 3 を通って延びる開口 3 4 1 を有することができ、各開口 3 4 1 は、蓋 3 0 5 の開口 3 4 9 と整列することができる。したがって、ハンドルの開口 3 4 1 と蓋 3 0 5 の開口 3 4 9 とを位置合わせすることにより、ストラップ又は同様の装置が開口 3 4 1 , 3 4 9 を通過して容器 3 0 2 を固定又は拘束するための位置が可能になる。各開口 3 4 1 , 3 4 9 は、細長い形状を有してもよく、全て実質的に同じ長さ及び幅を有してもよい。したがって、これらの開口 3 4 1 , 3 4 9 は、容器 3 0 2 を単に固定するだけでなく、他の操作のための汎用性をユーザに提供することができる。容器 3 0 2 の固定又は固定を更に補助するために、蓋 3 0 5 は、開口 3 4 9 と整列してストラップが容器 3 0 2 を拘束するためのガイド面を提供する凹部又はチャンネル 3 5 1 を有することができる。別の選択肢として、クリップ 5 2 0 を開口 3 4 1 に挿入して、フックループ型接続を使用するための追加の位置を提供して、図 2 3 A 及び図 2 3 B に示すように追加の付属品を保持するための選択肢の更なる汎用性を追加することができる。

【 0 1 5 4 】

容器 3 0 2 の蓋 3 0 5 は、蓋 3 0 5 の内面 3 0 9 に沿って配置された複数のクリップ 3 1 5 を更に備えることができる。例えば、図 2 4 A に示すように、クリップ 3 1 5 A は、内面 3 2 5 のそれぞれの中央に配置されてもよく、一对のクリップ 3 1 5 B 及び 3 1 5 C は、内面 3 2 7 , 3 2 9 のそれぞれに沿って等間隔に配置されてもよい。クリップ 3 1 5 のそれぞれはまた、蓋 3 0 5 の下部内面 3 3 1 上に延びるか、又はそれに接触することができる。クリップ 3 1 5 B 及び 3 1 5 C は、互いに対向して配置されるように位置合わせ

されてもよい。図 1 7 B 及び図 2 4 A の例示的な実施形態に示すように、蓋 3 0 5 は 6 つのクリップ 3 1 5 を含むことができるが、蓋 3 0 5 は任意の数のクリップ 3 1 5 を含むことができる。別の選択肢として、複数のクリップ 3 1 5 は、側壁の内面上で互に対向して配置されず、互い違いの配置を有してもよい。クリップ 3 1 5 は、ユーザが所望する任意の更なるアイテムを固定するための追加のヒッチポイントを含む、カーゴネットもしくはバンジーコードネット 5 1 5、又はストラップ 5 1 6 などの様々な付属品のための取り付け位置を提供することができる。

【 0 1 5 5 】

各クリップ 3 1 5 は、蓋 3 0 5 の内面から延びることができ、係合部材 3 1 7 と、係合部材 3 1 7 を通って延びる開口 3 1 9 とを含むことができる。開口 3 1 9 は、細長い形状であってよく、或いは任意の形状を有してもよい。更に、クリップ 3 1 5 の開口 3 1 9 は、タブ 3 2 1 の開口 3 2 4 と同様の幅を有することができる。これらの開口 3 1 9 は、図 2 6 B ~ 図 2 6 D に示すように、異なる付属品を更に支持するためのストラップ又は他の取り付け手段のための取り付け点を提供することができる。

【 0 1 5 6 】

蓋 5 に関して前述したように、蓋 3 0 5 は、ガasket 3 3 0 を着座させることができる凹部 3 3 2 を含むことができ、凹部 3 3 2 は蓋 3 0 5 の周囲の周りに延在する。凹部 3 3 2 は、蓋 3 0 5 の境界面 3 3 5 内に配置されてもよい。凹部 3 3 2 は、図 2 4 B に示すように、凹部 3 3 2 の側面から延びる複数の保持部材 3 3 3 を含んでもよい。保持部材 3 3 3 は、ガasket 3 3 0 を凹部 3 3 2 内に固定するために、凹部 3 3 2 の周囲の周りの複数の位置でガasket 3 3 0 と係合することができる。各保持部材 3 3 3 は、保持部材 3 3 3 が保持部材 3 3 3 の中央部分の厚さよりも凹部 3 3 2 の開口端に近い保持部材の頂部付近の厚さを有するように、少なくとも 1 つのテーパ面を含むことができる。更に、幾つかの例示的な実施形態では、容器 3 0 2 は、ベース 3 0 4 の周縁の周りに延びる蓋 3 0 5 の凹部 3 3 2 に対向するベース 3 0 4 の隆起部 3 3 4 を含むことができる。隆起部 3 3 4 は、ベース 3 0 4 の境界面 3 3 6 上に配置されてもよい。ガasket 3 3 0 は、蓋 3 0 5 がベース 3 0 4 と係合するときに凹部 3 3 2 と隆起部 3 3 4 との間に配置されてもよい。

【 0 1 5 7 】

幾つかの実施形態では、底部 3 2 0 はまた、及び/又は代替的に、テーブル、地面、車両ベッドなどの表面 1 上で容器 3 0 2 を支持することができる 1 つ以上の脚部 3 2 2 を含むことができる。脚部 3 2 2 は、ゴム又はエラストマーのような滑り止め材料とは別個に形成され、形成後にベース 3 0 4 に取り付けられてもよい。脚部 3 2 2 は、図 2 5 に示すように、容器 3 0 4 が容器 3 0 2 を支持する表面 1 に対して 1 5 度より大きい角度で傾斜したときに容器 3 0 2 をその縁部の 1 つに沿って摺動させることを可能にする「薄型」と考えられる高さを有することができる。或いは、脚部 3 2 2 は、ベース 3 0 4 と一体的に形成されてもよい。

【 0 1 5 8 】

図 2 0 A ~ 図 2 1 は、例示的なラッチアセンブリ 4 0 0 を示し、同様の参照符号はラッチアセンブリ 1 0 0 内の同じ又は同様の要素を指すが、4 0 0 番台の参照符号を含む。ラッチアセンブリ 4 0 0 は、ラッチアセンブリ 1 0 0 と実質的に同様であり、したがって、ラッチアセンブリ 4 0 0 の同様の態様は、本明細書では再び説明されない。ラッチアセンブリ 4 0 0 は、図 2 0 A に示すように、ラッチ本体 4 0 2、ロック部材 4 3 0、付勢部材 4 5 0、及び作動部材 4 7 0 を含む複数の構成要素を含むことができる。前述のラッチアセンブリ 1 0 0 と同様に、ラッチアセンブリ 4 0 0 は、ロック位置及びロック解除位置を含むことができる。

【 0 1 5 9 】

ロック部材 4 3 0 は、ベース部 4 4 0 と、ベース部 4 4 0 から内側に延びる複数のフック部 4 4 2 とを含むことができる。複数のフック部 4 4 2 は、間隙 4 4 1 によって互に離間されてもよい。各フック部 4 4 2 はそれぞれ、下面 4 4 4 及び内向き面 4 4 6 を含むことができる。図 2 0 B に示すように、ラッチアセンブリ 4 0 0 がロック位置にあるとき

、各フック部 4 4 2 の下面 4 4 4 は、ラッチキーパ 3 7 0 の上面 3 7 2 と係合することができ、各フック部 4 4 2 の内向き面 4 4 6 は、ラッチキーパ 3 7 0 の内面 3 7 4 と係合することができる。また、図 2 0 C に示すように、各爪部 4 4 2 間の隙間 4 4 1 に、ラッチキーパ 3 7 0 のリブ 3 7 5 が嵌合するようにしてもよい。更に、ラッチアセンブリ 4 0 0 がロック位置にあるとき、係合ラグ 4 1 2 の上面は、ラッチキーパ 3 7 0 の下面 3 7 6 と係合することができる。

【 0 1 6 0 】

ラッチ本体 4 0 2 は、内面 4 0 8 の上部からロック部材 4 3 0 に向かって内面 4 0 8 に沿って複数のリブ 4 1 3 を含むことができる。リブ 4 1 3 はそれぞれ、リブがロック部材 4 3 0 に向かって延びるときに各リブ 4 1 3 が下部領域よりも上側領域においてより低い高さを有するように、輪郭付けられた高さを有することができる。リブ 4 1 3 は、ラッチアセンブリ 4 0 0 の全体的な重量を低減しながらラッチ本体 4 0 2 を強化するのに役立つ。

10

【 0 1 6 1 】

ラッチアセンブリ 1 0 0 と同様に、ラッチ本体 4 0 2 はまた、作動部材 4 7 0 と回動可能に係合してもよい。作動部材 4 7 0 はまた、ロック部材 4 3 0 と係合してもよく、ロック部材 4 3 0 を下方位置から上方位置に移動させるように構成されてもよい。作動部材 4 7 0 は、ラッチ本体 4 0 2 及び作動部材 4 7 0 を貫通して延在するヒンジ 4 7 2 によってラッチ本体 4 0 2 に回動可能に係合することができる。作動部材 4 7 0 は、グリップ部 4 7 4 と、作動バレル 4 7 6 と、グリップ部 4 7 4 と作動バレル 4 7 6 とを接続する 1 つ以上のアーム 4 7 8 とを含むことができ、作動バレル 4 7 6 は、隆起部 4 8 2 を含むことができる。隆起部 4 8 2 及び作動バレル 4 7 6 は、実質的に平坦な接触面 4 8 3 に沿って互いに接合されてもよい。作動バレル 4 7 6 を適切に支持するために、その領域内のラッチ本体 4 0 2 の内面 4 0 8 は、接触面 4 8 3 に実質的に平行であり、接触面 4 8 3 を支持し、したがって作動バレル 4 7 6 を支持し、作動部材 4 7 0 がラッチ本体 4 0 2 の外面 4 1 0 を超えて後方に回転しないようにするのに助けることができる。別の選択肢として、グリップ部 4 7 4 は、ユーザが滑ることなくグリップ部 4 7 4 を把持するのに更に補助するために、グリップ部 4 7 4 の長さの少なくとも一部を延長する隆起部 4 7 5 を含むことができる。

20

【 0 1 6 2 】

前述したように、傾斜面 3 7 1 は、ラッチアセンブリがベース 3 0 4 に詰まるのを防ぐように作用するとともに、ラッチアセンブリをラッチキーパ 3 7 0 に適切に係合するように位置決めするのに助けるように作用する。

30

【 0 1 6 3 】

図 2 6 A ~ 図 2 6 D は、様々な付属品で構成された前述の容器 3 0 2 を示す。例えば、図 2 6 A は、容器 3 0 2 と、トレイ 5 0 0 とを含む保管システムの実施形態を示し、トレイ 5 0 0 は、複数のタブ 3 2 1、並びに一对のトラック 3 2 6 の間に設置された仕切り壁 5 1 0 によって支持される。図 2 6 B は、蓋 3 0 5 のクリップ 3 1 5 に取り付けられたカーゴネット 5 1 5 を有する図 2 6 A に示すシステムを示す。貯蔵システムの更に別の実施形態が図 2 6 C に示されており、容器 3 0 2 は、タブ 3 2 1 によって支持された 2 つのトレイ 5 0 0 と、蓋 3 0 5 のクリップ 3 1 5 に接続された一对のユーティリティストラップ 5 1 6 とを含み、ユーザが容器 3 0 2 内の任意の所望の物品を取り付けて編成するための複数の場所を提供する。図 2 6 D は、複数のジッパー付き貯蔵区画を含む軟質面貯蔵バッグ 5 1 8 の別の選択肢を示す。前述したように、ベース及び蓋内に複数の取り付け点を設けることによって、容器 3 0 2 は、ユーザに組織化された貯蔵溶液を提供するための貯蔵システムを提供するための付属品の様々なオプションを装備することができる。

40

【 0 1 6 4 】

図 2 7 A ~ 図 2 7 C は、トレイ 5 0 0 の更なる詳細を示す。トレイ 5 0 0 は、複数の貯蔵キャビティ 5 0 4 と共に取り付け面 5 0 3 を伴う本体 5 0 2 を有することができる。貯蔵キャビティ 5 0 4 は、任意のサイズを有してもよく、任意の数のキャビティ 5 0 4 を有するように構成されてもよい。例えば、図 2 7 A ~ 図 2 7 C に示す例示的な実施形態は、

50

3つのキャビティを含み、キャビティのうちの2つは第3のキャビティよりも小さい。トレイ500の別の特徴として、トレイ500は可動ハンドル505を含むことができる。ハンドル505は、図27Bに示す伸長位置から図27Cに示す収縮位置又は格納位置に垂直に移動することができる。伸長位置では、ユーザは、収縮位置にある間に容器302からトレイ500を容易に持ち上げることができ、トレイ500は高さがより低い輪郭又は収納を有する。ハンドル505は、トレイの本体502の開口507に係合する2つの端部506を伴うU字形チューブ状構造を有することができる。管状構造の各端部506は、開口507への設置を可能にするテーパ面508と、ハンドルが取り外されないようにするとともにハンドル505の垂直移動を制限するための確実な停止部を提供する保持面509とを有することができる。

10

【0165】

別の選択肢として、図28～図36～図36Hに示すように、キャリーストラップ600を容器302に取り付けて、ユーザが容器302を容易に持ち上げて運ぶことを可能にすることができる。図28及び図29に示すように、キャリーストラップ600は、各端部604、606の端部分616を容器302のベース304の対向するサイドハンドル340の開口341に挿入することによって設置されてもよい。キャリーストラップ600は、第1の端部604と、第1の端部604の反対側の第2の端部606と、第1の端部604と第2の端部606との間に延びる長尺部材608と、キャリーハンドル610とを有するベース部材602を含んでもよい。第1の端部604及び第2の端部606はそれぞれ、摩擦嵌合を使用してストラップ600を容器302のハンドル340に固定するの

20

【0166】

図28及び図29に示すように、キャリーストラップ600は、端部分616のうちの一方をハンドル340の下方からハンドル340の開口341を通して挿入することによって容器302上に設置されてもよく、端部分616は、長尺部材608に対してハンドル340の上端面343上に回転されてもよい。図示の例に示すように、サイドハンドル340は、係合部材618を受け入れる上端面343の下にオフセットされた凹部342を含むことができる。各端部分616の係合部材618は、層状又は折り畳まれた部分620を含むことができる。長尺部材608は、それ自体の上に折り畳まれ、互いに接合されて係合部材618の内側部分626及び外側部分628を形成することができる。折り畳み部分620は、長尺部材608の少なくとも二層を含み、少なくとも一回の折り畳みを有してもよい。図示の例に示すように、折り畳み部分620は、長尺部材608の三層及び三つ折りを含むことができる。他の例では、折り畳み部分620は、三層及び三つ折りを超えてもよい。折り畳み部分620は、ステッチ、グロメット、又は層と一緒に接合するための当業者に知られている他の手段などの機械的要素622を使用して接合することができる。図示の例では、ステッチ622は、バタックステッチ、ロックステッチ、又は当業者に知られている他のステッチであってもよい。ステッチ622は、接合部に適切な強度を提供するために、約2mm、又は1mmから3mmの範囲内の幅を有することができる。ステッチ622は、それぞれの端部604、606からステッチ622の中心線625まで固定距離624で配置され、内側部分626及び外側部分628を形成することができる。次いで、係合部材618は、ステッチ622の両側で長尺部材608に対して回転して、ストラップ600を容器302に固定することができる。バタックステッチ622はまた、接合部の強度を高めるのに役立ち得る。或いは、折り畳み部分620は、接着剤、テープ、又は当業者に知られている他の手段を使用して接合されてもよい。接着剤又はテープは、単独で、又はステッチ622と組み合わせて使用することができる。図28に示すように、ストラップ600の端部分616がハンドル340の上端面34

30

40

50

3 を通って延びると、係合部材 6 1 8 は、内側部分 6 2 6 が凹部 3 4 2 の内側凹部部分 3 4 2 A に受け入れられ、外側部分 6 2 8 が凹部 3 4 2 の外側凹部部分 3 4 2 B に受け入れられ得るように、ステッチ 6 2 2 に沿って回転することができる。前述したように、ステッチ 6 2 2 は、係合部材 6 1 8 の内側部分 6 2 6 が外側部分 6 2 8 の長さよりも短い長さを有するように、それぞれの端部 6 0 4 , 6 0 6 から一定の距離に配置されてもよい。例えば、内側部分 6 2 6 の長さは、外側部分 6 2 8 の長さの 6 0 % ~ 6 6 % の範囲内、又は外側部分 6 2 8 の長さの 5 5 % ~ 7 0 % の範囲内であってもよい。内側部分 6 2 6 の長さは、係合部材 6 1 8 のステッチ 6 2 2 の中心線からそれぞれの端部までの係合部材 6 1 8 の長さとして測定することができる。同様に、外側部分 6 2 8 の長さは、ステッチ 6 2 2 の中心線から、折り畳まれた部分 6 2 0 の折り目に位置する外側部分 6 2 8 の端部 6 2 9 までの係合部材 6 1 8 の長さとして測定することができる。例えば、内側部分 6 2 6 の長さは、約 7 mm、又は 5 mm から 1 0 mm 範囲内であってもよく、外側部分 6 2 8 の長さは、約 1 1 mm、又は 9 mm から 1 6 mm の範囲内であってもよい。

10

【 0 1 6 7 】

ストラップ 6 0 0 と開口 3 4 1 との間の摩擦嵌合を高めるために、ストラップ 6 0 0 の長尺部材 6 0 8 は、ハンドル 3 4 0 上の開口 3 4 1 の幅よりも大きい各端部分 6 1 6 の幅を有することができる。長尺部材 6 0 8 の幅 W 1 は、長尺部材 6 0 8 の第 1 の側面 6 3 0 から第 2 の側面 6 3 2 までの距離であってもよく、開口 3 4 1 の幅 W 2 は、細長い開口 3 4 1 の小さい方の端部間のスパンにわたる距離として測定されてもよい。幾つかの例では、ベース部材 6 0 2 の幅 W 1 は、開口 3 4 1 の幅 W 2 よりも約 5 % 大きくてもよく、又は開口 3 4 1 の幅 W 2 よりも 3 % ~ 7 % 大きい範囲内であってもよい。ベース部材 6 0 2 の幅 W 1 は一定の幅であってもよく、幅 W 1 は約 3 8 mm 又は 3 5 mm ~ 4 1 mm の範囲内であってもよく、或いは、ベース部材 6 0 2 は可変幅を有してもよく、ベース部材 6 0 2 の幅は、図 3 5 に示すように、キャリアハンドル 6 1 0 を通って延びる中央領域において、端部分 6 1 6 におけるベース部材 6 0 2 の幅よりも小さい幅を有してもよい。図示の例では、キャリアストラップ 6 0 0 は、一定の幅を有するベース部材 6 0 2 を有し、長尺部材 6 0 8 は、図 3 0 に示すように、キャリアハンドル 6 1 0 の内面に沿ってカールし又は包むことができる。これにより、キャリアハンドル 6 1 0 は、端部分 6 1 6 におけるベース部材 6 0 2 の幅よりも小さい幅を有することができる。幾つかの例では、ハンドル 6 1 0 の幅は、端部分 6 1 6 におけるベース部材 6 0 2 の幅の 6 0 ~ 7 5 % の範囲内であってもよい。

20

30

【 0 1 6 8 】

図 2 8 及び図 2 9 に示すように、ストラップ 6 0 0 を容器 3 0 2 に取り付けるために、ストラップ 6 0 0 の第 1 の端部 6 0 4 は、容器 3 0 2 のベース 3 0 4 の第 1 の側面に位置するハンドル 3 4 0 上の細長い開口 3 4 1 を通って挿入されてもよい。端部分 6 1 6 は、長尺部材 6 0 8 の大部分が依然としてハンドル 3 4 0 の下にある状態で、上端面 3 4 3 の上方の開口 3 4 1 を通って延びてもよい。幾つかの例では、端部分 6 1 6 は、端部分 6 1 6 が開口 3 4 1 に挿入されるときにハンドル 3 4 0 の上端面 3 4 3 と鋭角を形成する開口 3 4 1 を通る角度で挿入されてもよい。この鋭角は、1 度 ~ 5 5 度の範囲内であってもよい。次に、係合部材 6 1 8 の内側部分 6 2 6 が凹部 3 4 2 の内側凹部 3 4 2 A 及び凹部 3 4 2 の外側凹部 3 4 2 B 内に平らになるように、係合部材 6 1 8 を長尺部材 6 0 8 に対して回転させることができる。内側凹部部分 3 4 2 A は、細長い開口 3 4 1 から容器 3 0 2 の内部空隙に向かって延びる凹部 3 4 2 の部分であってもよく、外側凹部部分 3 4 2 B は、容器 3 0 2 の内部空隙から離れるように細長い開口 3 4 1 から延びる凹部 3 4 2 の部分であってもよい。凹部 3 4 2 の深さは、内側部分 6 2 6 及び外側部分 3 2 8 の両方の長さよりも大きくてもよい。ストラップ 6 0 0 の第 1 の端部 6 0 4 がベース 3 0 4 の第 1 の側面でハンドル 3 4 0 と係合すると、第 1 の端部 6 0 4 が取り付けられた状態でストラップ 6 0 0 の第 2 の端部 6 0 6 をハンドル 3 4 0 の反対側のベース 3 0 4 の第 2 の側面でハンドル 3 4 0 に取り付けることによって、このプロセスが繰り返される。例えば、第 2 の端部 6 0 6 は、容器 3 0 2 のベース 3 0 4 の第 2 の側面に位置するハンドル 3 4 0 上の細長

40

50

い開口 3 4 1 を通って挿入され、端部分 6 1 6 は上端面 3 4 3 の上方に延び、長尺部材 6 0 8 の大部分はハンドル 3 4 0 の下方にある。第 1 の端部分 6 0 4 を設置するのと同様に、端部 6 0 6 の第 2 の端部分 6 1 6 を挿入してもよく、この場合、端部 6 1 6 は、開口 3 4 1 に挿入されるときにハンドル 3 4 0 の上端面 3 4 3 と鋭角を形成する。この鋭角は、1 度 ~ 5 5 度の範囲内であってもよい。最後に、第 2 の係合部材 6 1 8 は、係合部材 6 1 8 の内側部分 6 2 6 が凹部 3 4 2 の内側部分 3 4 2 A 及び凹部 3 4 2 の外側部分 3 4 2 B 内に平らになるように、長尺部材 6 0 8 に対して回転されてもよい。次いで、ストラップ 6 0 0 は、両端部 6 0 4 , 6 0 6 においてベース 3 0 4 のそれぞれのハンドル 3 4 0 に固定される。容器 3 0 2 は閉じられてもよく、ストラップ 6 0 0 は、容器 3 0 2 を持ち上げるためにストラップハンドル 6 1 0 によってユーザによって把持されてもよい。ストラップ 6 0 0 が持ち上げられると、長尺部材 6 0 8 は、ハンドル 3 4 0 の底部の外側部分に巻き付き、ハンドル 3 4 0 の外面 3 4 6 に接触することができる。

10

【 0 1 6 9 】

前述したように、キャリーストラップ 6 0 0 は、第 1 の端部 6 0 4 と、第 2 の端部 6 0 6 と、第 1 の端部 6 0 4 と第 2 の端部 6 0 6 との間に延在する長尺部材 6 0 8 とを有するベース部材 6 0 2 と、キャリーハンドル 6 1 0 とを含むことができる。キャリーハンドル 6 1 0 は、キャリーストラップ 6 0 0 の全長 L に沿って略中心位置に配置されてもよい。更に、ストラップ 6 0 0 は、キャリーハンドル 6 1 0 の端部 6 1 4 から一定の距離を置いて配置された一対の重なり領域 6 3 4 を含むことができる。重なり領域 6 3 4 は、それ自体の上に折り畳まれ、次いで互いに接合された長尺部材 6 0 8 の三層を含むことができる。幾つかの例では、重なり領域 6 3 4 は、3 つ以上の層を含むことができる。重なり領域 6 3 4 は、重なり領域 6 3 4 の周囲付近に延びるボックス - x ステッチなどのステッチ 6 3 6 を使用して恒久的に接合することができ、ステッチの角部の間に延びる対角ステッチ領域を有する。ステッチ 6 3 6 は、ボックス x ステッチが約 3 0 mm の長さ又は 2 8 から 3 2 mm の範囲内であってもよく、約 3 4 mm の幅又は 3 2 ~ 3 8 mm の範囲内であってもよいように長方形の形状を有してもよい。

20

【 0 1 7 0 】

図 2 8 ~ 図 3 4 に示すステッチ 6 3 6 の代替として、ステッチ 6 3 6 は様々な形状を有することができる。例えば、ステッチ 6 3 6 は、以下のような幾つかの形態であってもよい。(a) 図 3 6 A のようなウェビングに実質的に平行な規則的又は不規則的なバックステッチ ; (b) 図 3 6 B に示すように、折り目に最も近い端部にバータック補強を施したボックスステッチ ; (c) 図 3 6 C に示すように、折り目に最も近い端部にバータック補強を施した箱編み ; (d) 図 3 6 D に示すように、折り目に実質的に平行に配置された単一のバータック又は一連のバータック ; (e) 図 3 6 E のようなウェビングに対して実質的に垂直な規則的又は不規則的なバックステッチ ; (f) 図 3 6 F に示すようなダブル W ステッチパターン ; (g) 図 3 6 G に示すようなジグザグステッチパターン ; (h) 図 3 6 H に示されているような円形又はパターンバータックであり、パターンバータックは、三角形、四側面形、又は 4 側面を超える側面を含む形状などの任意の幾何学的形状であってもよい。更に、図 3 6 H のバータックパターンは、矩形及び三角形のバータックをパターンで一緒に有するなど、異なる幾何学的形状を含むことができる。

30

40

【 0 1 7 1 】

幾つかの例では、重なり領域 6 3 4 は、ステッチのみを使用して接合されてもよく、接着剤を使用して接合されてもよく、接着剤と共にステッチを使用して接合されてもよい。これらの重なり領域 6 3 4 は、キャリーストラップ 6 0 0 の長さ L に沿ってキャリーハンドル 6 1 0 を実質的に中心位置に維持しながら、キャリーストラップ 6 0 0 に追加の強度を提供することができる。キャリーストラップ 6 0 0 の全長 L は、第 2 の容器 3 0 2 が第 1 の容器 3 0 2 の上に積み重ねられるのを妨げないように、キャリーストラップが容器 3 0 2 の前面 3 0 8 又は後面 3 1 0 のいずれかをクリアすることを可能にする長さを有してもよい。

【 0 1 7 2 】

50

キャリーハンドル 610 は、底面 638 に沿って滑らかな表面を形成する長尺部材 608 の周りのポリマーラップから形成されてもよく、また、上面 642 に沿ってハンドル 610 の全長にわたって延びるスロット 640 を有してもよい。キャリーハンドル 610 は、図 33 に示すように、底面 638 に凹状の曲率を有することができる。ベース部材 602 は、繊維材料又はウェビングから形成されてもよい。繊維材料又はウェビングは、キャリーストラップ 600 のベース部材 602 を形成する単一の一体部材であってもよい。他の例では、ベース部材 602 は、複数のウェビング又は織物ストリップによって形成されてもよい。ストラップ材料は、ナイロン、ポリプロピレン、ポリエステル、又は他のポリマー系材料から形成されてもよい。繊維材料又はウェビングは、溶液染色されてもよく、片染色されてもよく、灰色であってもよく、染色されていなくてもよい。

10

【0173】

更に、前述したようなキャリーストラップ 600 は、容器 202 と同様に取り付けることができ、或いは代替例では、キャリーストラップ 600 は、本明細書 2, 202 及び 302 に記載の容器のいずれかにキャリーストラップ 600 を固定するための機械的クリップ又は同様の機械的構造を含むことができる。

【0174】

図 37 ~ 図 44 は、後述するラッチアセンブリ 800 を有する別の例示的な容器 702 を示し、同様の参照符号は、容器 2, 202, 302 内の同じ又は同様の要素を指すが、7x 番台の参照符号を含む。容器 702 は、多くの態様で容器 2, 202、及び 302 と同様であり、したがって、容器 702 の同様の態様は、本明細書では再び説明されない。本明細書に開示される他の容器と同様に、蓋 705 は、ベース 704 に回転可能に取り付けられてもよい。しかしながら、容器 702 は、容器 2, 202、及び 302 との幾つかの違いを含むことができる。容器 702 は、例えば、図 40 に示すように、容器 702 の各端部に取り付けられたストラップハンドル 780 を含む。各ストラップハンドル 780 は、容器 702 の各端部のハンドル 740 に取り付けることができる。更に、容器 702 は、容器 302 よりも大きくてもよく、図 26A ~ 図 26D に示す容器 702 に取り付けられた付属品と同様に、容器 302 に取り付けられ得る様々な付属品を配置及び支持するための複数の取り付け点を含んでもよい。

20

【0175】

各ストラップハンドル 780 は、ユーザが容器 702 を持ち上げて移動させることを可能にするための可撓性インタフェースを提供することができる。各ストラップハンドル 780 は、ストラップ部分 781 及びキャリーハンドル 782 を含むことができ、ストラップ部分 781 の各端部 783 は、ピン 784 を受け入れるための開口を形成する重なり領域を有することができる。ストラップハンドル 780 を容器 702 に固定するために、ピン 784 は、ストラップ部分 781 の各端部 783 の開口を通して延在し、ハンドル 740 の両端に配置されたクレビス部分 785 に受け入れられてもよい。ストラップ部分 781 は、ベース部材 602 と同様の材料であってもよく、また、キャリーハンドル 782 は、前述のキャリーストラップ 600 のキャリーハンドル 610 と同様であってもよい。

30

【0176】

図 41 ~ 図 44 は、例示的なラッチアセンブリ 800 を示し、同様の参照符号は、ラッチアセンブリ 100 及び 400 と同じ又は同様の要素を指すが、8x 番台の参照符号を含む。ラッチアセンブリ 800 はラッチアセンブリ 100 及び 400 と同様であり、したがって、ラッチアセンブリ 800 の同様の態様は本明細書では再び説明されない。ラッチアセンブリ 800 は、図 41 及び図 42 に示すように、ラッチ本体 802、ロック部材 830、付勢部材 850、及び作動部材 870 を含む複数の構成要素を含むことができる。前述したラッチアセンブリ 100 及び 400 と同様に、ラッチアセンブリ 800 は、ロック位置及びロック解除位置を含むことができる。ロック部材 830 は、ロック部材 830 が実質的に直線的な経路で上方位置又はロック解除位置と下方位置又はロック解除位置との間で移動できるように、ラッチ本体 802 と摺動可能に係合することができる。ロック部材 830 は、ロック部材 830 が下方位置又はロック位置にあるときに蓋 7

40

50

05を閉鎖形態でロックし、ロック部材830が上方位置又はロック解除位置にあるときに蓋705をロック解除するように構成されてもよい。或いは、ラッチアセンブリ800は、摺動可能に配置されたロック部材830が、ロック部材830がロック位置に対応する上方位置に移動することができ、ロック解除位置に対応する下方位置に移動することができるように構成され得るように配置されてもよい。

【0177】

ロック部材830は、ベース部840と、ベース部840から内側に延びる複数のフック部842とを含むことができる。複数のフック部842は、間隙841によって互いに離間されてもよい。各フック部842はそれぞれ、下面844及び内向き面846を含むことができる。ラッチアセンブリ800がロック位置にあるとき、各フック部842の下面844は、ラッチキーパ770の上面772と係合することができ、各フック部842の内向き面846は、ラッチキーパ770の内面と係合することができる。また、各フック部842間の隙間841に、ラッチキーパ770のリブ775を嵌め込んでもよい。更に、ラッチアセンブリ800がロック位置にあるとき、係合ラグ812の上面は、ラッチキーパ770の下面776と係合することができる。ベース304と同様に、ベース704は、ラッチキーパ770の両側に配置された複数の傾斜面又はテーパ面771を含むことができる。傾斜面771は、ベース704の境界面736から下方に傾斜してもよい。

【0178】

図41に示すように、ラッチ本体802は、内面808に沿って複数のリブ813を含むことができ、ロック部材830に隣接して配置された垂直に配向されたリブ813Aを含むことができる。リブ813はまた、内面808の大部分又は内面808全体にわたって延在する水平に配向されたリブ813Bを含むことができる。更に、リブ813Cは、リブ813Bの下に配置され、内面808を横切って断続的に延在して、ロック部材830がロック解除位置に上方に移動したときにロック部材830の垂直ストッパとして機能することができる。リブ813はまた、ラッチアセンブリ800の全体的な重量を低減しながらラッチ本体802を強化するのを助けることができる。リブ813Bは、ガイド部材832を支持するマウント814を含むことができ、ガイド部材832は、マウント814からロック部材830のベース840に接続することができる。幾つかの例では、ガイド部材832は、ロック部材830のベース840の開口を通して延びることができる。付勢部材850は、ラッチ本体802のマウント814とロック部材830のベース840との間に配置されてもよく、幾つかの例では、ガイド部材832は付勢部材850と協働して、ラッチ本体802に対するロック部材830の円滑な移動を可能にしてもよい。図41～図44の図示の例に示すように、付勢部材850は圧縮ばねであってもよく、ガイド部材832は、付勢部材850の開口を通して延びる円筒形状を有してもよい。ラッチアセンブリ100及び400と同様に、付勢部材850は、ロック部材830を下方位置又はロック位置に付勢するように構成されてもよい。代替例では、付勢部材850は、ロック部材830を下方位置に付勢するための任意の適切な装置であってもよい。図42～図44に示すように、各ラッチアセンブリ800は、一对のガイド部材832と、一对の付勢部材850とを含むことができる。

【0179】

ラッチアセンブリ100及び400と同様に、ラッチ本体802はまた、作動部材870と回動可能に係合することができる。作動部材870は、ロック部材830と係合し、ロック部材830を下方又はロック位置から上方又はロック解除位置に移動させるように構成されてもよい。作動部材870は、ラッチ本体802及び作動部材870を貫通して延在するヒンジ872によってラッチ本体802に回動可能に係合することができる。幾つかの例では、作動部材870は、ラッチ本体802と摺動可能に係合してもよい。作動部材870は、グリップ部874と、作動バレル876と、グリップ部874を接続する1つ以上のアーム878とを含むことができる。作動バレル876は、一对の隆起部882を含むことができ、各隆起部882は、ロック部材830のベース840の底面から延びる係合部材848と係合することができる。各隆起部882は、実質的に三角形の形状

10

20

30

40

50

を有してもよく、又は他の例では、異なる幾何学的形状を有してもよい。各係合部材 8 4 8 は、互いに離間して、ベース 8 4 0 の底面と作動バレル 8 7 6 との間に開口 8 4 9 を形成することができる。幾つかの例では、係合部材 8 4 8 間の距離（開口 8 4 9 を横切る距離）は、互いに 3 0 mm ~ 4 0 mm の範囲内であってもよい。係合部材 8 4 8 を互いに離間させることによって、ラッチ 8 0 0 を通る負荷経路が改善され得るため、ラッチ 8 0 0 はより堅牢であり、落下衝撃などの高応力事象の間、より良好に閉じたままであり得る。各ガイド部材 8 3 2 の一部は、ロック部材 8 3 0 の係合部材 8 4 8 の間の開口 8 4 9 内に延在してもよい。図 4 3 及び図 4 4 に示すように、付勢部材 8 5 0 及びガイド部材 8 3 2 は、一对の隆起部 8 8 2 の間に横方向に配置されてもよい。外側に配置され、互いに離間した隆起部 8 8 2 のこの配置は、ラッチアセンブリ 8 0 0 が容器 7 0 2 の角部に落下するなどの大きな衝撃荷重などの異なる環境応力にさらされた場合に、ラッチアセンブリ 8 0 0 の耐久性を向上させてロック位置に留まるのに役立ち得る。ラッチアセンブリ 1 0 0 及び 4 0 0 と同様に、作動バレル 8 7 6 が回転すると、隆起部 8 8 2 は、ロック部材 8 3 0 の係合部材 8 4 8 に接触して係合し、これにより、ロック部材 8 3 0 が上昇する。ロック部材 8 3 0 が上方に移動すると、フック部 8 4 2 がラッチキーバ 7 7 0 から外れ、ラッチアセンブリ 8 0 0 がロック位置からロック解除位置に移動する。

【0180】

図 4 5 ~ 図 5 6 は、多くの態様において容器 2 , 2 0 2 , 3 0 2 , 7 0 2 と同様であり得るが、同様の参照符号で説明される別の例示的な容器 9 0 2 を示し、容器 2 , 2 0 2 , 3 0 2 , 7 0 2 内の同じ又は同様の要素を指すが、9 X X 番台の参照符号を含む。容器 9 0 2 は、多くの態様で容器 2 , 2 0 2 , 3 0 2 , 7 0 2 と同様であり、したがって、容器 9 0 2 の同様の態様は、本明細書では再び説明されない。例えば、容器 9 0 2 は、ストラップハンドル 7 8 0 と同様に、容器の各端部にストラップハンドル 9 8 0 を含むことができる。容器 9 0 2 はまた、複数のラッチアセンブリ 8 0 0 を含むことができ、複数のラッチアセンブリ 8 0 0 は、容器 9 0 2 の隣接する側に配置することができる。例えば、容器 9 0 2 は、前面 9 0 8 に 3 つのラッチアセンブリ 8 0 0 を含み、前面 9 0 8 に隣接する各側面 9 1 2 , 9 1 4 に単一のラッチアセンブリ 8 0 0 を含む。前面 9 0 8 は、左右の側面 9 1 2 , 9 1 4 よりも長くてもよい。しかしながら、容器 9 0 2 は、容器 2 , 2 0 2 , 3 0 2 , 7 0 2 との幾つかの違いを含むことができる。特に、容器 9 0 2 は、長さ、幅、及び容積の両方において容器 2 , 2 0 2 , 3 0 2 , 7 0 2 よりも大きくてもよい。任意選択的に、幾つかの例では、容器 2 , 2 0 2 , 3 0 2 , 7 0 2 , 9 0 2 は、ベースに取り外し可能に接続された蓋を有することができ、ラッチが前面 9 0 8 、前面 9 0 8 の反対側の後面 9 1 0 、右側面 9 1 2 、及び右側面 9 1 2 の反対側の左側面 9 1 4 に配置されるように、ラッチがラッチの全てのラッチをアンラッチすることによって蓋を取り外すことができるように、本体及び蓋の各側面に沿ってラッチを配置することができる。

【0181】

そのより大きなサイズのために、容器 9 0 2 は、図 4 5 及び図 4 6 に示すように、ユーザがそれを容易に動かすのを助けるための一对のホイールアセンブリ 9 8 6 を含むことができる。ホイールアセンブリ 9 8 6 は、ベース部 9 0 4 の底部 9 2 0 に取り付けられてもよく、又はベース部 9 0 4 の底部 9 2 0 と右側 9 1 2 の両方に取り付けられてもよい。ホイールアセンブリ 9 8 6 は、ホイールハウジング 9 8 7 及びホイール 9 8 8 を含むことができ、ホイールハウジング 9 8 7 がベース部 9 0 4 に取り付けられる前に、各ホイール 9 8 8 をホイールハウジング 9 8 7 に取り付けることができる。各ホイールアセンブリ 9 8 6 は、ベース部 9 0 4 上のホイール凹部 9 8 9 内に固定されてもよい。各ホイールアセンブリ 9 8 6 は、少なくとも 1 つの機械的締結具を使用して凹部内に固定されてもよい。

【0182】

容器 9 0 2 のベース部 9 0 4 は、側壁構造 9 0 6 の内面 9 0 6 A の少なくとも 2 つに沿って配置された一对のトラック 9 2 6 を含むことができる。図 4 7 ~ 図 4 9 に示すように、内面 9 0 6 A は、前側及び後側 9 0 8 , 9 1 0 の内面のそれぞれに互いに対向して配置及び整列された 2 対のトラック 9 2 6 を含むことができる。トラック 9 2 6 の各対は、互

10

20

30

40

50

いに離間していてもよく、トラックの各対は、図 5 7 に示す取り外し可能な仕切り壁 5 2 5 を受け入れることができる。容器 9 0 2 用の取り外し可能な仕切り壁 5 2 5 は、仕切り壁 5 1 0 と同様であってもよいが、容器 9 0 2 に適合するように大きくてもよい。各トラック 9 2 6 はまた、側壁構造 9 0 6 の内面 9 0 6 A から底部 9 2 0 の内面まで延在してもよい。更に、図 4 9 に示すように、各トラック 9 2 6 は、各トラック 9 2 6 の外向き表面 9 9 1 と側壁構造 9 0 6 の外向き表面及び / 又は容器 9 0 2 の底部 9 2 0 の外向き表面との間に中空キャビティ 9 9 0 を含むことができる。中空キャビティ 9 9 0 は、ベース部 9 0 4 が成形されるときにガスアシスト成形プロセスによって形成されてもよい。中空キャビティ 9 9 0 は、各トラック 9 2 6 が実質的に一定の壁厚を有することを可能にすることができる。幾つかの例では、中空キャビティ 9 9 0 は、高さよりも大きい長さを有することができ、長さは容器 9 0 2 の最長寸法に沿って測定され、高さは上から下方向に測定される。中空キャビティ 9 9 0 の長さは、各トラック 9 2 6 の壁厚の約 3 倍、又は各トラック 9 2 6 の壁厚の 2 倍及び 4 倍の範囲内であってもよい。中空キャビティ 9 9 0 の高さは、各トラック 9 2 6 の壁厚の 1 . 5 倍 ~ 2 . 5 倍であってもよい。前述したように、トラック 9 2 6 は、取り外し可能な仕切りを受け入れることができるが、容器 9 0 2 の側壁構造 9 0 6 を構造的に補強するためのリブとしても作用することができる。

【 0 1 8 3 】

ベース 9 0 4 はまた、側壁構造 9 0 6 の内面 9 0 6 A に沿って配置された前述のタブ 3 2 1 と同様の複数のタブ 9 2 1 を含むことができる。例えば、図 4 8 に示すように、タブは、側壁構造 9 0 6 の各内面 9 0 6 A に沿って配置されてもよい。タブ 9 2 1 の対は、様々な付属品を支持するために互いに対向して配置されてもよい。図 4 8 の例示的な実施形態に示すように、内面 9 0 6 A は 1 2 個のタブ 9 2 1 を含むことができるが、タブ 9 2 1 の数は 1 2 個より多くても少なくてもよい。更に、ベース 9 0 4 は、内面 9 0 6 A の各コーナーに角部支持体 9 9 2 を含むことができる。各角部支持体 9 9 2 は、内面 9 0 6 A から容器 9 0 2 の内部空隙に向かって内側に突出してもよい。角部支持体 9 9 2 は、各タブ 9 2 1 の上側支持面 9 2 3 と実質的に同一平面上にある上面 9 9 3 を有することができる。これらの角部支持体 9 9 2 は、トレイ 5 6 0 のような付属品又は必要に応じて他の付属品を支持するのを助けることができる。図 5 0 に示すように、各角部支持体 9 9 2 は、角部支持体 9 9 2 の外向き面 9 9 5 と側壁構造 9 0 6 及び底部 9 2 0 の外向き面との間に中空キャビティ 9 9 4 を含むことができる。中空キャビティ 9 9 4 は、ベース部 9 0 4 が中空キャビティ 9 9 0 と同様に成形される場合、ガスアシスト成形プロセスによって形成されてもよい。中空キャビティ 9 9 0 は、各角部支持体 9 9 2 が実質的に一定の壁厚を有することを可能にすることができる。更に、各角部支持体 9 9 2 は、ベース 9 0 4 の高さの大部分に沿って延在し、側壁構造 9 0 6 から底部 9 2 0 の内面上に延在してもよい。角部支持体 9 9 2 はまた、ベース 9 0 4 を強化及び補強するのに役立つことができる。

【 0 1 8 4 】

幾つかの例では、トラック 9 2 6 及び角部支持体 9 9 2 は、一体部材として側壁構造 9 0 6 と共に形成されてもよい。或いは、トラック 9 2 6 及び角部支持体 9 9 2 は、E m a b o n d (登録商標)などのポリマー溶接技術を使用して別個に恒久的に取り付けられてもよく、又は接着剤もしくは他の恒久的接合技術を使用して取り付けられてもよい。

【 0 1 8 5 】

本明細書に開示される他の容器と同様に、蓋 9 0 5 は、ベース 9 0 4 に回動可能に取り付けられてもよい。幾つかの例では、蓋 9 0 5 はまた、蓋支持部材 1 0 0 0 を有してもよい。蓋支持部材 1 0 0 0 は、蓋 9 0 5 の内面 9 0 9 に取り外し可能に又は恒久的に取り付けられてもよい。蓋支持部材 1 0 0 0 の一部は、蓋 9 0 5 の内面 9 0 9 に接触して、重い物品が蓋 9 0 5 の上に置かれる場合など、装填中に蓋 9 0 5 に追加の曲げ強度を提供することができる。更に、蓋支持部材 1 0 0 0 は、様々な付属品 5 5 0 又は他の物品を蓋支持部材 1 0 0 0 に取り外し可能に接続して、ユーザがこれらの物品に容易にアクセスできるようにするためのホルダーとして機能することができる。様々な付属品 5 5 0 は、蓋支持部材 1 0 0 0 の開口を通して延びるストラップ 1 0 3 0 を使用して蓋支持部材 1 0 0 0

10

20

30

40

50

に固定されてもよい。図 5 5 ~ 図 5 6 に示されるように、様々な保管バッグ又は他の物品は、ストラップ 1 0 3 0 を使用して蓋支持部材 1 0 0 0 に解放可能に取り付けられてもよい。

【 0 1 8 6 】

図 5 1 ~ 図 5 6 に示すように、蓋支持部材 1 0 0 0 は、複数の前横リブ 1 0 0 4 及び複数の前縦リブ 1 0 0 6 によって形成された前面 1 0 0 2 を有する一次壁 1 0 0 1 を含むことができ、前横リブ 1 0 0 4 及び前縦リブの大部分は、格子状構造を形成するほぼ垂直な向きで互いに交差する。前面 1 0 0 2 は、実質的に平面であってもよく、前横リブ 1 0 0 4 が前縦リブ 1 0 0 6 よりも広い部分を前面 1 0 0 2 に形成する格子状の形状を有してもよい。一次壁 1 0 0 1 は、外周壁 1 0 0 8 に接続することができ、外周壁 1 0 0 8 は、蓋支持部材 1 0 0 0 を蓋 9 0 5 に取り付けるための機械的締結具を受け入れるための開口部 1 0 1 0 を含むことができる。一次壁はまた、前面 1 0 0 2 の反対側に位置する後面 1 0 1 2 を含むことができ、後面 1 0 1 2 は、複数の後横リブ 1 0 1 4 及び複数の後縦リブ 1 0 1 6 によって形成することができる。後面 1 0 1 2 は、格子状の形状を有してもよく、また、実質的に平面であり、前面 1 0 0 2 に実質的に平行であってもよい。更に、後縦リブ 1 0 1 6 は、後縦リブ 1 0 1 6 の隣接する対 1 0 1 8 の間により大きな間隔を空けて互いに離間した対 1 0 1 8 で配置されてもよい。後面 1 0 1 2 の一部は、蓋 9 0 5 の内面 9 0 9 に接触して、必要に応じて蓋 9 0 5 に追加の支持を提供するのを助けることができる。或いは、蓋支持部材 1 0 0 0 は、必要に応じて蓋 9 0 5 に追加の支持を提供するのを助けるために、後面 1 0 1 2 から延在し、蓋 9 0 5 の内面 9 0 9 に接触する複数の接触部材を有することができる。これらの接触部材は、一次壁 1 0 0 1 を通って延びる機械的締結具を使用して蓋 9 0 5 に取り外し可能に又は恒久的に接続された後リブ及び / 又はボスであってもよい。機械的ファスナは、互いに等間隔に離間されてもよく、又は非対称パターンで配置されてもよい。複数の接続部材 1 0 2 0 は、前面 1 0 0 2 と後面 1 0 1 2 との間に配置されてもよい。各接続部材 1 0 2 0 は、隣接する後横リブ 1 0 1 4 と後縦リブ 1 0 1 6 の隣接する対 1 0 1 8 とに接続し、それらの間に延在することができる。各接続部材 1 0 2 0 はまた、隣接する前横リブ 1 0 0 4 と隣接する前縦リブ 1 0 0 6 とに接続し、それらの間に延在することができる。前リブ 1 0 0 4、1 0 0 6 のそれぞれは、前面 1 0 0 2 から隣接する接続部材 1 0 2 0 まで延在するテーパ領域を含むことができる。図示の例では、前部及び後部横リブ 1 0 0 4、1 0 1 4 は、ほぼ水平方向に配向され、前部及び後部縦リブ 1 0 0 6、1 0 1 6 は、外周壁 1 0 0 8 に対してほぼ垂直方向に配向される。しかしながら、横リブ 1 0 0 4、1 0 1 4 及び縦リブ 1 0 0 6、1 0 1 6 は、外周壁 1 0 0 8 の縁部に対して様々な角度で配向されてもよいと考えられる。更に、横リブ 1 0 0 4、1 0 1 4 は、対応する縦リブ 1 0 0 6、1 0 1 6 に対して様々な角度で配向されてもよく、幾つかの例では、前リブ 1 0 0 4、1 0 0 6 は、後リブ 1 0 1 4、1 0 1 6 が互いに配向されるのとは異なる角度で互いに配向されてもよい。

【 0 1 8 7 】

更に、前横リブ 1 0 0 4 の大部分は、リブ 1 0 0 4 を通って延びる横リブ開口 1 0 2 2 を有することができる。横リブ開口 1 0 2 2 は、各接続部材 1 0 2 0 の前面 1 0 0 2 と外向き面 1 0 2 4 との間に配置されてもよい。幾つかの例では、前横リブ 1 0 0 4 のそれぞれは、横リブ開口 1 0 2 2 を有することができる。各横リブ開口 1 0 2 2 は、細長い形状であってもよく、ストラップ 1 0 3 0 をリブ開口 1 0 2 2 に通して、物品を蓋支持部材 1 0 0 0 に固定するための経路を形成してもよい。同様に、前縦リブ 1 0 0 6 の大部分は、リブ 1 0 0 6 を通って延びる縦リブ開口 1 0 2 6 を有することができる。縦リブ開口 1 0 2 6 は、各接続部材 1 0 2 0 の前面 1 0 0 2 と外向き面 1 0 2 4 との間に配置されてもよい。幾つかの例では、前縦リブ 1 0 0 6 のそれぞれは、縦リブ開口 1 0 2 6 を有することができる。各縦リブ開口 1 0 2 6 は、細長い形状であってもよく、付属品 5 5 0 を蓋支持部材 1 0 0 0 に固定するために、縦リブ開口 1 0 2 6 を通してストラップ 1 0 3 0 を送るための経路を形成してもよい。複数の横方向及び縦方向リブ開口 1 0 2 2、1 0 2 6 は、付属品 5 5 0 を蓋支持部材 1 0 0 0 に固定するために、縦方向又は横方向のいずれかにス

10

20

30

40

50

トラップ 1 0 3 0 を受け入れるための複数の経路を形成する。付属品 5 5 0 を蓋支持部材 1 0 0 0 に固定するために、ストラップ 1 0 3 0 を横リブ開口 1 0 2 2 又は縦リブ開口 1 0 2 6 のいずれかに挿入することができ、次いで、ストラップ 1 0 3 0 を、取り付けたい付属品の一部の周りに巻き付け、次いで、フックループ型コネクタ又は他のタイプの接続によってそれ自体に固定することができる。或いは、付属品 5 5 0 は、付属品 5 5 0 を蓋支持部材 1 0 0 0 に固定するためにリブ開口 1 0 2 2、1 0 2 6 の一方を通して送られ得る一体型又は取り外し可能なストラップ 1 0 3 0 を有してもよい。

【 0 1 8 8 】

図 5 7 ~ 図 5 9 は、蓋支持部材 1 0 0 0 の代わりに蓋支持部材 1 1 0 0 を有することを除いて、例示的な容器 9 0 2 の別のバージョンを示す。更に、図 5 7 ~ 図 5 9 の容器 9 0 2 は、蓋ステイロッドアセンブリ 1 1 4 0 と、後述するキックアウトリブ 1 1 7 0 とを含むことができる。本明細書に開示される他の容器と同様に、蓋 9 0 5 は、ヒンジでベース 9 0 4 に回動可能に取り付けられてもよい。幾つかの例では、蓋 9 0 5 はまた、蓋支持部材 1 1 0 0 を有してもよい。蓋支持部材 1 1 0 0 は、蓋 9 0 5 の内面 9 0 9 に取り外し可能に又は恒久的に取り付けられてもよい。蓋支持部材 1 1 0 0 は、前面 1 1 0 4 と、前面 1 1 0 4 の反対側の後面とを有する一次壁 1 1 0 2 を含むことができる。一次壁 1 1 0 2 は、外周壁 1 1 0 8 に接続することができ、外周壁 1 1 0 8 は、蓋支持部材 1 1 0 0 を蓋 9 0 5 に取り付けるための機械的締結具 1 1 1 2 を受け入れるための開口部 1 1 1 0 を含むことができる。一次壁 1 1 0 2 は、蓋 9 0 5 の内面 9 0 9 に複数の位置で接触することができる。例えば、一次壁 1 1 0 2 は、後面から延びて蓋 9 0 5 の内面 9 0 9 に接触し、蓋 9 0 5 を支持するのを助ける後リブ又はボスを含むことができる。これらの後リブ及び / 又はボスは、一次壁 1 1 0 2 を通って延びる機械的締結具 1 1 1 2 を使用して蓋 9 0 5 に取り外し可能に又は恒久的に接続されてもよい。機械的ファスナ 1 1 1 2 は、図 5 8 に示すように互いに等間隔に離間されてもよく、又は非対称パターンで配置されてもよい。蓋支持部材 1 1 0 0 は、重い物品が蓋 9 0 5 の上に置かれるときなど、装填中に蓋 9 0 5 に追加の曲げ強度を提供することができる。

【 0 1 8 9 】

貯蔵バッグ 5 4 0 などの物品を蓋支持部材 1 1 0 0 に固定するために使用されるストラップ又は他の部材を受け入れるように構成される、一次壁 1 1 0 2 を貫通して延びる複数の開口 1 1 1 4。開口 1 1 1 4 は、細長い形状を有してもよい。幾つかの例では、開口 1 1 1 4 は、幅の二倍又は三倍であり得る長さを有する長方形の形状を有し得る。更に、開口支持リブ 1 1 1 6 は、各開口 1 1 1 4 を横切って延在してもよい。開口支持リブ 1 1 1 6 は、各開口 1 1 1 4 の背後に延在してもよく、後面 1 1 0 6 から所定の距離だけ離間されてもよく、開口支持リブ 1 1 1 6 の縁部 1 1 2 0 と開口 1 1 1 4 の端部 1 1 2 2 との間に隙間 1 1 1 8 を形成して、蓋支持部材 1 1 0 0 に取り付けられた物品からストラップを経路付けることができる。隙間 1 1 1 8 は、開口 1 1 1 4 の両端部 1 1 2 2 付近に配置されてもよい。更に、蓋支持部材 1 1 0 0 は、図 5 5 ~ 図 5 6 に示す様々な付属品 5 5 0 又は図 5 7 に示す貯蔵バッグ 5 4 0 などの他の物品を可能にするように作用することができる。

【 0 1 9 0 】

別の選択肢として、容器 9 0 2 は、蓋 9 0 5 が完全に開いた構成（すなわち、蓋 9 0 5 は、ベース 9 0 4 に対してほぼ垂直に向けられている）にあるときに蓋 9 0 5 が誤って閉じるのを防止するために、ベース 9 0 4 と蓋 9 0 5 との間に延在する蓋ステイロッドアセンブリ 1 1 4 0 を有することができる。蓋ステイロッドアセンブリ 1 1 4 0 は、蓋 9 0 5 が全開放形態に開放されたときに剛性構造に自動的にロックする伸縮アセンブリであってもよい。蓋ステイロッドアセンブリ 1 1 4 0 は、蓋 9 0 5 を閉じることを可能にするために解放機構 1 1 4 2 を作動させることをユーザに要求することができる。蓋ステイロッドアセンブリ 1 1 4 0 は、蓋 9 0 5 が閉鎖形態にあるときにロッドアセンブリ 1 1 4 0 が格納構成に折り畳まれることを可能にするために、蓋 9 0 5 とベース 9 0 4 の両方に回動可能に取り付けられてもよい。蓋ステイロッドアセンブリ 1 1 4 0 は、側壁構造 9 0 6 の右

側面 9 1 2 の近くに配置されてもよい。或いは、蓋ステイロッドアセンブリ 1 1 4 0 は、側壁構造 9 0 6 の左側 9 1 4 に配置されてもよい。容器 9 0 2 に示されているが、同様に配置された蓋ステイロッドアセンブリ 1 1 4 0 は、本明細書に記載の容器のいずれかに含まれてもよい。

【0191】

前述したように、容器 9 0 2 は、側壁構造 9 0 6 の前面 9 0 8 及び側壁構造 9 0 6 の側面 9 1 2 , 9 1 4 に配置されたラッチキーパ 9 7 0 と係合するように蓋 9 0 5 に配置された複数のラッチアセンブリ 8 0 0 を含むことができる。蓋 9 0 5 がヒンジを用いてベース 9 0 4 に回動可能に接続されると、蓋 9 0 5 は、ヒンジを中心に回動するにつれて円弧状の動きで開くことができる。側面 9 1 2 , 9 1 4 に配置されたラッチアセンブリ 8 0 0 A が蓋 9 0 5 の開閉を結合及び / 又は阻害しないようにするために、側壁構造の側面 9 1 2 , 9 1 4 は、キックアウトリブ 1 1 7 0 を含むことができる。ベース 3 0 4 及び 7 0 4 と同様に、ベース 9 0 4 は、ラッチキーパ 9 7 0 の両側に配置された複数の傾斜面又はテーパ面 9 7 1 を含むことができる。傾斜面 9 7 1 は、ベース 9 0 4 の境界面 9 3 6 から下方に傾斜してもよい。傾斜面 9 7 1 は、ラッチキーパ 9 7 0 A の第 1 の端部に隣接する第 1 の傾斜面 9 7 1 と、ラッチキーパ 9 7 0 A の第 2 の端部に隣接する第 2 の傾斜面 9 7 1 とを含むことができる。キックアウトリブ 1 1 7 0 は、側壁構造 9 0 6 の側面 9 1 2 , 9 1 4 から延在してもよく、又は図 5 9 に示すように、ラッチキーパ 9 7 0 A の両側に配置された傾斜面 9 7 1 のいずれか又は両方から延在してもよい。キックアウトリブ 1 1 7 0 は、傾斜面 9 7 1 の外側部分に配置されてもよい。キックアウトリブ 1 1 7 0 は、蓋 9 0 5 が開放形態から閉鎖形態に移動するとき、又は蓋 9 0 5 が閉鎖形態から開放形態に移動するときにラッチアセンブリ 8 0 0 A が結合するのを防ぐために、ラッチアセンブリ 8 0 0 A をベース 9 0 4 から押し離すことができる。

【0192】

前述したように、各ラッチアセンブリ 8 0 0 は、ヒンジ又はラッチピン 8 0 6 を使用して蓋 9 0 5 と回動可能に係合することができる。各ラッチアセンブリ 8 0 0 は、ラッチアセンブリ 8 0 0 がロック位置にあるときにラッチキーパ 9 7 0 と係合することができる。各ラッチキーパ 9 7 0 A は、側壁構造 9 0 6 の側面 9 1 2 及び 9 1 4 に配置されてもよく、上面 9 7 2 、内面、下面 9 7 6 を含んでもよい。幾つかの例では、キックアウトリブ 1 1 7 0 は、傾斜面 9 7 1 から延在してもよく、傾斜面 9 7 1 の両端に配置されてもよい。傾斜面 9 7 1 は、前述の傾斜面 3 7 1 と同じ特性を有することができる。図示の例に示すように、キックアウトリブ 1 1 7 0 は、傾斜面 9 7 1 の上部から延在してもよく、又はベース 9 0 4 の接合面 9 3 6 の縁部から延在してもよい。各キックアウトリブ 1 1 7 0 は、ラッチキーパ 9 7 0 の前面 9 7 7 を越えて外側に延在してもよい。各キックアウトリブ 1 1 7 0 は、傾斜面 9 7 1 から分岐して外向き下方に延在する上側傾斜面 1 1 7 2 と、上側傾斜面 1 1 7 2 に向かって収束する下側傾斜面 1 1 7 4 とを有することができる。幾つかの例では、上側傾斜面 1 1 7 2 は、傾斜面 9 7 1 と実質的に同一平面上にあってもよい。丸みを帯びた縁部 1 1 7 6 は、上側傾斜面 1 1 7 2 と下側傾斜面 1 1 7 4 との間に延びることができる。更に、蓋 9 0 5 が閉鎖形態にあるとき、キックアウトリブ 1 1 7 0 は、ラッチアセンブリ 8 0 0 のラッチ本体 8 0 2 と側壁構造 9 0 6 の隆起部 9 6 4 との間に配置されてもよい。

【0193】

蓋 9 0 5 が開放形態から閉鎖形態に移動すると、キックアウトリブ 1 1 7 0 がラッチアセンブリ 8 0 0 に接触し、ラッチアセンブリ 8 0 0 を側壁構造 9 0 6 から押して、ラッチアセンブリ 8 0 0 が結合するのを防止するか、又は蓋 9 0 5 が閉じるのを防止することができる。同様に、蓋 9 0 5 が閉鎖形態から開放形態に移動すると、ラッチアセンブリ 8 0 0 は、キックアウトリブ 1 1 7 0 に接触して、ラッチアセンブリ 8 0 0 が結合するのを防止するか、又は蓋 9 0 5 が開くのを防止することができる。キックアウトリブ 1 1 7 0 は、側壁構造 9 0 6 の側面 9 1 2 , 9 1 4 にのみ存在してもよい。

【0194】

蓋支持部材 1 0 0 0、1 1 0 0、蓋ステイロッドアセンブリ 1 1 4 0、及びキックアウトリブ 1 1 7 0 は、容器 9 0 2 に関して説明されているが、これらの特徴は、本明細書に記載の容器のいずれかに配置されてもよい。

【 0 1 9 5 】

図 6 0 ~ 図 6 3 は、ストラップハンドル 9 8 0 の代わりに容器 9 0 2 の代替バージョンを示し、容器 9 0 2 は、ユーザが容器 9 0 2 を人間工学的に操作することを可能にするプルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 を含む。プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 は、容器の静止面からホイール 9 8 8 の反対側の端部を離して、容器 9 0 2 が回転位置に傾斜するときに補助することができる。プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 は、ホイールアセンブリ 9 8 6 を含む側面 9 1 2 の反対側に配置された側壁構造 9 0 6 の側面 9 1 4 に接続されてもよい。ユーザは、ハンドル 1 0 5 2 を把持して側面 9 1 4 を上方に持ち上げることができ、それによって容器 9 0 2 の重量をホイール 9 8 8 上に移動させ、ユーザが容器 9 0 2 を引っ張ることを可能にする。プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 は、ユーザが容器 9 0 2 を引っ張ることを可能にする拡張形態と、プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 が側面 9 1 4 の凹部 9 9 6 内に配置される入れ子形態とを有することができる。プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 が入れ子形態にあるとき、プルハンドル 1 0 5 2 の上面 1 0 5 8 は、側面 9 1 4 の外向きの面と実質的に平行であってもよい。

【 0 1 9 6 】

プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 は、側面 9 1 4 に回動可能に取り付けられたプルハンドル 1 0 5 2 と、プルハンドル 1 0 5 2 に回動可能に取り付けられた一次ヒンジプレート 1 0 5 4 と、一次ヒンジプレート 1 0 5 4 と側面 9 1 4 の両方に回動可能に取り付けられた二次ヒンジプレート 1 0 5 6 とを含むことができる。プルハンドル 1 0 5 2 は、側壁構造 9 0 6 の側面 9 1 4 に回動可能に接続された第 1 のハンドル端部 1 0 6 0 と、第 1 のハンドル端部 1 0 6 0 の反対側の第 2 のハンドル端部 1 0 6 2 と、第 1 のハンドル端部 1 0 6 0 と第 2 のハンドル端部 1 0 6 2 との間に延在するプルハンドル本体 1 0 6 4 とを含んでもよい。第 1 のハンドル端部 1 0 6 0 は、ハンドル 9 4 0 の両端のクレビス部 9 8 5 内に受け入れられる一対の係合部材 1 0 6 6 を有してもよい。係合部材 1 0 6 6 は、ピンを使用してクレビス部分 9 8 5 に回動可能に接続されてもよい。一次ヒンジプレート 1 0 5 4 は、第 2 のハンドル端部 1 0 6 2 よりもプルハンドル本体 1 0 6 4 の第 1 のハンドル端部 1 0 6 0 に近い位置でプルハンドル本体 1 0 6 4 に回動可能に接続されてもよい。一次ヒンジプレート 1 0 5 4 及び二次ヒンジプレート 1 0 5 6 は、プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 が入れ子形態にあるときに、一次ヒンジプレート 1 0 5 4 がプルハンドル 1 0 5 2 と二次ヒンジプレート 1 0 5 6 との間に配置され、二次ヒンジプレート 1 0 5 6 が一次ヒンジプレート 1 0 5 4 と側面 9 1 4 との間に配置されるように、一緒に入れ子になってもよい。プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 を入れ子位置に付勢するために、一次ヒンジプレート 1 0 5 4 と二次ヒンジプレート 1 0 5 6 との間にばね及びダンパを接続することができる。更に、プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 が入れ子形態にあるとき、二次ヒンジプレート 1 0 5 6 及び一次ヒンジプレート 1 0 5 4 は、プルハンドル 1 0 5 2 と実質的に平行である。前述したように、容器 9 0 2 が関節式プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 を備えている場合、側面 9 1 4 は、ハンドルアセンブリ 1 0 5 0 が凹部 9 9 6 内に入れ子になることを可能にするために、側面 9 1 4 の高さの大部分を延びる凹部 9 9 6 を含むことができる。

【 0 1 9 7 】

プルハンドル本体 1 0 6 4 は、ユーザがプルハンドル 1 0 6 4 を容易に把持することを可能にするために、プルハンドル本体 1 0 5 2 を通って延びる少なくとも 1 つのグリップ開口 1 0 6 8 を含むことができる。幾つかの例では、プルハンドル本体 1 0 6 4 は、プルハンドル本体 1 0 6 4 を把持することができる場所においてユーザの柔軟性を可能にするために複数の把持開口 1 0 6 8 を含むことができる。各開口 1 0 6 8 は、プルハンドル本体 1 0 6 4 の長さの大部分にわたって延在してもよく、同じ幅を有してもよく、又は異なる幅を有してもよい。図示の例に示すように、各開口 1 0 6 8 は、プルハンドル本体 1 0

10

20

30

40

50

6 4 上の第 2 のハンドル端部 1 0 6 2 よりも第 1 のハンドル端部 1 0 6 0 の近くに配置されてもよい。一次ヒンジプレート 1 0 5 4 は、開口 1 0 6 8 の後方（開口 1 0 6 8 よりも第 2 のハンドル端部 1 0 6 2 の近く）でプルハンドル本体 1 0 6 4 に取り付けられてもよい。

【 0 1 9 8 】

更に、図 6 0 ~ 図 6 3 は、図 6 0 に示す入れ子形態から図 6 2 ~ 図 6 3 の伸長位置に移行するプルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 を示す。図 6 1 は、プルハンドル 1 0 5 2 がわずかに持ち上げられ、一次ヒンジプレート 1 0 5 4 が二次ヒンジプレート 1 0 5 6 と鋭角を形成する、部分的に伸長した状態のプルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 を示す。図 6 2 ~ 図 6 3 は、拡張形態のプルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 を示している。プルハンドル 1 0 5 2 が完全に延ばされると、一次ヒンジプレート 1 0 5 4 は、二次ヒンジプレート 1 0 5 6 と鋭角を形成することができる。ヒンジプレート 1 0 5 4、1 0 5 6 は、プルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 に追加の強度を提供しながら、プルハンドル 1 0 5 2 の過回転を制限するように作用することができる。

10

【 0 1 9 9 】

蓋支持部材 1 0 0 0 及びプルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 の構成要素は、充填又は非充填ポリマーであってもよいポリマー材料から形成されてもよい。例えば、ポリマー材料は、P C - A B S、ポリエチレン、又は他の同様の材料であってもよい。更に、蓋支持部材 1 0 0 0 及びプルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 の構成要素は、様々な成形及び鑄造技術及び / 又は他の既知の技術などのポリマー処理技術によって製造することができる。代替的又は任意選択的に、蓋支持部材 1 0 0 0 及びプルハンドルアセンブリ 1 0 5 0 は、アルミニウム合金、マグネシウム合金、又は 3 g / c c 未満の密度を有する他の金属材料などの金属材料で形成されてもよい。別の選択肢として、蓋、本体、蓋支持部材及びプルハンドルアセンブリなどの容器構成要素は、低密度発泡コア及び高密度ポリマースキンを有する複合ポリマー材料を有する構造発泡体を含むことができる。

20

【 0 2 0 0 】

一態様によれば、容器が開示される。容器は、第 1 の側面と、第 1 の側面の反対側の第 2 の側面と、第 1 の側面の縁部と第 2 の側面の縁部との間で延在する第 3 の側面と、第 3 の側面の反対側の第 4 の側面とを有し、第 1 の端部及び第 2 の端部を有する側壁構造と、側壁構造の第 1 の端部に接続され、表面上で容器を支持するように構成される底部と、第 1 の端部とは反対側の側壁構造の第 2 の端部に形成され、側壁構造と底部とによって形成された容器の内部空隙へのアクセスを可能にするように構成される開口とを含む成形ベースを含むことができる。また、容器は、側壁構造から延在するとともに、上面、内面、及び下面を有するラッチキーパと、開放形態と閉鎖形態との間で回動可能であって、ベースの形状に対応する形状を有するとともに、容器が閉鎖形態にあるときに側壁構造の第 2 の端部に形成された開口を覆うように構成される蓋と、蓋をベースに接続するように構成されるヒンジであって、該ヒンジの周囲で蓋が閉鎖形態から開放形態に回転可能である、ヒンジとを含むこともできる。また、容器はラッチアセンブリを含むこともでき、ラッチアセンブリはロック位置及びロック解除位置を有し、ラッチアセンブリは、蓋と回動可能に係合され、少なくとも 1 つの係合ラグを有するラッチ本体と、ラッチ本体と摺動可能に係合されるロック部材であって、ロック部材は、少なくとも下方位置と上方位置との間で摺動可能であり、ロック部材が下方位置にあるときに蓋を閉鎖形態にロックするように構成されるとともに、ロック部材が上方位置にあるときに蓋をロック解除するように構成されるロック部材と、ラッチ本体及びロック部材に係合し、ロック部材を下方位置に付勢する付勢部材と、ラッチ本体と回動可能に係合されるとともにロック部材に係合され、ロック部材を下方位置から上方位置に移動させるように構成される作動部材とを備える。ラッチアセンブリは、ロック部材が上方位置にあるときにのみロック解除位置からロック位置に移動することができる。ラッチ本体の少なくとも 1 つの係合ラグは、ラッチアセンブリがロック位置にあるときにラッチキーパの下面と係合し得る。ロック部材の下面は、ラッチアセンブリがロック位置にあるときにラッチキーパの上面と係合する。

30

40

50

【 0 2 0 1 】

蓋を閉鎖形態から開放形態に回転させることは、蓋 90°を閉鎖形態から回転させることを含んでもよい。容器は、側壁構造内に絶縁体を収容することができる。容器は、第2のラッチアセンブリを含むことができる。容器は、ベース及び蓋の少なくとも一方に形成された凹部に配置されたガスケットを含むことができる。容器は、ベースの外周と一体成形されたチャンネルを含むことができる。チャンネルは、ベースの外周全体にわたって延在してもよい。また、容器は、少なくとも1つのハンドルを含むこともできる。ハンドルは、第1のアーム及び第2のアームを含むことができ、第1のアーム及び第2のアームのそれぞれは、アームの遠位端に隆起部を含むことができる。

【 0 2 0 2 】

他の態様によれば、容器が開示される。容器は、少なくとも第1の側面及び第1の側面の反対側の第2の側面を有するとともに、第1の端部及び第2の端部を有する側壁構造と、側壁構造の第1の端部に接続されるとともに、表面上で容器を支持するように構成される底部と、第1の端部の反対側の側壁構造の第2の端部に形成され、側壁構造と底部とによって形成された容器の内部空隙へのアクセスを可能にするように構成される開口と、側壁構造から延在するとともに、上面、内面、及び下面を有するラッチキーパを含むベースを含むことができる。また、容器は、開放形態と閉鎖形態との間で回動可能であって、ベースの形状に対応する形状を有するとともに、容器が閉鎖形態にあるときに側壁構造の第2の端部に形成された開口を覆うように構成される蓋と、蓋をベースに接続するように構成されるヒンジであって、該ヒンジの周りで蓋が閉鎖形態から開放形態に回動可能である、ヒンジと、ロック位置及びロック解除位置を有するラッチアセンブリとを含むこともできる。ラッチアセンブリは、蓋と回動可能に係合され、少なくとも1つの係合ラグを有するラッチ本体と、ラッチ本体に係合されるロック部材であって、少なくとも下方位置と上方位置との間で移動可能であり、ロック部材が下方位置にあるときに蓋を閉鎖形態にロックするように構成されるとともに、ロック部材が上方位置にあるときに蓋をロック解除するように構成される、ロック部材と、ラッチ本体及びロック部材に係合され、ロック部材を下方位置に付勢する付勢部材と、ラッチ本体と回動可能に係合され、ロック部材に係合されるとともに、ロック部材を下方位置から上方位置に移動させるように構成される作動部材とを含むことができる。

【 0 2 0 3 】

ロック部材は、ラッチ本体と摺動可能に係合されてもよく、ロック部材は、下方位置と上方位置との間で摺動可能である。ラッチアセンブリは、ロック部材が上方位置にあるときにのみロック解除位置からロック位置に移動することができる。ラッチ本体の少なくとも1つの係合ラグは、ラッチアセンブリがロック位置にあるときにラッチキーパの下面と係合する。ロック部材の下面は、ラッチアセンブリがロック位置にあるときに、ラッチキーパの上面と係合してもよい。また、容器は、ベース及び蓋の少なくとも一方に形成された凹部に配置されるガスケットを含むこともできる。また、容器は、ベースの外周と一体成形されたチャンネルを含むこともでき、チャンネルはベースの外周全体にわたって延在する。また、容器は少なくとも1つのハンドルを含むこともでき、該ハンドルは第1のアーム及び第2のアームを有し、第1のアーム及び第2のアームのそれぞれは、アームの遠位端に隆起部を含む。

【 0 2 0 4 】

他の態様によれば、構造のためのラッチアセンブリが開示される。構造は、開放形態及び閉鎖形態を有することができ、構造は、第2の部分に対して移動可能な第1の部分と、第1部分と係合されるラッチキーパとを備える。構造は、ロック位置及びロック解除位置を有するラッチアセンブリを備え、ラッチアセンブリは、第2の部分と回動可能に係合されるラッチ本体と、ラッチ本体に係合されるロック部材であって、少なくとも下方位置と上方位置との間で移動可能であり、前記ロック部材が前記下方位置にあるときに蓋を閉鎖形態にロックするように構成されるとともに、ロック部材が上方位置にあるときに蓋をロック解除するように構成される、ロック部材と、ラッチ本体と回動可能に係合され、ロッ

10

20

30

40

50

ク部材と係合されるとともに、ロック部材を下方位置から上方位置に移動させるように構成される作動部材とを含むことができる。

【 0 2 0 5 】

また、ラッチアセンブリは、ラッチ本体及びロック部材と係合される付勢部材を含むこともでき、付勢部材は、ロック部材を下方位置に付勢する。ロック部材は、ラッチ本体と摺動可能に係合されてもよく、ロック部材は、下方位置と上方位置との間で摺動可能である。ラッチアセンブリは、ロック部材が上方位置にあるときにのみロック解除位置からロック位置に移動することができる。

【 0 2 0 6 】

ラッチ本体は、内面を含んでもよく、ラッチキーパは、上面、内面、及び下面を含んでもよい。ラッチ本体の少なくとも1つの係合ラグは、ラッチアセンブリがロック位置にあるときにラッチキーパの下面と係合することができ、ラッチアセンブリがロック位置にあるときに、ロック部材の下面は、ラッチキーパの上面と係合することができる。

10

【 0 2 0 7 】

本開示は、様々な例に関連して上記及び添付図面に開示される。しかしながら、本開示によって果たされる目的は、本開示に関連する様々な特徴及び概念の例を提供することであり、本発明の範囲を限定することではない。当業者であれば分かるように、本開示の範囲から逸脱することなく、前述した例に対して数多くの変形及び変更を成すことができる。

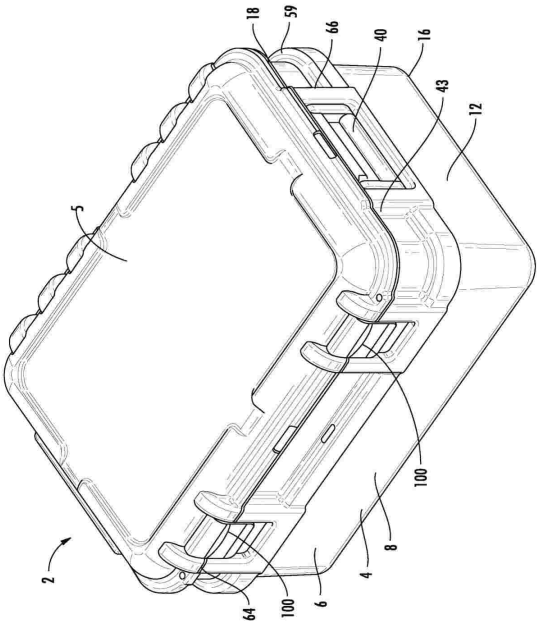
20

30

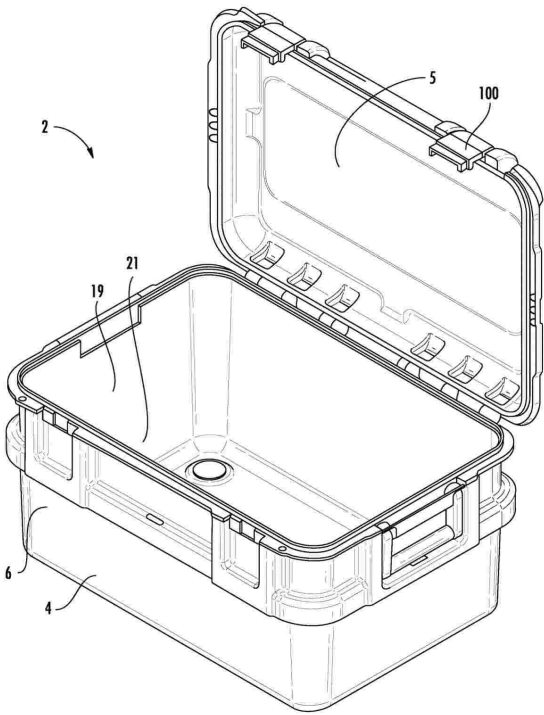
40

50

【図面】
【図 1 A】



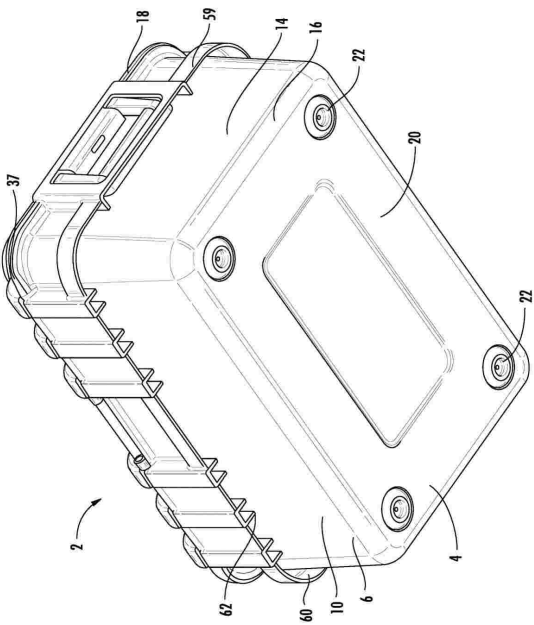
【図 1 B】



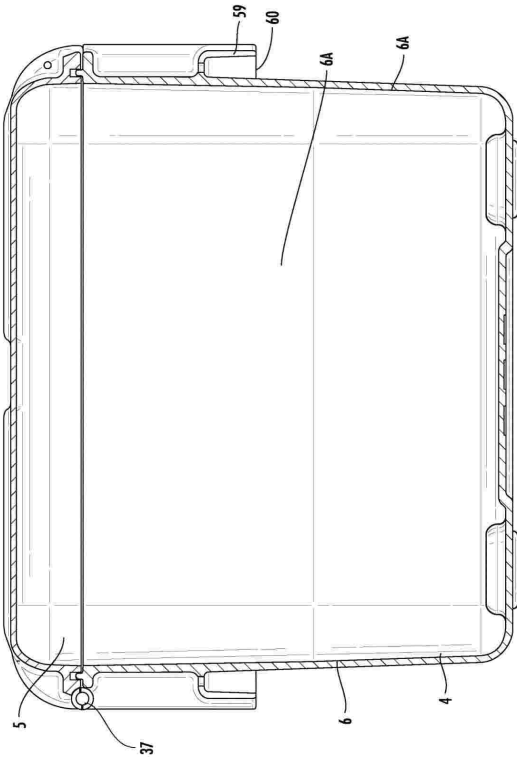
10

20

【図 2 A】



【図 2 B】

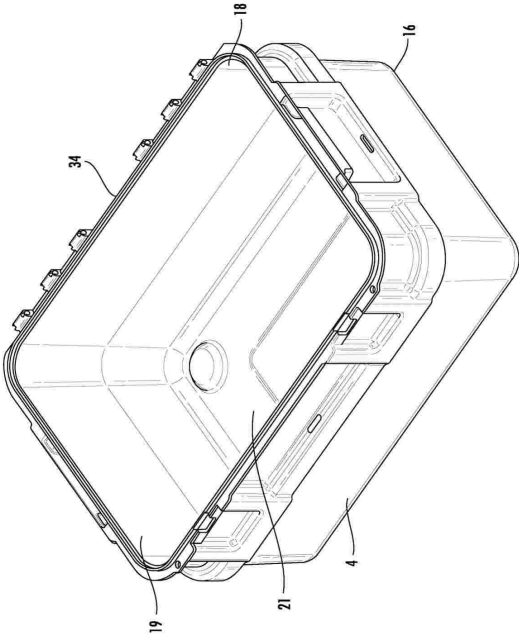


30

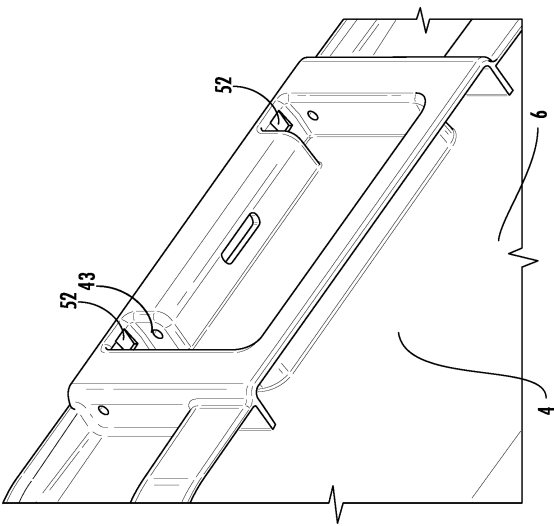
40

50

【図 3】



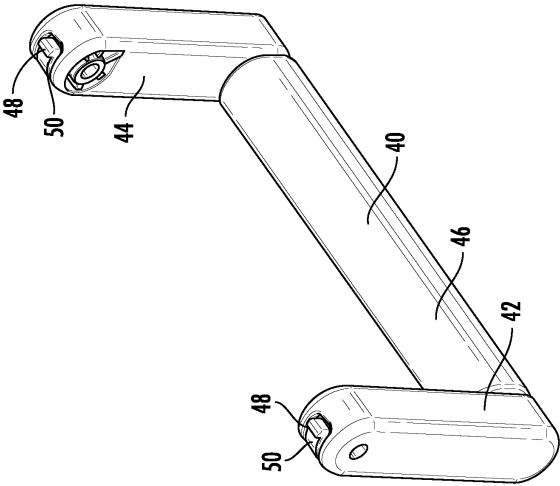
【図 4 A】



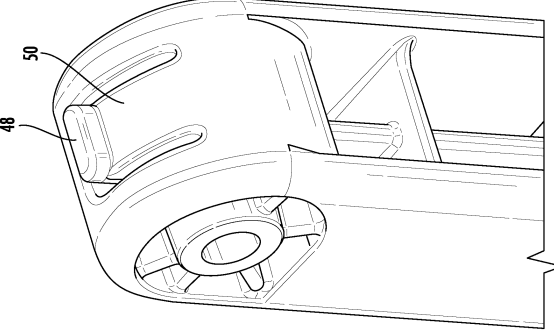
10

20

【図 4 B】



【図 4 C】

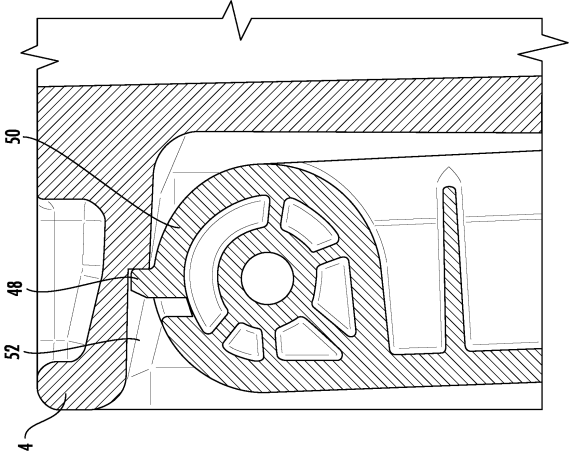


30

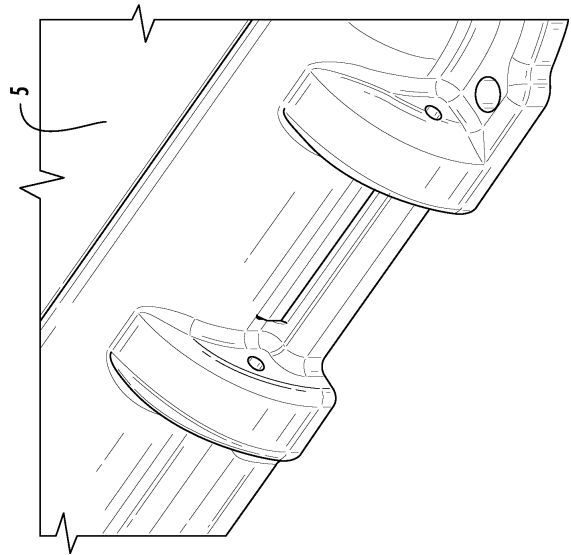
40

50

【図 4 D】

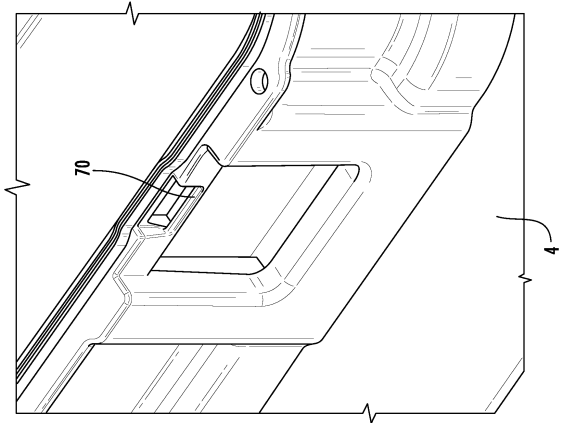


【図 5 A】

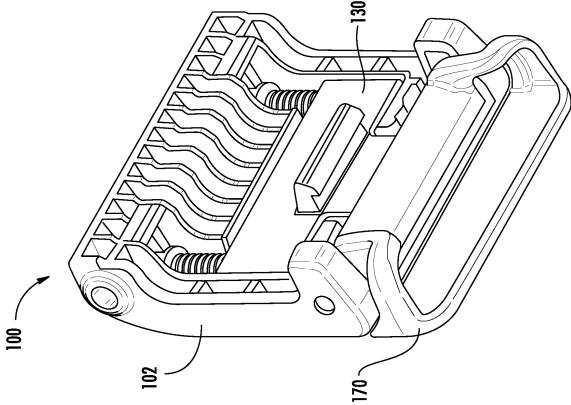


10

【図 5 B】



【図 6 A】



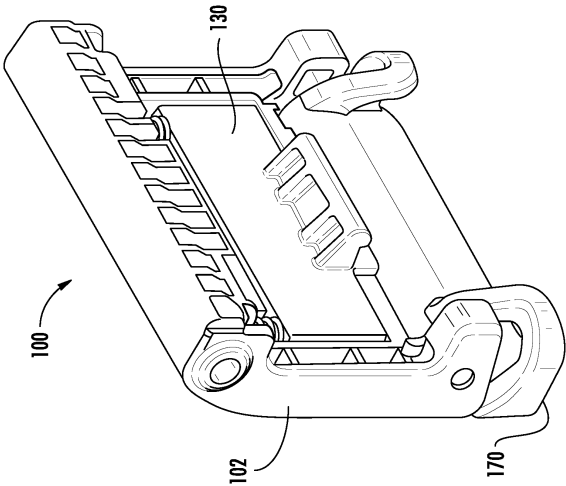
20

30

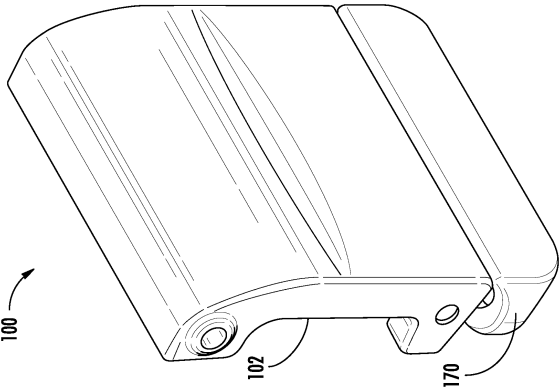
40

50

【図 6 B】

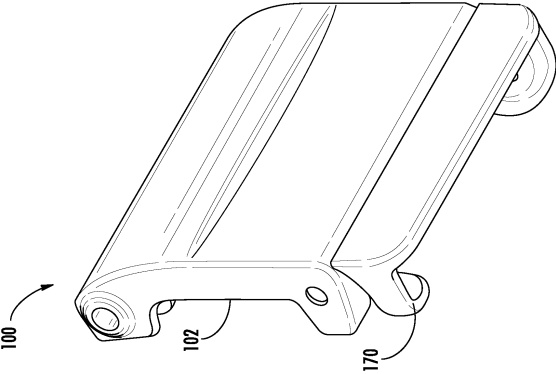


【図 7 A】

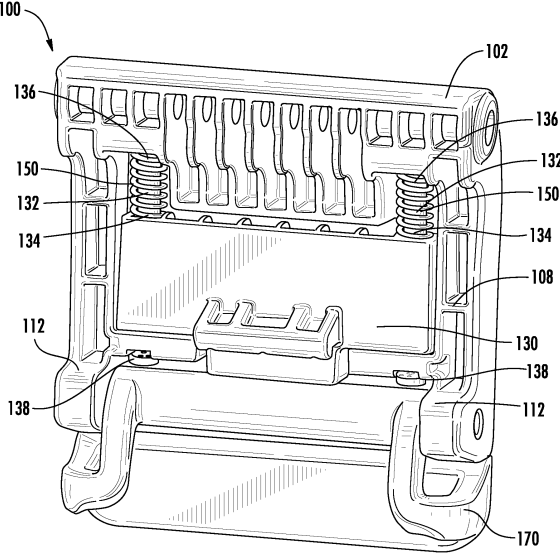


10

【図 7 B】



【図 8】



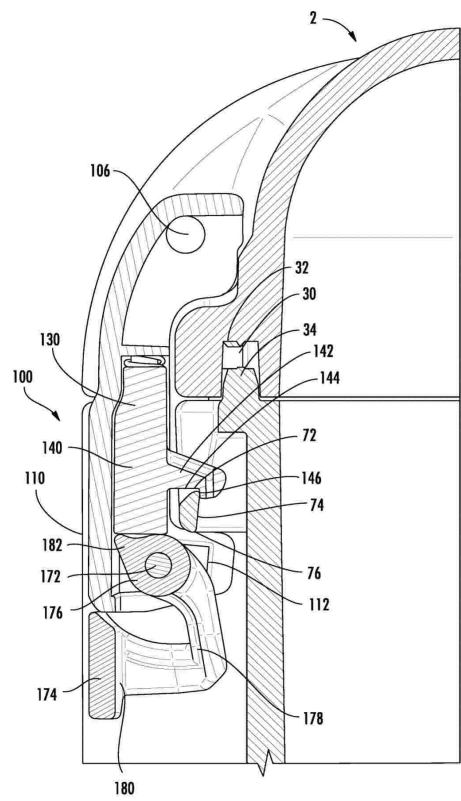
20

30

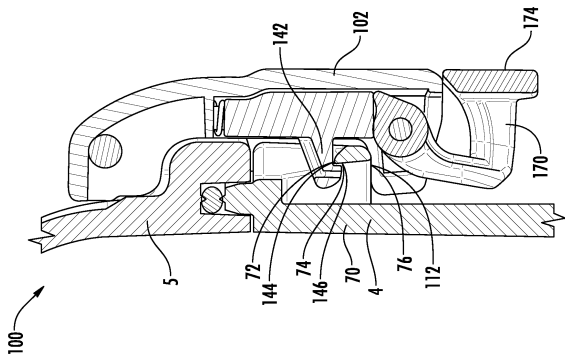
40

50

【図 9】



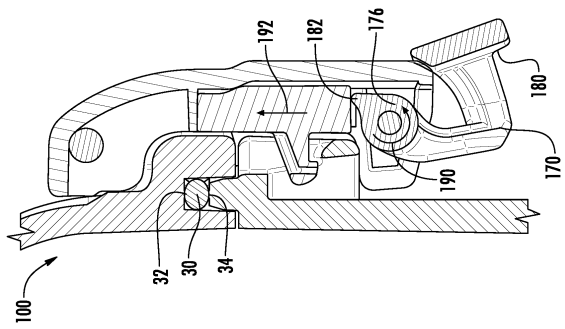
【図 10 A】



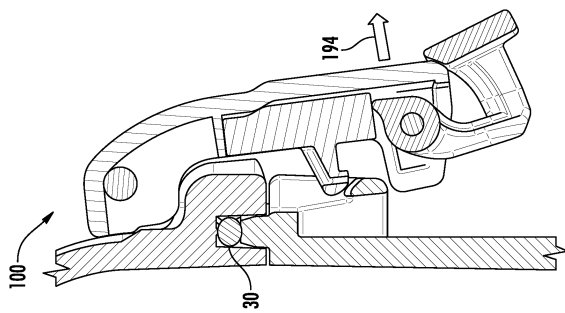
10

20

【図 10 B】



【図 10 C】

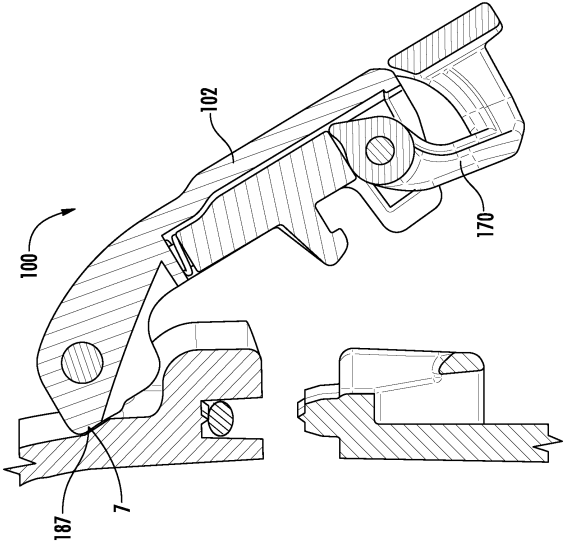


30

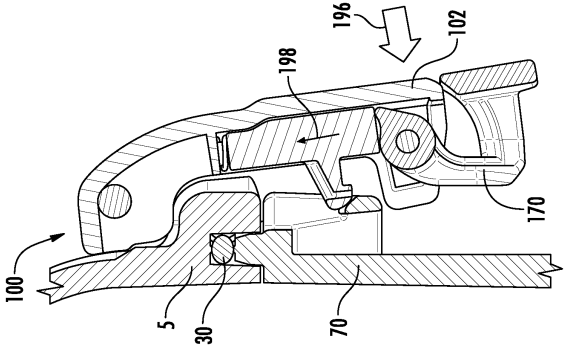
40

50

【図 10 D】

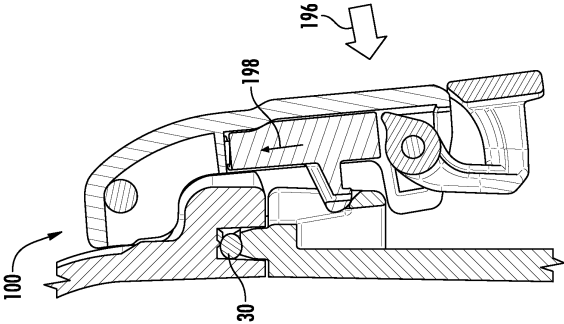


【図 11 A】

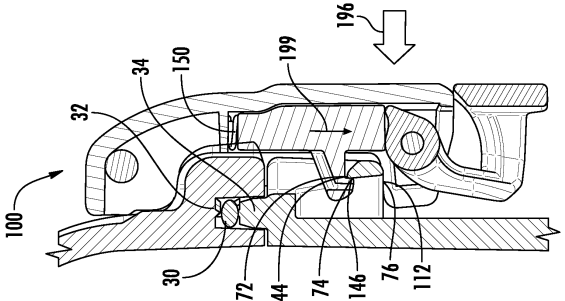


10

【図 11 B】



【図 11 C】



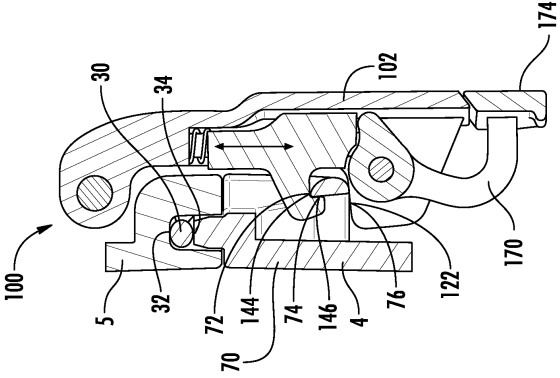
20

30

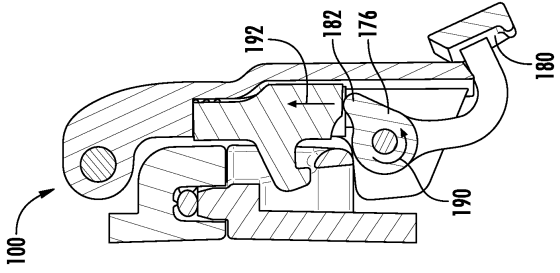
40

50

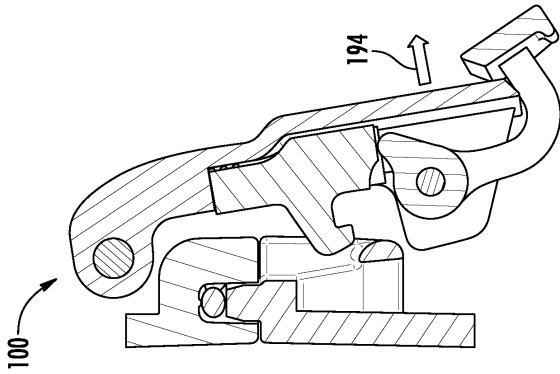
【図 1 2 A】



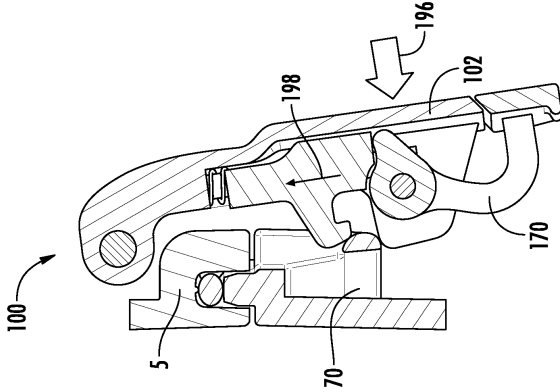
【図 1 2 B】



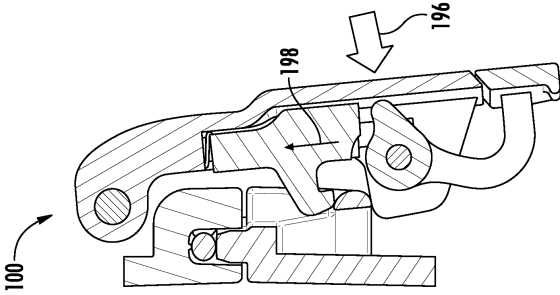
【図 1 2 C】



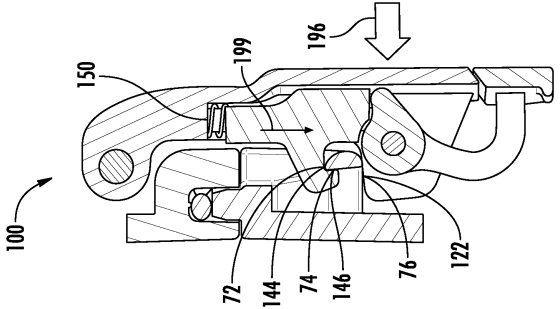
【図 1 3 A】



【図 1 3 B】



【図 1 3 C】



10

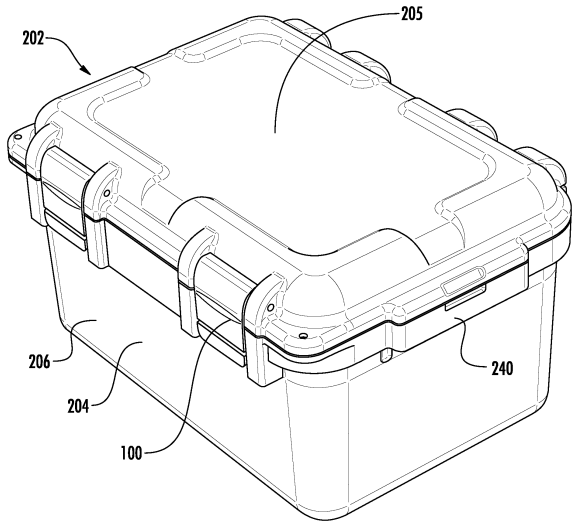
20

30

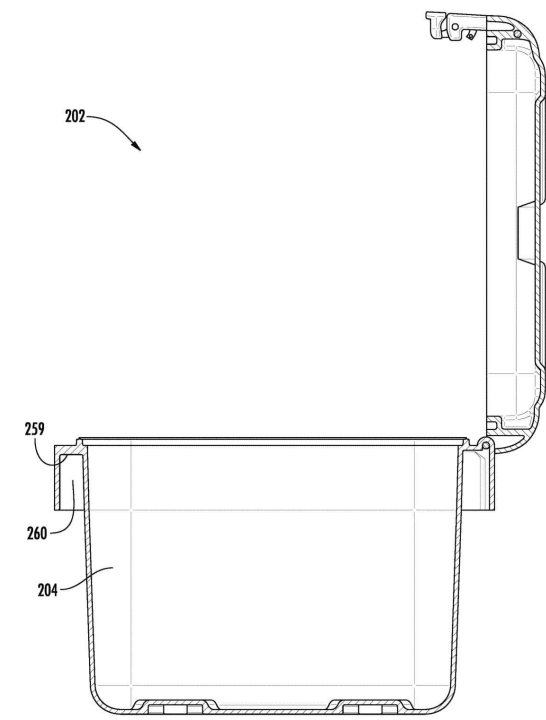
40

50

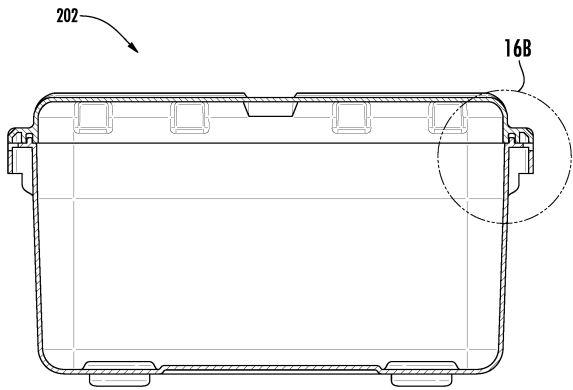
【 図 1 4 】



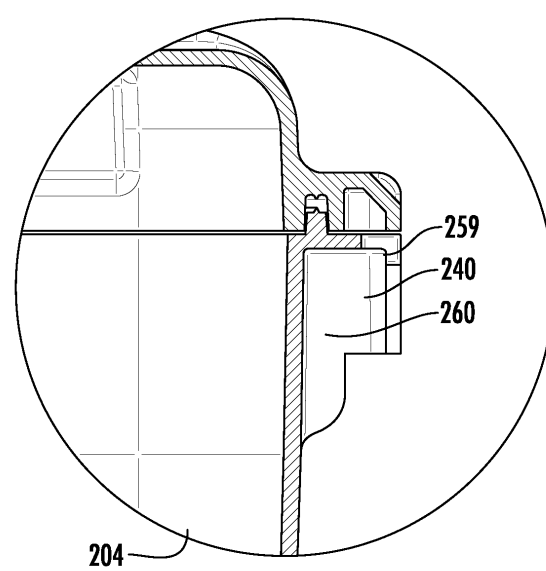
【 図 1 5 】



【 図 1 6 A 】



【 図 1 6 B 】



10

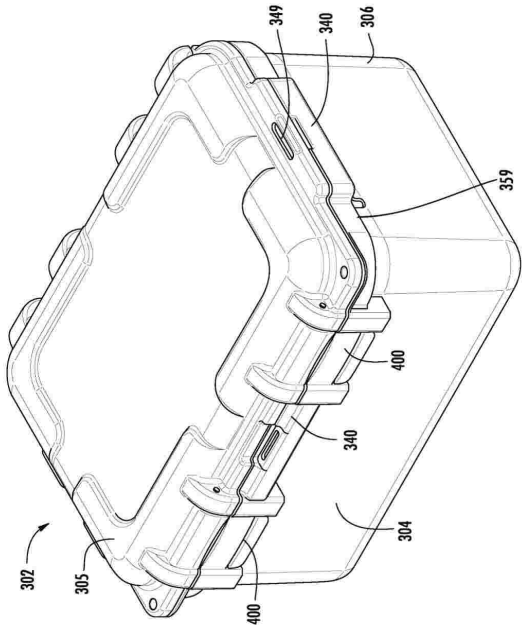
20

30

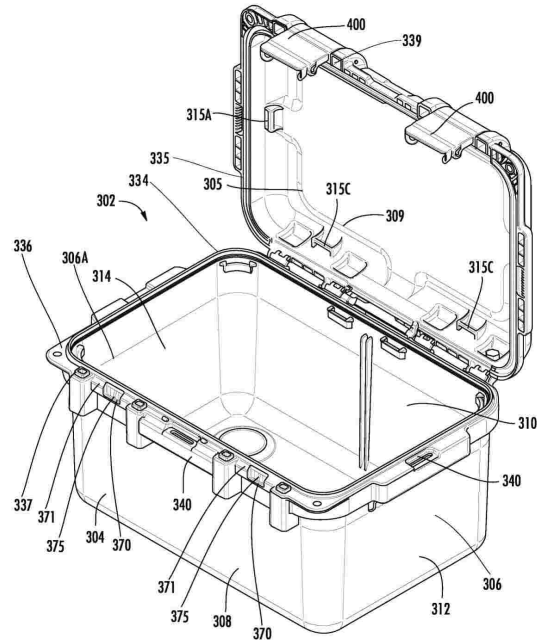
40

50

【図 17 A】



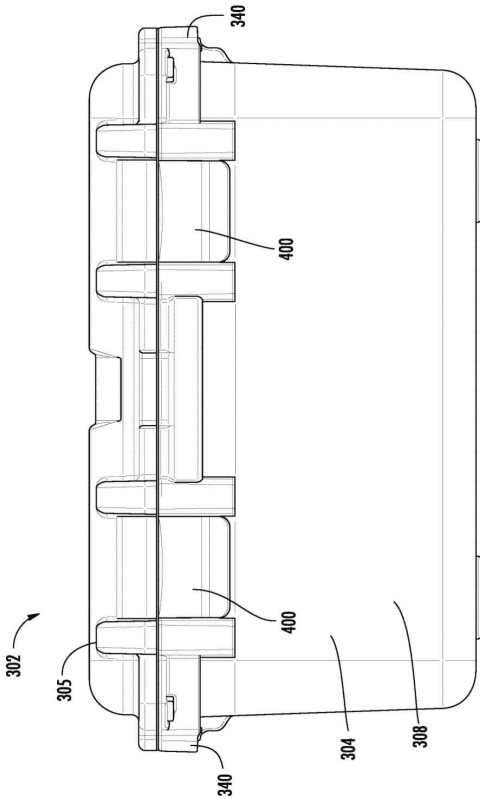
【図 17 B】



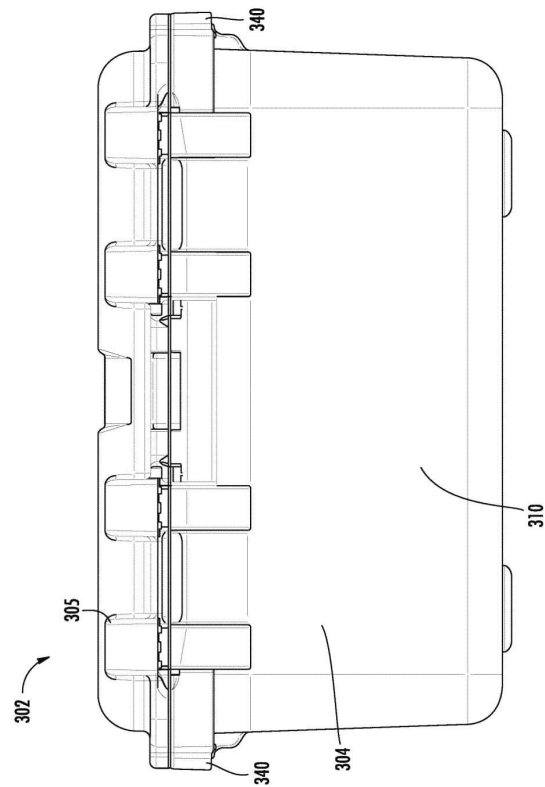
10

20

【図 18 A】



【図 18 B】

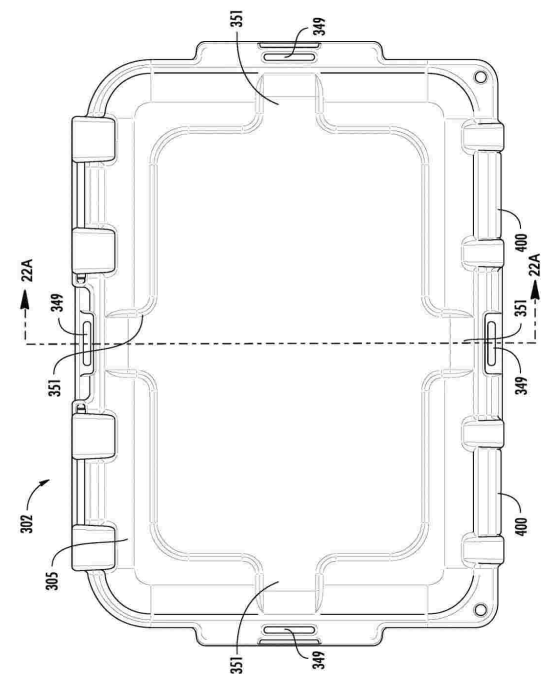


30

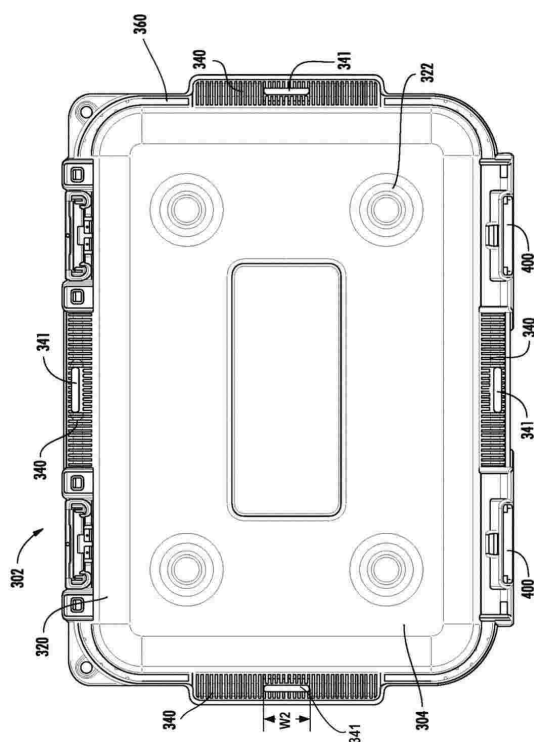
40

50

【 1 8 C 】



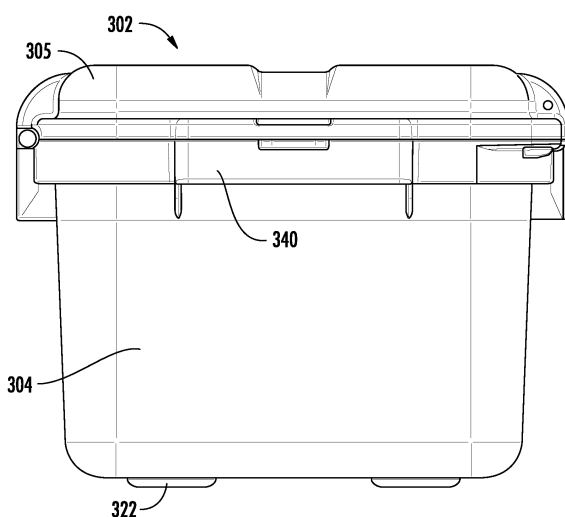
【 1 8 D 】



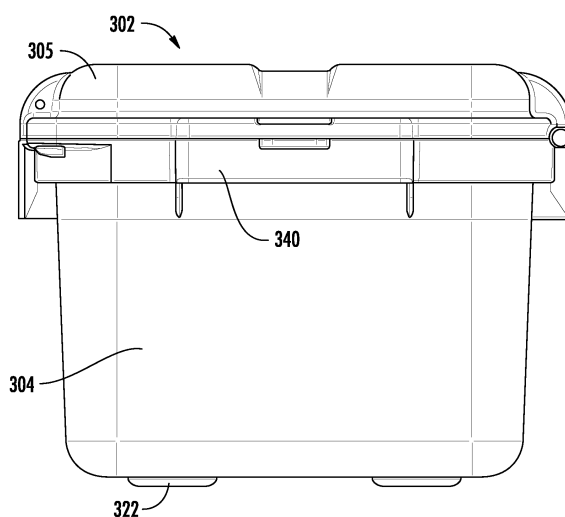
10

20

【 1 8 E 】



【 1 8 F 】

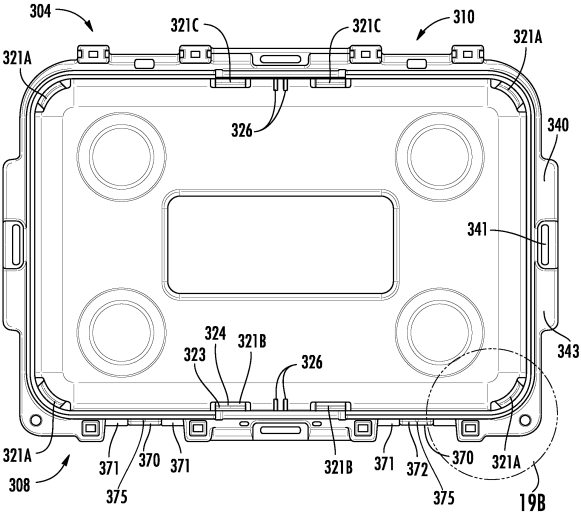


30

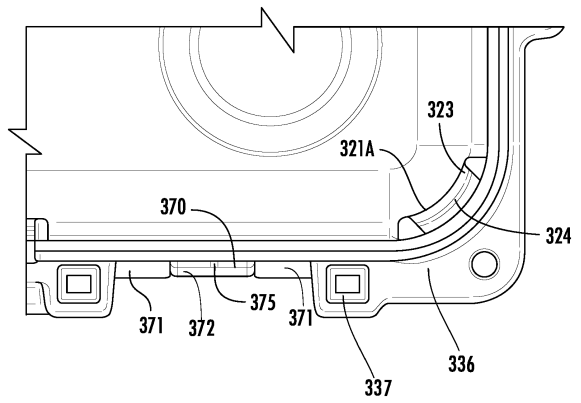
40

50

【図 19 A】

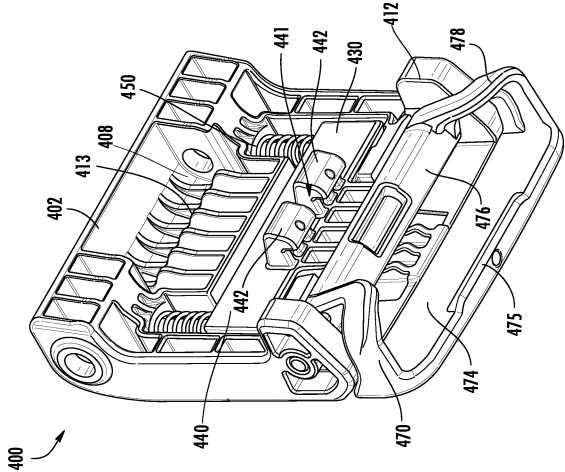


【図 19 B】

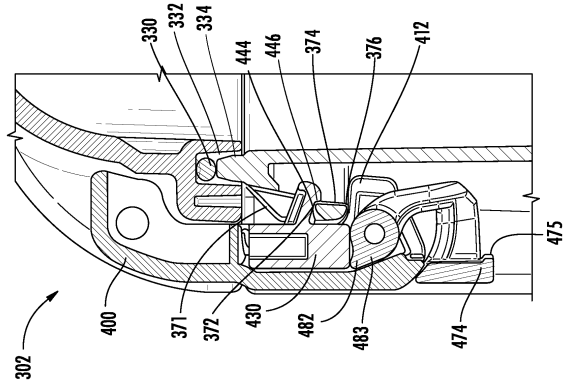


10

【図 20 A】



【図 20 B】



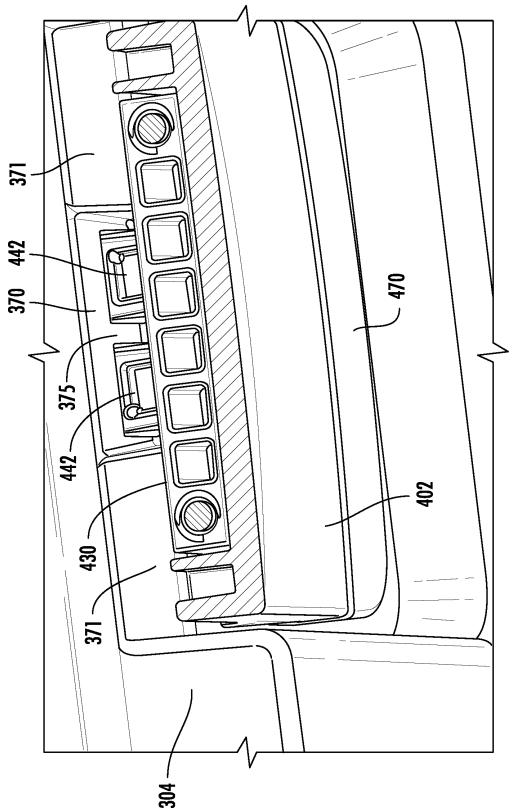
20

30

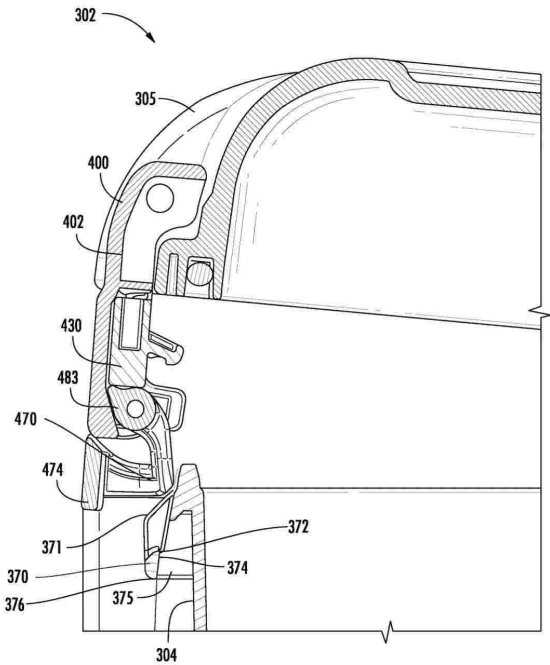
40

50

【図 20 C】



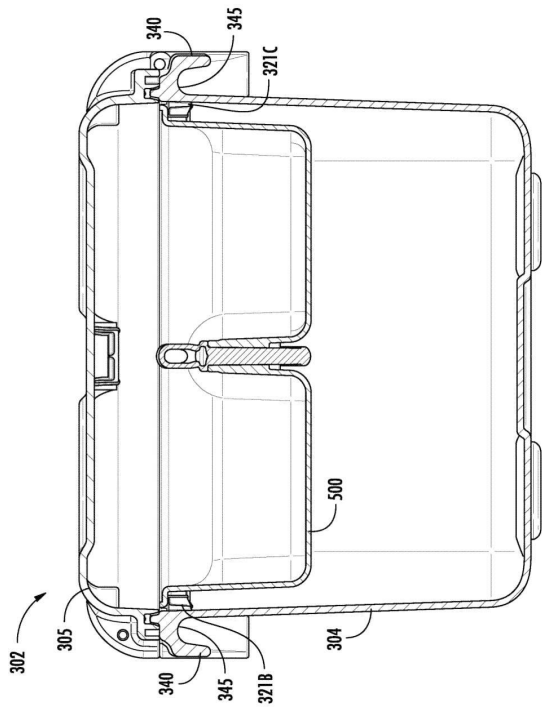
【図 21】



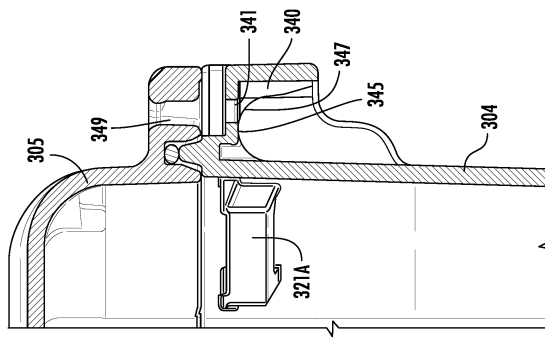
10

20

【図 22 A】



【図 22 B】

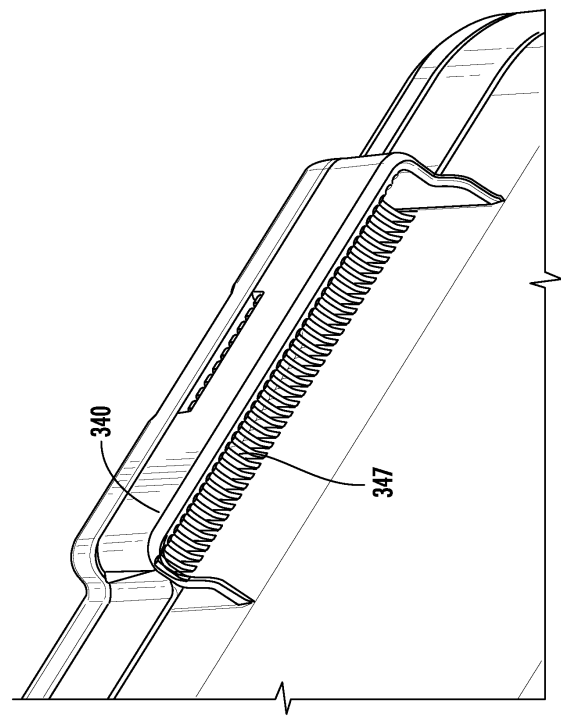


30

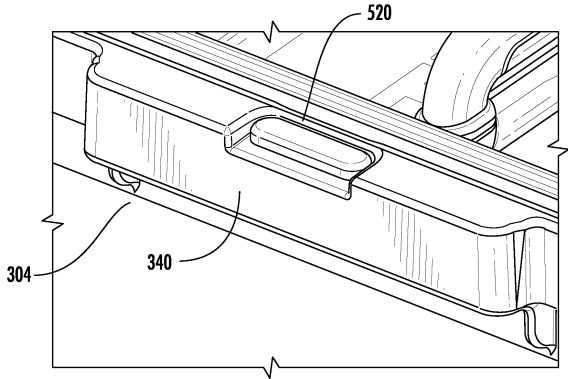
40

50

【図 2 2 C】



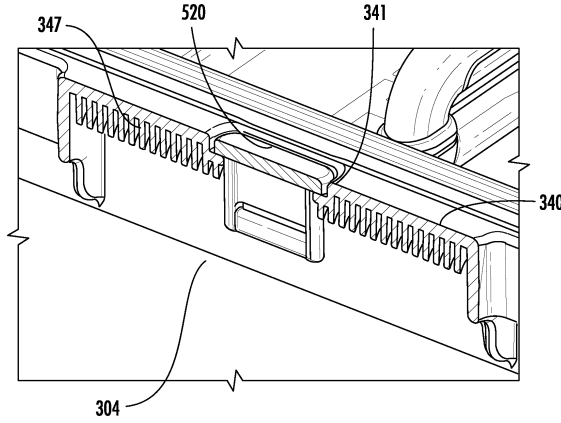
【図 2 3 A】



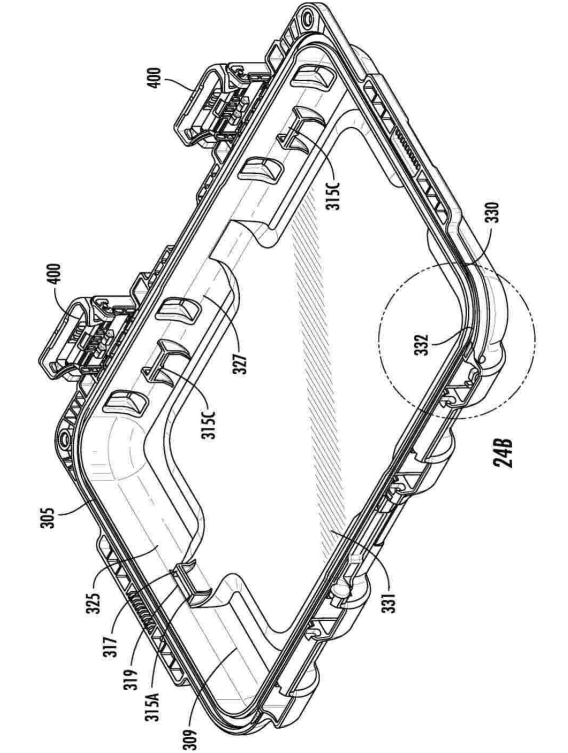
10

20

【図 2 3 B】



【図 2 4 A】

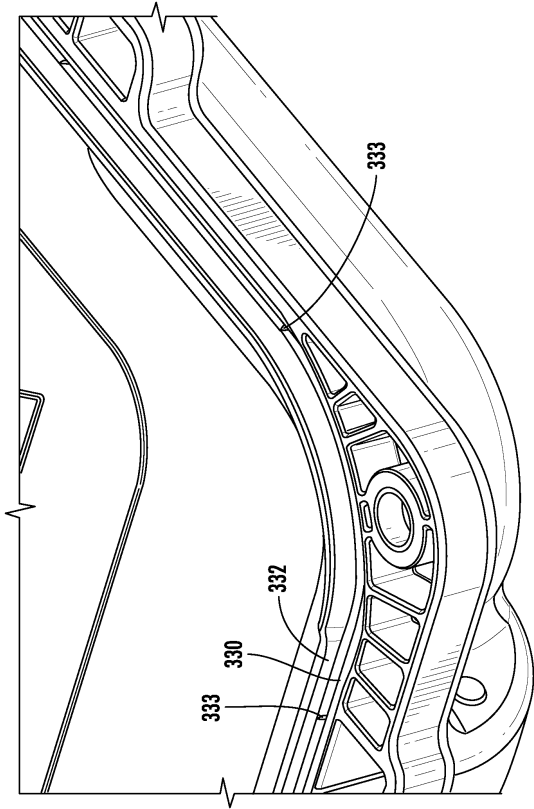


30

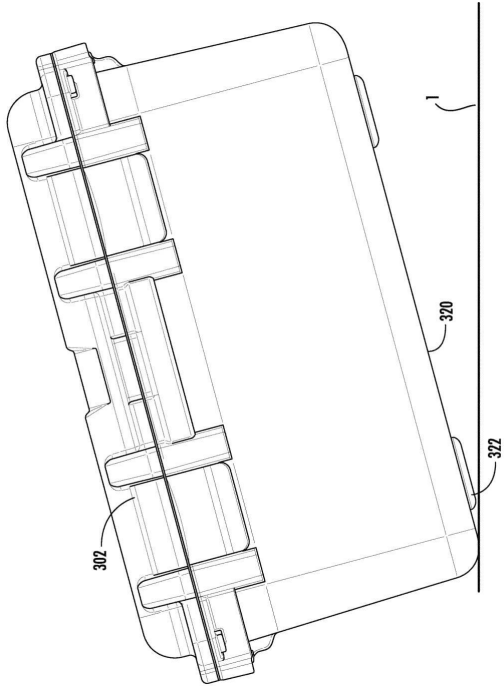
40

50

【図 2 4 B】



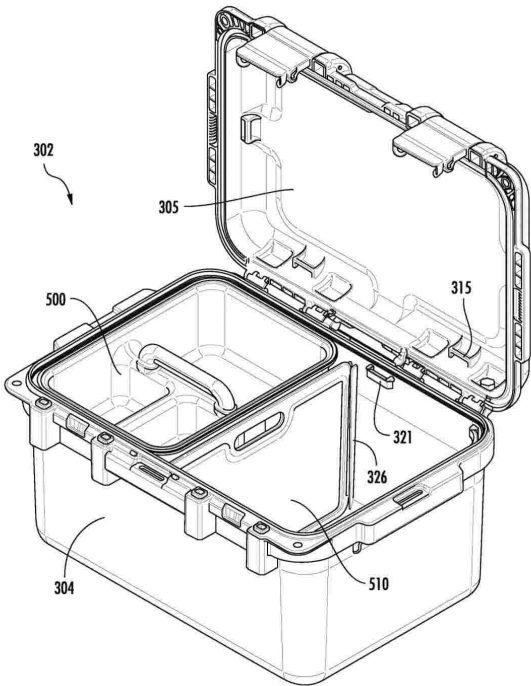
【図 2 5】



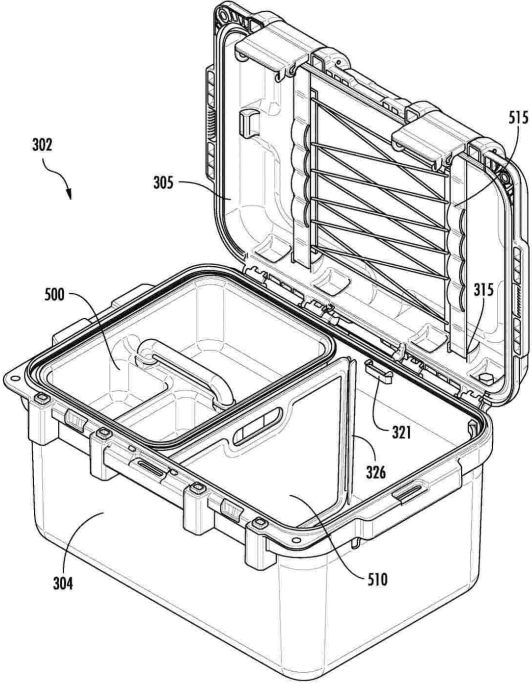
10

20

【図 2 6 A】



【図 2 6 B】

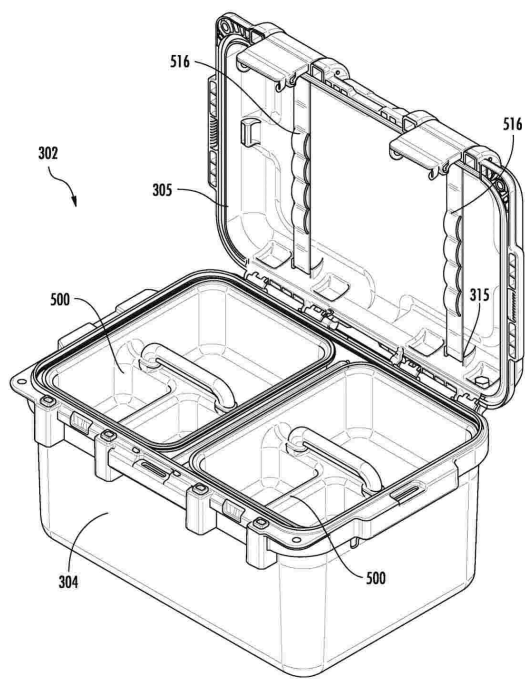


30

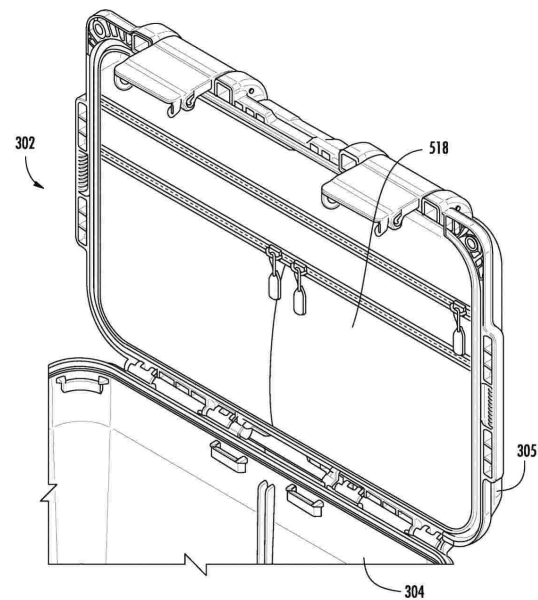
40

50

【図 26 C】



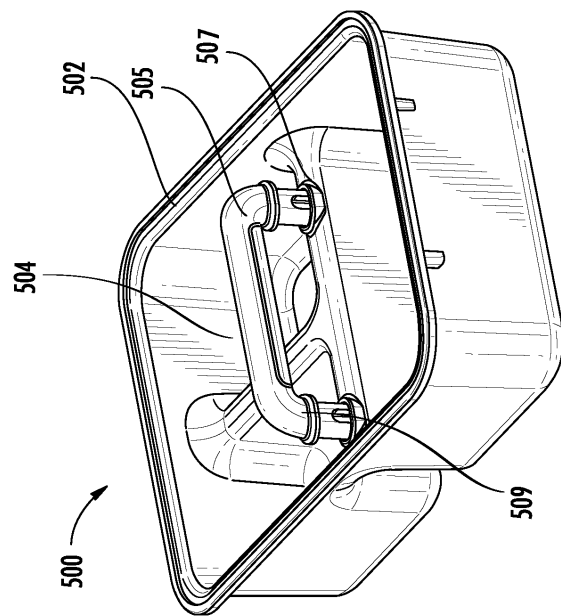
【図 26 D】



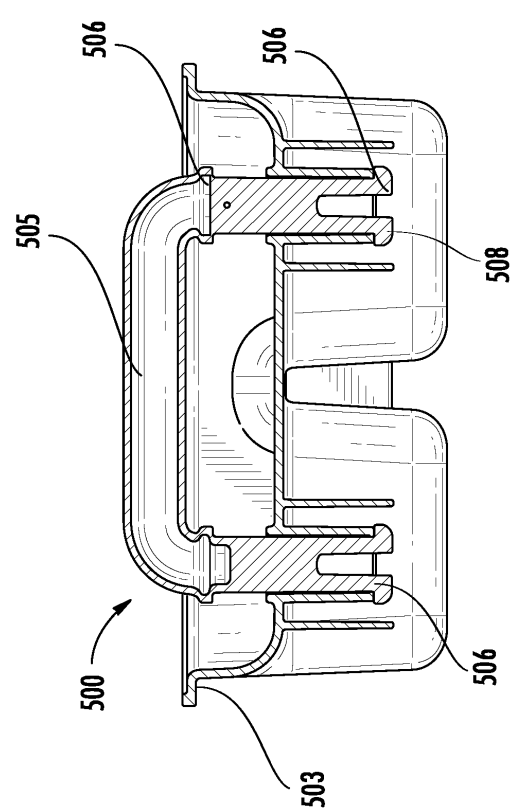
10

20

【図 27 A】



【図 27 B】

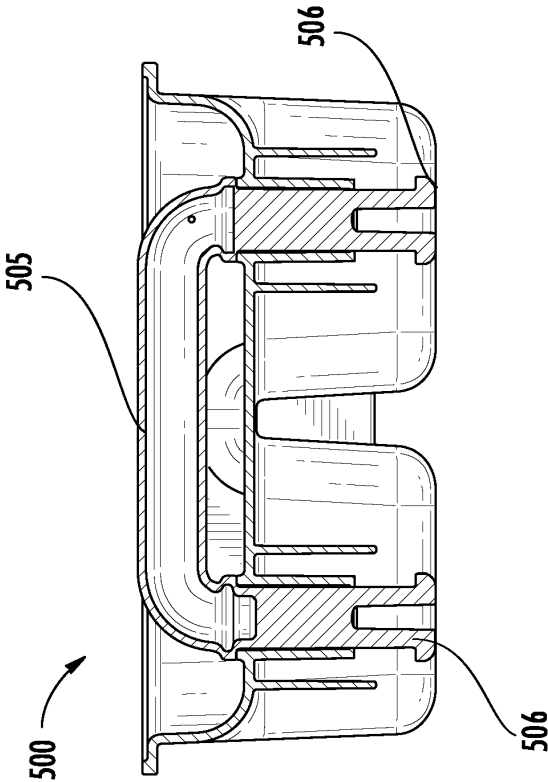


30

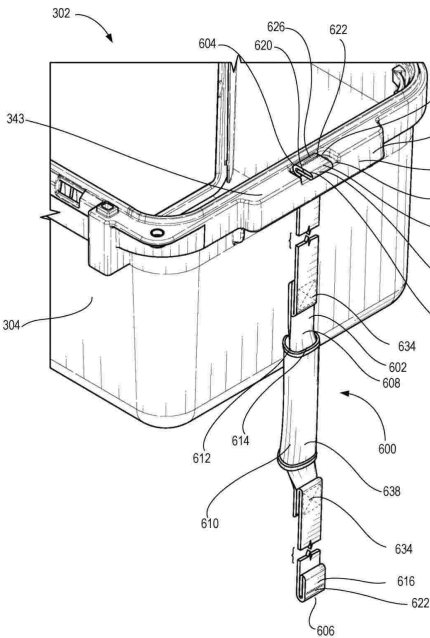
40

50

【図 27 C】



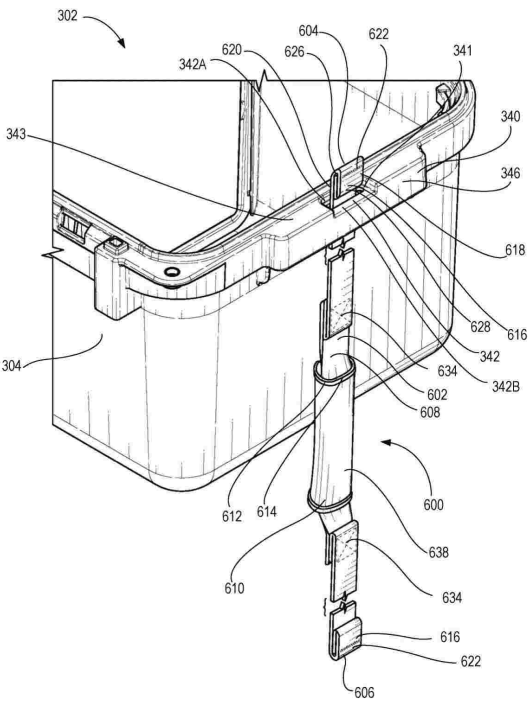
【図 28】



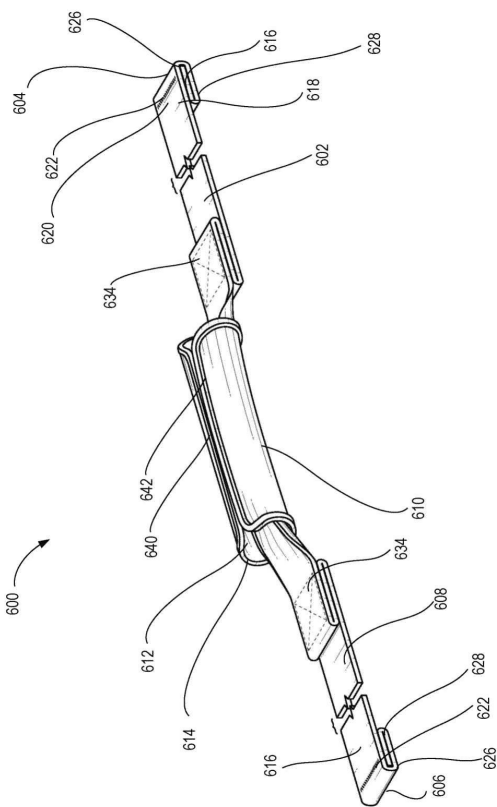
10

20

【図 29】



【図 30】

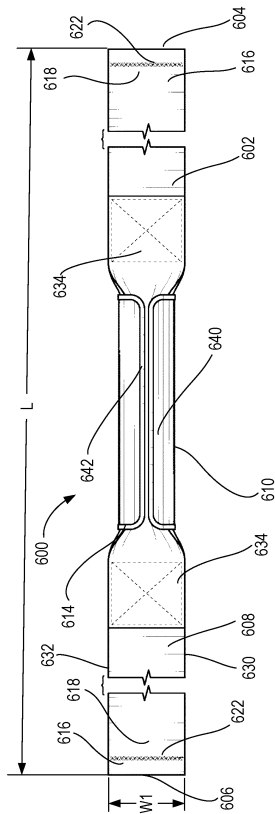


30

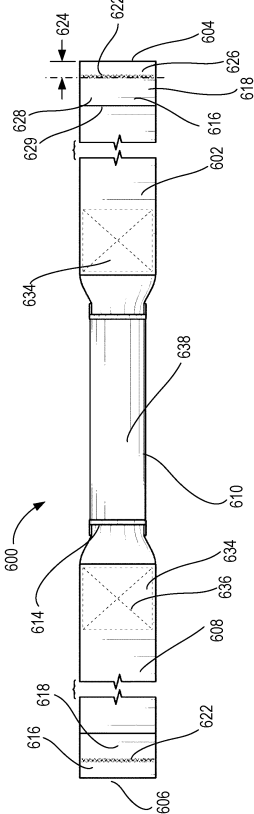
40

50

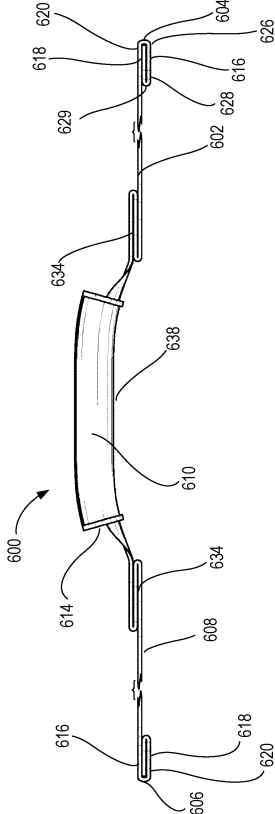
【図 3 1】



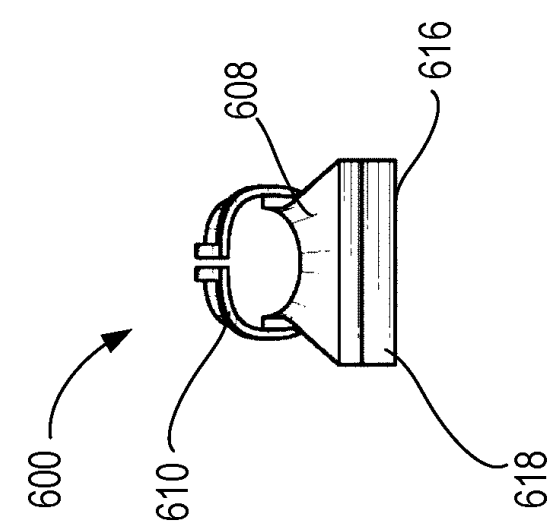
【図 3 2】



【図 3 3】



【図 3 4】



10

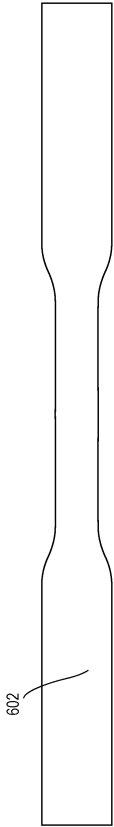
20

30

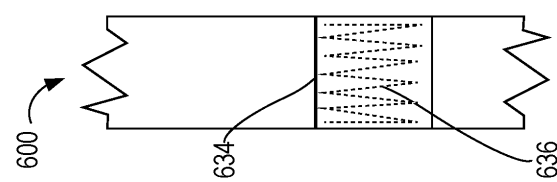
40

50

【 図 3 5 】



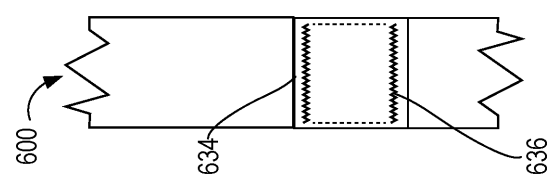
【 図 3 6 A 】



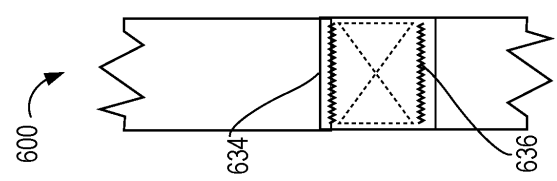
10

20

【 図 3 6 B 】



【 図 3 6 C 】

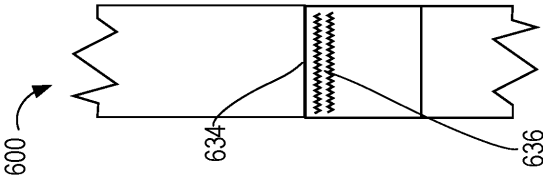


30

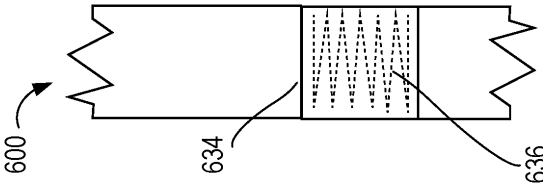
40

50

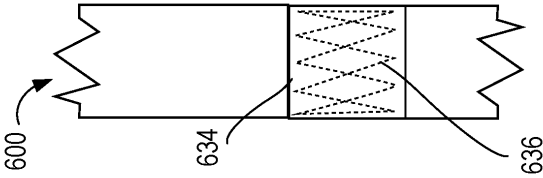
【図 3 6 D】



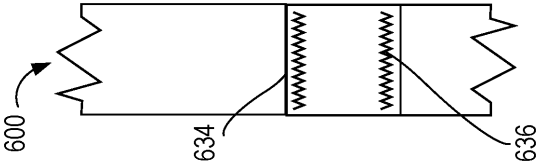
【図 3 6 E】



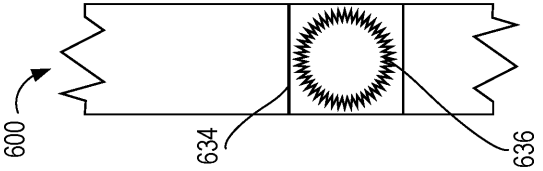
【図 3 6 F】



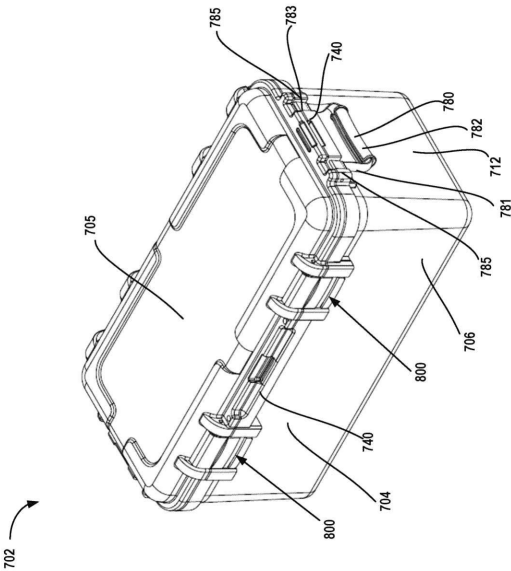
【図 3 6 G】



【図 3 6 H】



【図 3 7】



10

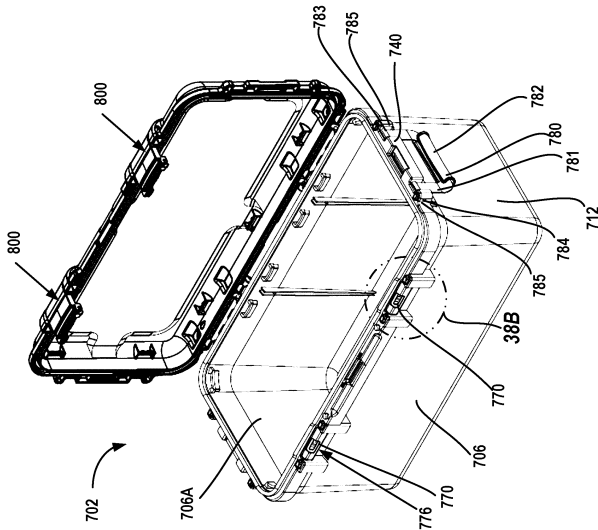
20

30

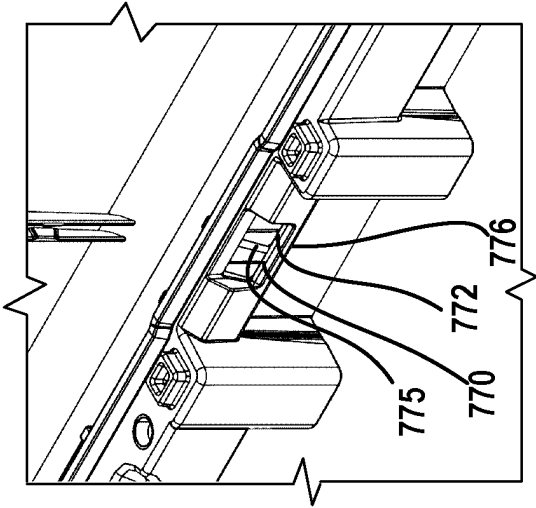
40

50

【図 38 A】

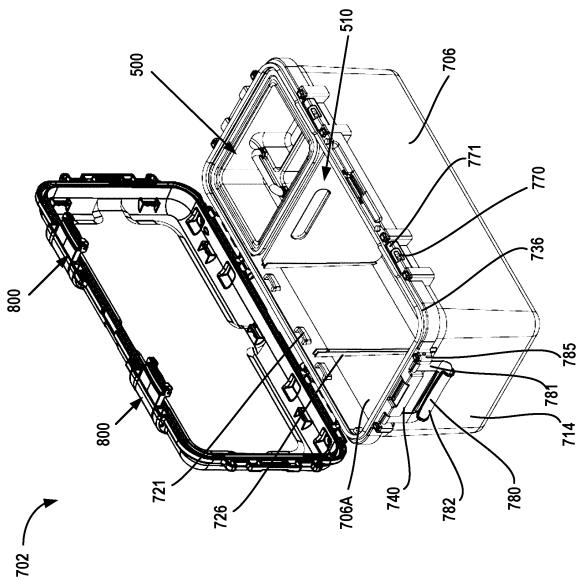


【図 38 B】

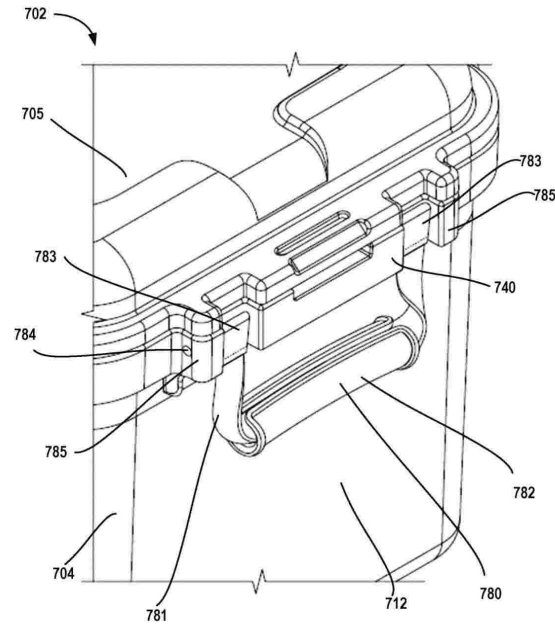


10

【図 39】



【図 40】



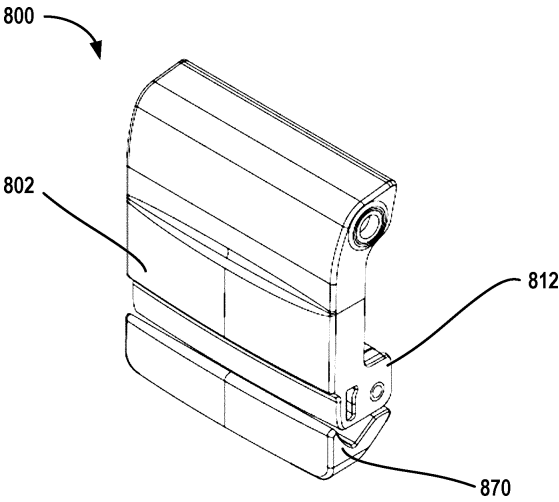
20

30

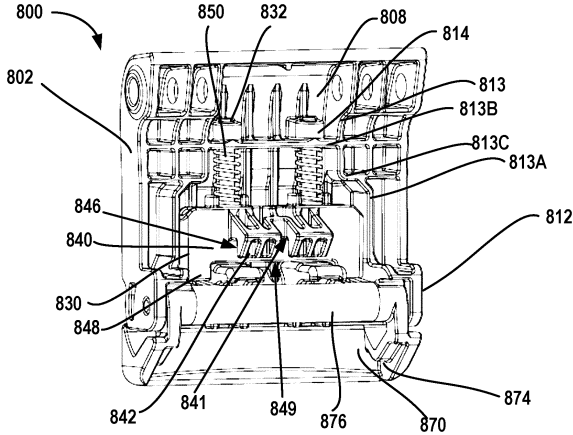
40

50

【 図 4 1 】

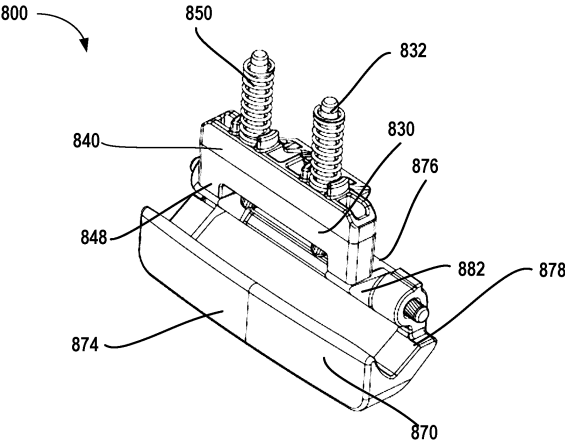


【 図 4 2 】

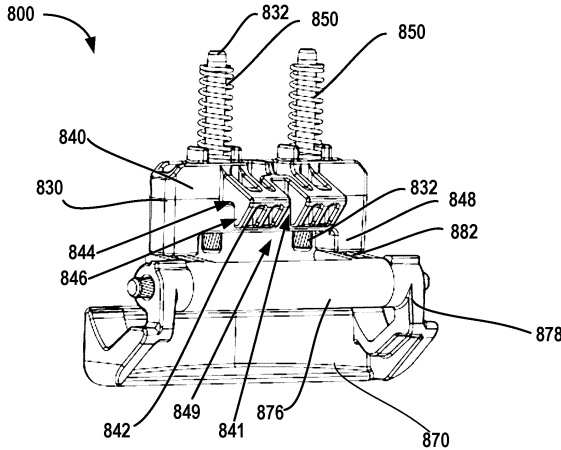


10

【 図 4 3 】



【 図 4 4 】



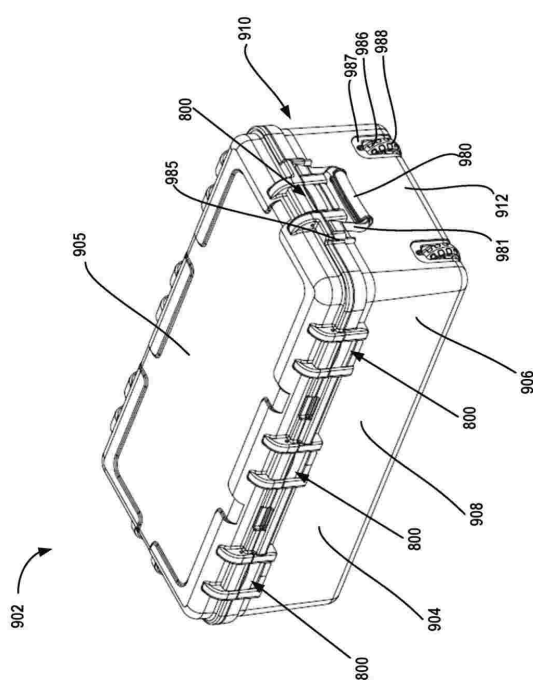
20

30

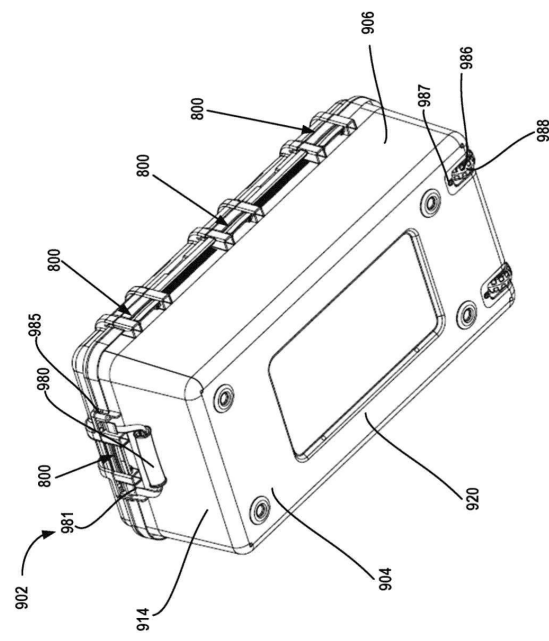
40

50

【図 4 5】



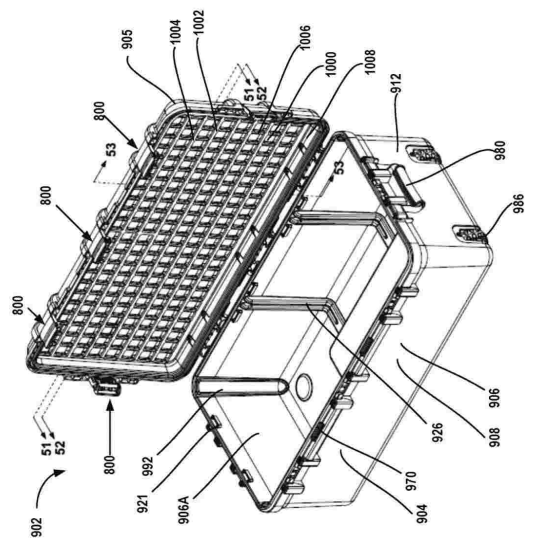
【図 4 6】



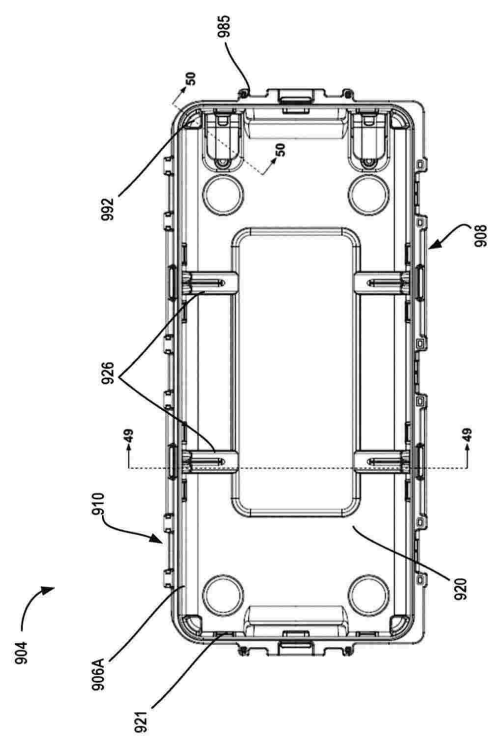
10

20

【図 4 7】



【図 4 8】

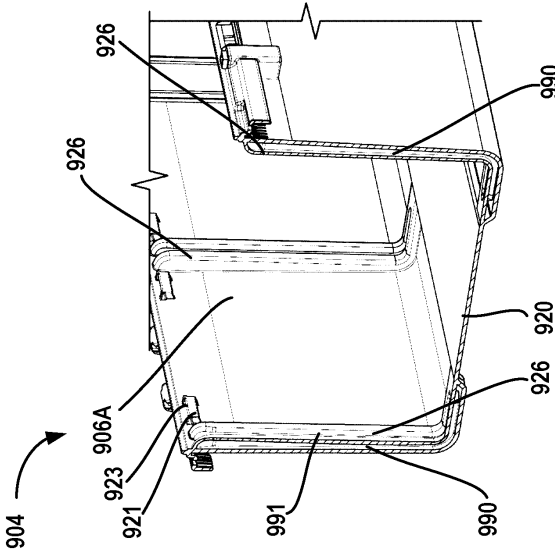


30

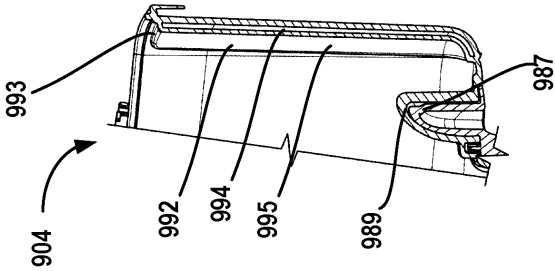
40

50

【図 49】

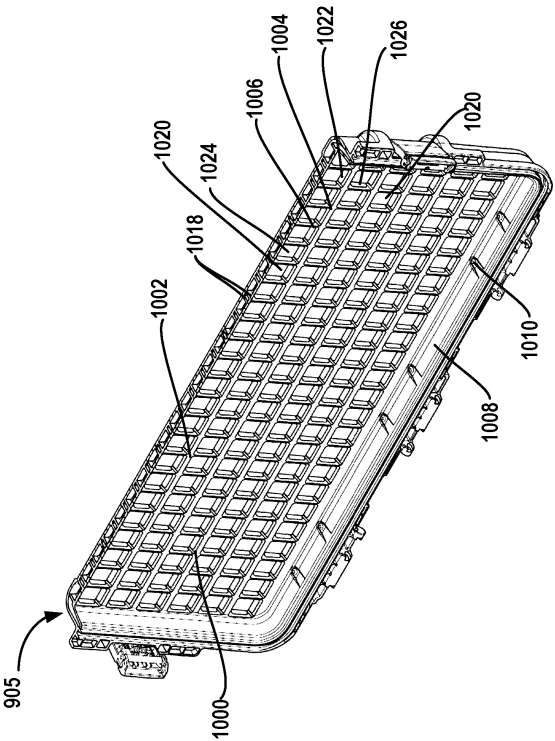


【図 50】

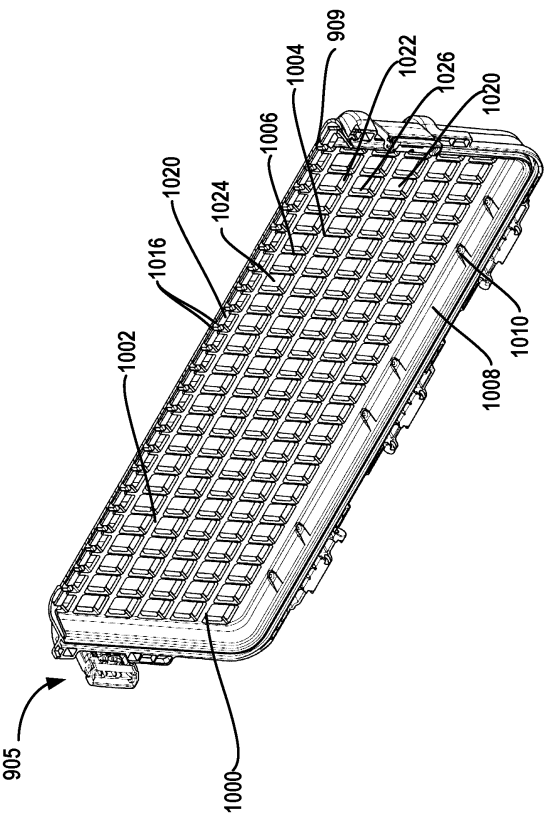


10

【図 51】



【図 52】



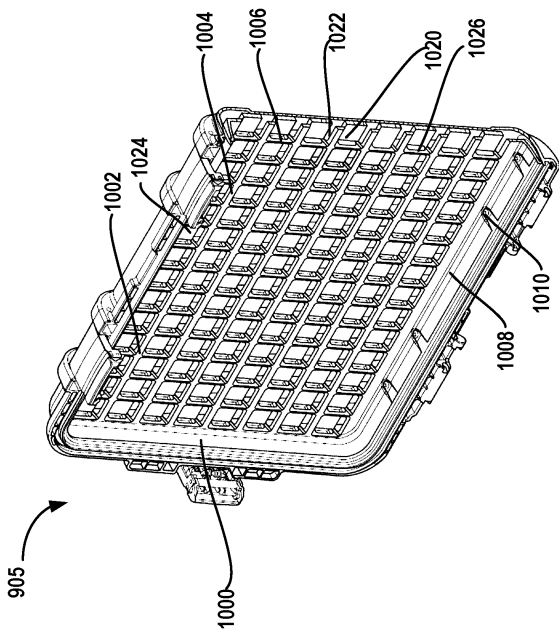
20

30

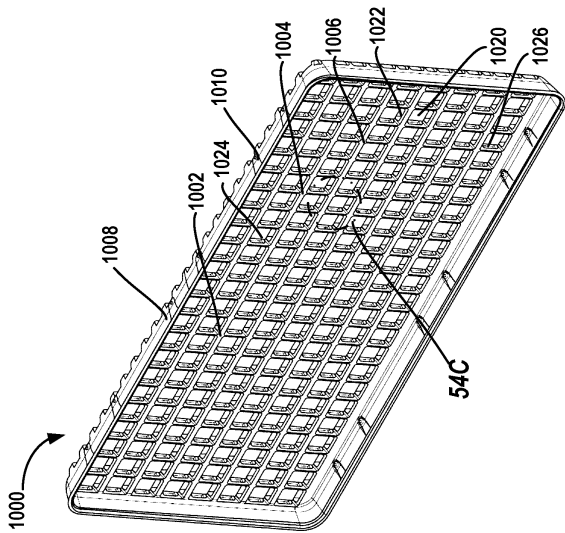
40

50

【図 5 3】

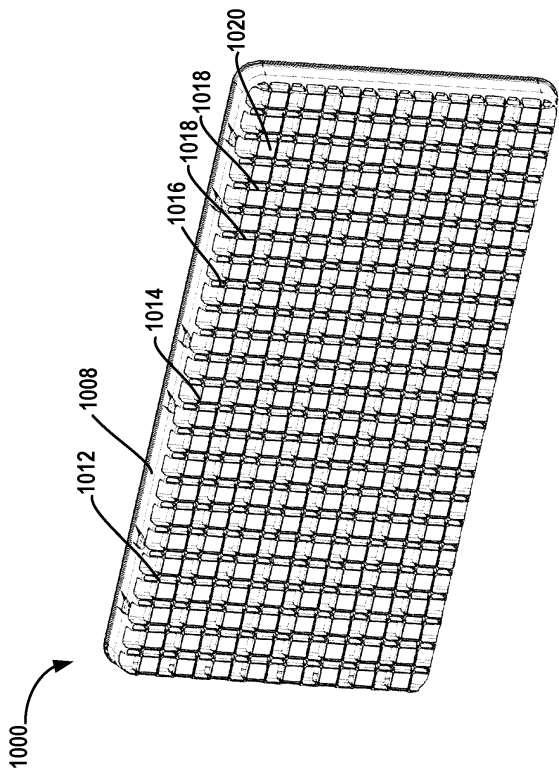


【図 5 4 A】

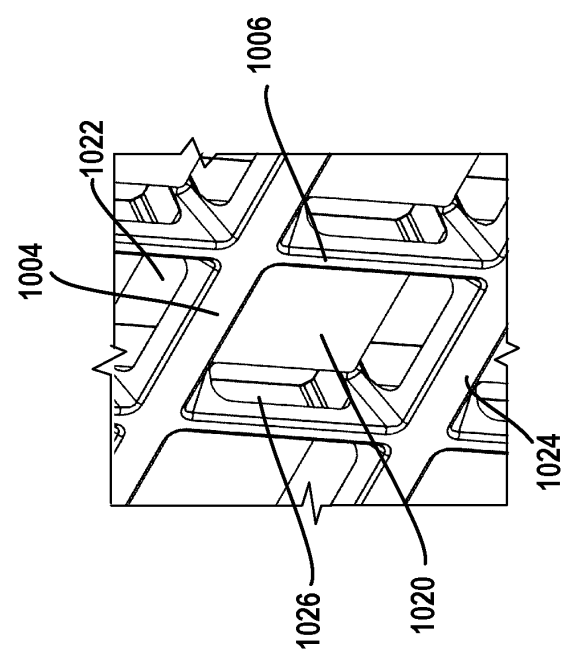


10

【図 5 4 B】



【図 5 4 C】



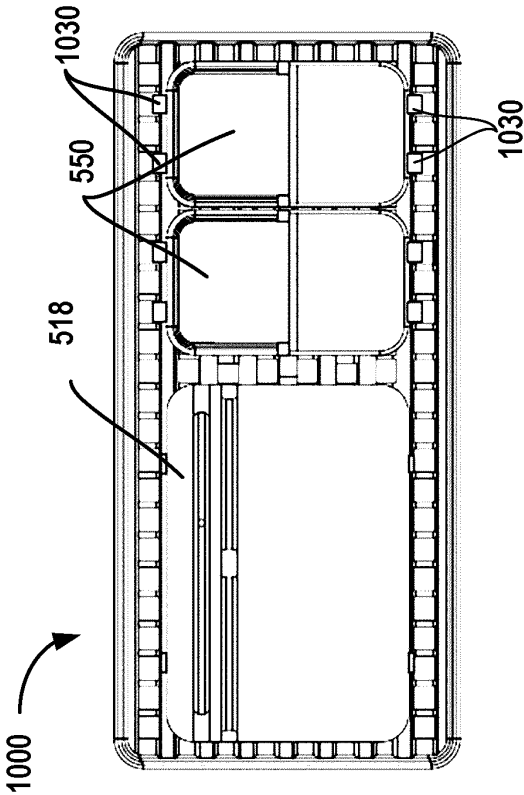
20

30

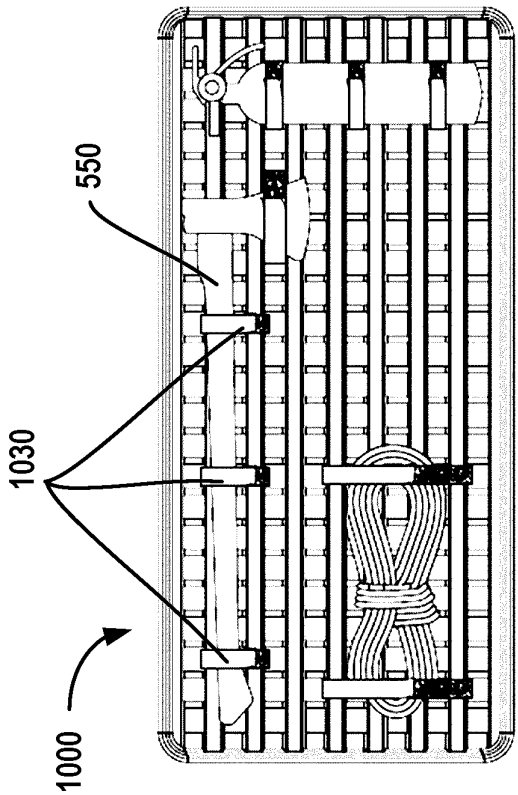
40

50

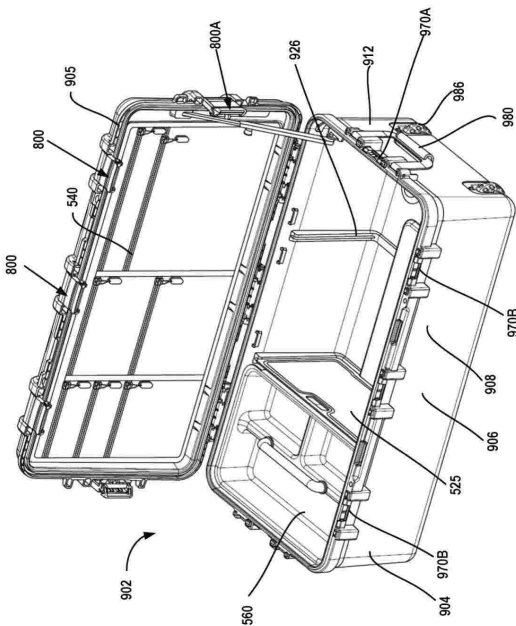
【図 5 5】



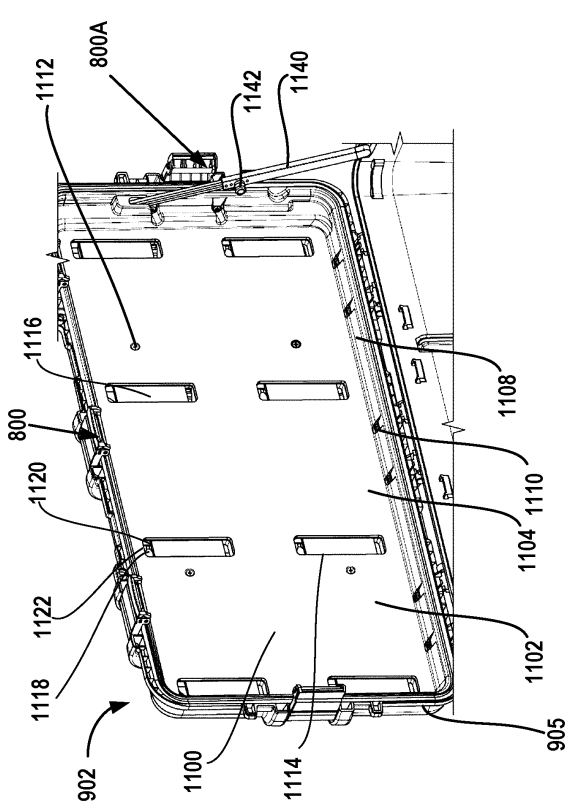
【図 5 6】



【図 5 7】



【図 5 8】



10

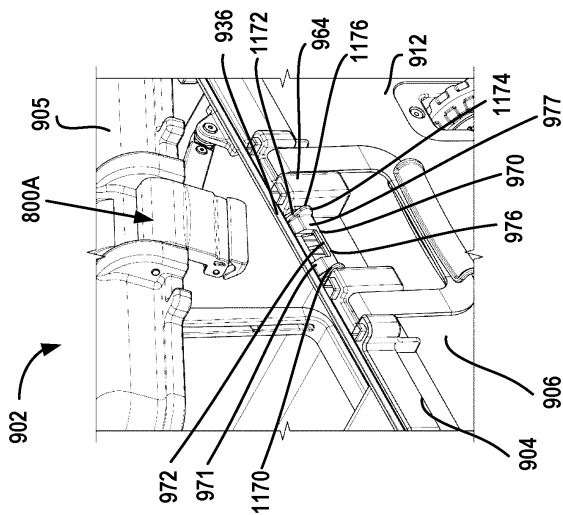
20

30

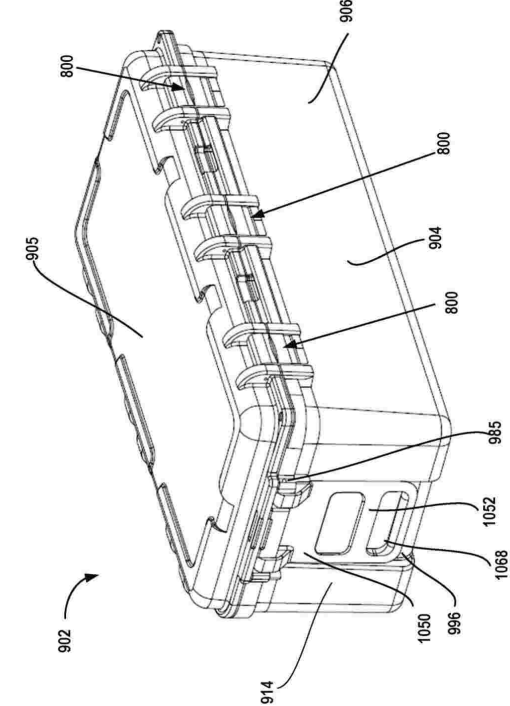
40

50

【図 5 9】



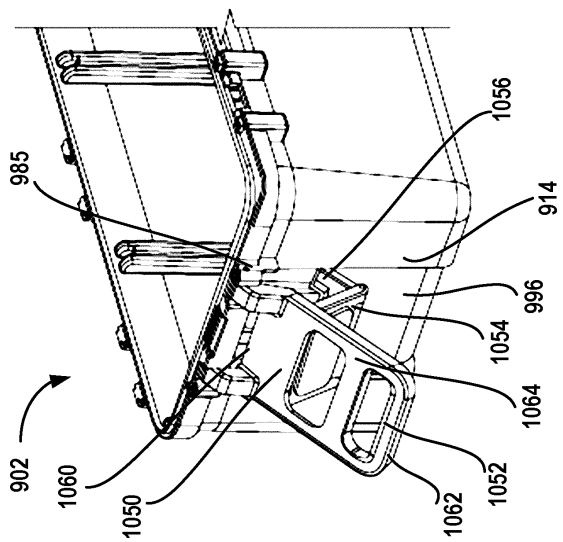
【図 6 0】



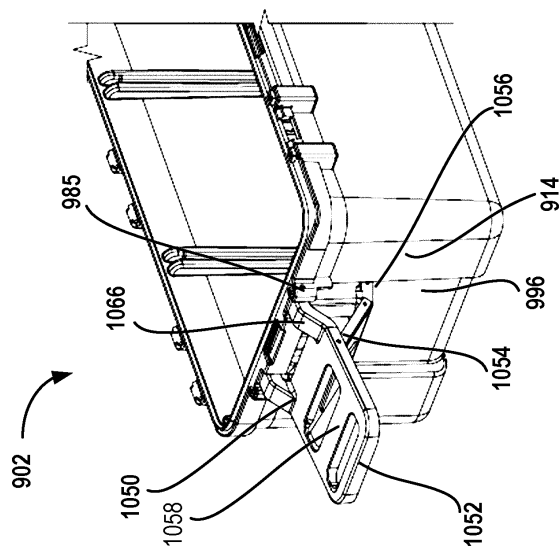
10

20

【図 6 1】



【図 6 2】

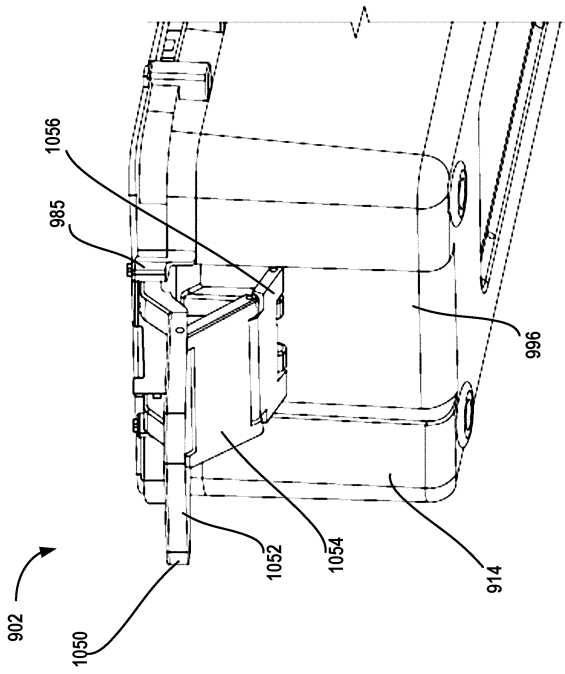


30

40

50

【 図 6 3 】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (72)発明者 サイダーズ ロイ、ジョゼフ
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 ニコルス、スティーブ チャールズ
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 エリソン、カイル
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 ボンダス、アンディー
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 ホッチキス、トビアス
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 モーリス、リザ
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 ザック、デニス
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 ニクソン、ライアン
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 レイン、マーク カールソン
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 ブランチャード、ウォルター ティー .
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 ロンバルディ 、ニコラス ジェイムズ
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 ブロック、ダスティン
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 シーズコ、マイケル クリストファー
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付
- (72)発明者 サリバン、デレク ジー .
アメリカ合衆国 78735 テキサス、オースティン サウスウェスト パークウェイ 7601、
イエティ クーラーズ、エルエルシー 気付

審査官 森本 哲也

- (56)参考文献 特表2020-523258(JP,A)
特開平11-309011(JP,A)
米国特許出願公開第2020/0214407(US,A1)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
B65D 43/22
B65D 25/28

A 4 5 C 5 / 0 3
A 4 5 C 1 3 / 0 0